

(財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第53輯

# 小田遺跡

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

1990

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

(財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第53輯

# お だ 小 田 遺 跡

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

1990

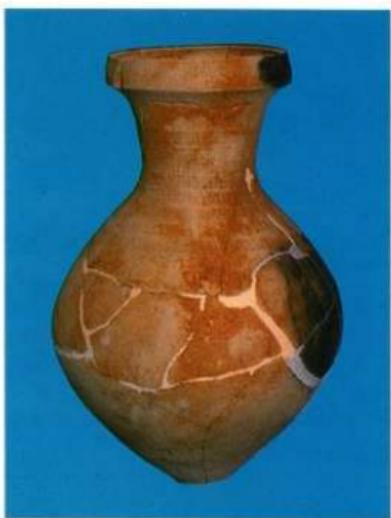
財団法人 大阪府埋蔵文化財協会



a . 007—O S 遺物出土狀況



b . 075—O R 遺物出土狀況・出土遺物



## 序 文

和泉市と岸和田市の境にある小田遺跡は東山丘陵先端の平地部にあって、松尾川と牛滝川に挟まれた水田地帯に広がっている遺跡です。二つの河川の合流点付近は現在、整然と区画された田畠となっていてかつての地形を容易に想像することはできませんが、その地下には古い時期の河川の跡が複雑な流路を形成していて、墨れ川さながらのようすがみられます。

都市計画道路岸和田南海線建設にともなった今回の調査はこの河川を東西に断ち割るような形で行なわれました。南北約400mの長い調査区内の各所に自然河川や溝の跡がみられ、そこからは縄文時代の土器や当時の食料であったトチの実などが詰った穴が発見されています。また弥生時代から古墳時代にかけての大量の土器も別の溝で発見されています。今回の調査では住居の跡は見つかっておりませんが、出土した遺物からはすぐ近くに居住地があったことはまちがいなく、この地に住み始めた人々の生活のにおいが身近に伝わってきます。この調査成果が当地域の歴史を解明する一助となれば幸いです。

本調査を実施するにあたって、大阪府教育委員会、大阪府土木部廻上木事務所、和泉市教育委員会、地元自治会をはじめとする関係者各位に多くのご支援とご協力を賜り、深く感謝しております。今後とも当協会の事業に変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成2年3月

財團法人 大阪府埋蔵文化財協会

理事長 仁賀奈 祐吉

## 例　　言

1. 本書は、都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設予定地内に所在する小田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、大阪府土木部鳳土木事務所の委託をうけ、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもとに、財團法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。
3. 現地における調査は、2年度に分けて実施した。第1次調査は昭和63年12月5日に着手し平成元年3月31日に終了し、第2次調査は、平成元年5月11日に着手し平成2年3月14日に終了した。
4. 調査は、第1次調査を技師山本 彰・佐々木好直・橋本裕行・虎間英喜、第2次調査を山本 彰・虎間英喜を担当者として実施した。
5. 調査の実施にあたっては、地元小田町会をはじめ、大阪府土木部鳳土木事務所・和泉市教育委員会の協力を得た。
6. 本書に記載する平面図の位置は、国土座標第VI系の値をkm単位で表示した。方位は座標北を示す。標高は、東京湾平均海面をm単位で表示した。
7. 遺構については、当協会の『発掘調査規程』に基づいて検出した順に番号をふり、種類については、その後ろに略号を示した。本報告書で取り扱う略号は下記のとおりである。  
OB：建物 OO：土坑 OP：ビット OR：自然河川 OS：溝 OX：不明遺構
8. 本書で用いた土壤色および土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』5版(1976)による。
9. 本書の執筆は、調査担当者および藤田憲司が担当し、文責は文末に記した。編集は、虎間が担当し山本が補佐した。
10. 本遺跡では、花粉分析・珪藻分析を実施した。これらの報告書については当協会の資料班において保管している。
11. 遺物の写真撮影および焼付は、小倉 勝が担当した。

## 本文目次

第Ⅰ章 調査の経過と調査の方法.....	1
第1節 調査の契機と経過.....	1
第2節 調査の方法.....	2
第Ⅱ章 小田遺跡の環境.....	3
第Ⅲ章 調査の成果.....	5
第1節 層序・包含層遺物.....	5
第1項 基本層序.....	5
第2項 包含層遺物.....	5
第2節 第Ⅰ調査区の調査成果	
第1項 概要.....	16
第2項 遺構各説.....	16
003-OO.....	16
006-OO.....	16
009-OO.....	16
008-OO.....	17
054-OR.....	18
002-OS.....	20
055-OR.....	20
058-OR.....	25
115-OB.....	30
007-OS.....	35
049-OO.....	40
050-OO.....	40
051-OO.....	42
052-OO.....	42
053-OO.....	44
106-OO.....	44
109-OO.....	44
114-OO.....	44
056-OS.....	44
057-OS.....	45
第3節 第Ⅱ調査区の調査成果.....	47
第1項 概要.....	47
第2項 遺構各説.....	47
075-OR.....	47
124-OS.....	53
078-OR.....	54
081-OR.....	55

083-OS.....	53
<b>第4節 第III調査区の調査成果.....</b>	<b>56</b>
<b>第1項 概要.....</b>	<b>56</b>
<b>第2項 遺構各説.....</b>	<b>56</b>
070-OO.....	56
071-OO.....	56
073-OO.....	56
068-OR.....	57
065-OR.....	59
064-OR.....	61
069-OX.....	63
062-OS.....	63
<b>第IV章 まとめ.....</b>	<b>67</b>
<b>付 遺物観察表.....</b>	<b>69</b>

## 挿図目次

第1図 調査区地区名 (1/3000).....	2	第19図 055-OR出土遺物 2 (1/4).....	22
第2図 小田遺跡位置図.....	3	第20図 055-OR出土遺物 3 (1/4).....	23
第3図 岡辺遺跡地図 (1/25000).....	4	第21図 054・055-OR出土遺物 (1/4).....	24
第4図 包含層出土遺物 1 (1/3).....	6	第22図 058-OR出土遺物 1 (1/4).....	26
第5図 包含層出土遺物 2 (1/3).....	7	第23図 058-OR出土遺物 2 (1/4).....	27
第6図 包含層出土遺物 3 (1/4・1/2).....	8	第24図 058-OR出土遺物 3 (1/4).....	28
第7図 包含層出土遺物 4 (1/2).....	8	第25図 058-OR出土遺物 4 (1/4).....	29
第8図 第I調査区平面・断面図 (水平1/300、垂直1/60).....	9・10	第26図 115-OB平面・断面図 (1/40).....	30
第9図 第II調査区平面・断面図 (水平1/300、垂直1/60).....	11・12	第27図 第III調査区上層遺構平面図 (1/200).....	31・32
第10図 第III調査区平面・断面図 (水平1/300、垂直1/60).....	13・14	第28図 007-OS平面・遺物出土状況図 (1/40).....	33・34
第11図 003・006・009-OO 平面・断面図 (1/40).....	16	第29図 007-OS断面土層図 (1/40).....	35
第12図 003・008-OO出土遺物 (1/2).....	17	第30図 007-OS出土遺物 1 (1/4).....	36
第13図 008-OO断面上層図 (1/60).....	17	第31図 007-OS出土遺物 2 (1/4).....	37
第14図 054-OR断面土層図 (1/80).....	18	第32図 007-OS出土遺物 3 (1/4).....	38
第15図 054-OR出土遺物 (1/4・1/2).....	19	第33図 007-OS出土遺物 4 (1/4).....	39
第16図 002-OS断面土層図 (1/40) ・出土遺物 (1/4).....	20	第34図 007-OS出土遺物 5 (1/1・1/2・1/4).....	40
第17図 055-OR断面土層図 (1/80).....	20	第35図 049・050・051・052・053-OO 遺物出土状況図 (1/20).....	41
第18図 055-OR出土遺物 1 (1/4).....	21	第36図 106・114-OO遺物出土状況図 (1/20).....	42

第37図	049~053・106・109・114~OO 出土遺物 (1/4).....	43	第54図	070・071・073~OO配置図 (1/100).....	56
第38図	056~OS出土遺物 (1/4).....	45	第55図	070・071・073~OO平面 ・断面土層図 (1/40).....	57
第39図	056・057~OS断面土層図 (1/40).....	46	第56図	068~OR出土遺物 (1/3).....	58
第40図	075~OR断面土層図 (1/80).....	47	第57図	068・065~OR断面土層図 (1/100).....	59
第41図	075~OR遺物出土状況図 (1/20).....	48	第58図	065~OR出土遺物 1 (1/3).....	60
第42図	075~OR出土遺物 1 (1/2).....	48	第59図	065~OR出土遺物 2 (1/8).....	61
第43図	075~OR出土遺物 2 (1/4).....	49	第60図	065~OR出土遺物 3 (1/2).....	61
第44図	075~OR出土遺物 3 (1/4).....	50	第61図	064~OR断面土層図 (1/60).....	62
第45図	075~OR出土遺物 4 (1/4).....	51	第62図	064~OR出土遺物 (1/3).....	62
第46図	075~OR出土遺物 5 (1/4).....	52	第63図	069~OX出土遺物 (1/4).....	63
第47図	124~OS断面土層図 (1/40) ・出土遺物 (1/4).....	53	第64図	062~OS断面土層図 (1/40).....	63
第48図	083~OS断面図 (1/80).....	53	第65図	062~OS遺物出土状況図 (1/20) ・出土遺物 1 (1/4).....	64
第49図	083~OS出土遺物 (1/4).....	54	第66図	062~OS出土遺物 2 (1/4).....	64
第50図	078~OR断面土層図 (1/100).....	54	第67図	062~OS出土遺物 3 (1/3).....	65
第51図	078~OR出土遺物 (1/4).....	55	第68図	062~OS出土遺物 4 (1/2).....	66
第52図	061~OR出土遺物 (1/4).....	55	第69図	調査周辺図 (1/7500).....	67
第53図	061~OR断面土層図 (1/80).....	55			

## 表 目 次

第1表 周辺遺跡地名表

## 図 版 目 次

卷頭図版 a	007~OS遺物出土状況	図版 6 a	007~OS、115~OB全景 (航空写真)
b	075~OR遺物出土状況・出土遺物	b	115~OB、114~OO近景 (西から)
図版 1	道路全景 (航空写真)	図版 7 a	007~OS近景 (西から)
図版 2 a	第I調査区全景 (航空写真)	b	007~OS近景 (南から)
b	第II調査区全景 (航空写真)	図版 8 a	007~OS遺物出土状況
c	第III調査区全景 (航空写真)	b	007~OS遺物出土状況
図版 3 a	002~OS近景 (西から)	図版 9 a	049~OO遺物出土状況
b	008~OO近景 (北から)	b	050~OO遺物出土状況
図版 4 a	054~OR、055~OR全景 (西から)	図版 10 a	051~OO遺物出土状況
b	054~OR、055~OR全景 (西から)		
図版 5	058~OR遺物出土状況		

- b 032-OO遺物出土状況  
図版 11 a 033-OO遺物出土状況  
b 114-OO遺物出土状況  
図版 12 a 034-OR、056-OS、057-OS全景  
(東から)  
b 054-OR断面  
図版 13 a 056-OS断面  
b 057-OS断面  
図版 14 a 075-OR全景 (東から)  
b 075-OR遺物出土状況  
図版 15 a 083-OS、078-OR全景 (西から)  
b 081-OR断面  
図版 16 a 070-OO、071-OO全景 (東から)  
b 070-OO断面  
c 071-OO断面  
図版 17 a 065-OR全景 (西から)  
b 遺物出土状況  
c 遺物出土状況  
図版 18 a 064-OR、062-OS全景 (東から)  
b 064-OR近景 (南から)  
図版 19 a 062-OS近景 (南から)  
b 062-OS断面  
図版 20 a 062-OS遺物出土状況  
b 062-OS遺物出土状況  
図版 21 054・055・058-OR出土遺物  
図版 22 058-OR、007-OS出土遺物  
図版 23 007-OS、050・051・052-OO  
出土遺物  
図版 24 053・106・114-OO、056  
・062-OS、075-OR出土遺物  
図版 25 a 包含層出土遺物  
b 068-OR、064-OR出土遺物  
図版 26 a 065-OR出土遺物  
b 062-OS出土遺物  
図版 27 包含層出土遺物  
図版 28 003・008-OO、054・075  
・065-OR、007-OS出土遺物  
図版 29 a 055-OR出土遺物  
b 055-OR出土遺物  
図版 30 a 075-OR出土遺物  
b 075-OR出土遺物

# 第Ⅰ章 調査の経過と調査の方法

## 第1節 調査の契機と経過

都市計画道路大阪岸和田南海線は和泉市舞町を起点とし、和泉市小田町に至る和泉市を南北に縦断する全長6020mにおよぶ道路で、昭和41年4月11日に計画決定、昭和59年10月4日に最終決定がなされた。このうち路線の南部地域である櫛尾川以南についてみると、周知の遺跡として知られる和氣遺跡が存在しており松尾川までのルートについては昭和59年度に大阪府教育委員会によって発掘調査がなされている。<sup>註1</sup>

ところで、松尾川以南の工事が具体化されるにつれ、その後の遺跡の取り扱いが問題となってきた。昭和61年に発行された『大阪府文化財分布図』では、松尾川以南は輕部池西遺跡まで遺跡は周知されておらず、磯ノ上山直線をはじめとする隣接地区の遺跡の分布密度からみても当然のことながら遺跡の存在が予測された。このため大阪府教育委員会と大阪府土木部は協議を行い当該地区については試掘調査を実施することで合意に達し、昭和62年度に大阪府教育委員会によって実施された。この結果、櫛尾川の氾濫原を除いて府道磯ノ上山直線までの区間約460mについては小田遺跡として周知されるに至った。

その後、大阪府教育委員会と大阪府土木部は協議を行い遺構および遺物が検出された路線の全域にわたって全面調査を実施することで合意に達するとともに発掘調査事業そのものが関西新空港に関連した事業との位置づけがなされた。このため発掘調査は大阪府土木部鳳土木事務所の委託によって財團法人大阪府埋蔵文化財協会が実施することになった。

発掘調査は、調査面積が大規模であることから2年度にわたって行うこととなり、第1次調査は、昭和63年12月5日に掘削を着手し、平成元年3月31日に終了した。第2次調査は、平成元年5月11日に着手し、平成2年3月14日に終了した。遺物整理は、発掘調査期間中と併行して実施し、報告書の刊行にこぎつけた。

なお現地での調査では、地元和泉市教育委員会をはじめとして関係各位の絶大なる援助を受けるとともに自然遺物については大阪市立大学教授粉川昭平先生の御指導を得た。

(山本)

註

註1 大阪府教育委員会 「和氣遺跡発掘調査概要報告書」 昭和60年

註2 大阪府教育委員会 「大阪府文化財分布図」 昭和61年

## 第2節 調査の方法

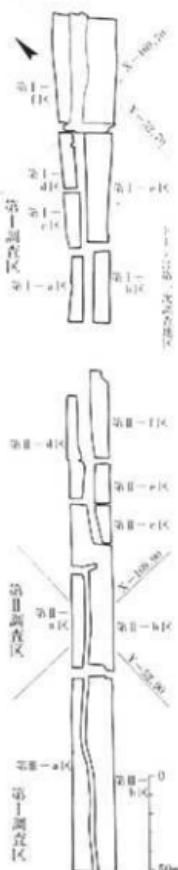
発掘調査は、道路・里道・水路によって数多く分断されている。このため調査にあたっては、第1次調査・第2次調査をそれぞれI・IIと略し、その後ろにアルファベットの小文字を付することによって各々の調査区を呼称することとした。

調査区の地区割は、大阪府発行の1/2500地形図を基本としてこの地図を12等分し500mの方形区画をつくり、AからLまでの区画をつくり、次にこの方形区画を25等分して100mの方形区画をつくり01～25までの数字によって表記することとした。さらに100m区画を625等分して1辺4mの方形区画をつくり縦方向にA～Y（北→南）、横方向にA～Y（西→東）のアルファベットを与えた。区画を表す場合は縦方向を優先することによって地区名を与えた。詳細については当協会が定める『発掘調査規程』によられたいが、遺物の取り上げや現地における実測作業にあたってはこの最終区画を基本としている。

調査は表土層の機械掘削が終了した後、国土座標法による新平面直角座標系を基本として、3級杭および4級杭を打設して先に示したように4m×4mの区画を設定した。

その後、人力掘削に着手したが、まず排水溝の役割を兼ねた断面観察用の側溝をそれぞれの調査区に設定し、土層の堆積状況を確認しながら層毎の掘削を実施した。この間最終遺構面までに検出された遺構については調査担当者および調査補助員が実測し、最終面については、ヘリコプターによる航空撮影を実施し1/20による実測図を作成した。

遺構は検出した順に番号を与え当協会が定める略号を用いて表記した。なお、里道および水路についても大阪府教育委員会が必要と認めた範囲については里道・水路を付け替えることによって調査を実施し、遺漏のないように留意した。 (山本)



第1図 調査区地区名  
(1/3000)

註 財団法人大阪府埋蔵文化財協会 『発掘調査規程』 昭和61年

## 第II章 小田遺跡の環境

小田遺跡は和泉市小田町に所在する。和泉市は大阪府南部に位置し、南を和歌山県と接している。当遺跡は大阪府と和歌山県の県境を東西に走行する和泉山脈から派生した松尾川と牛滝川が形成した東山丘陵の先端部および河岸段丘上に位置している。標高はおよそ20m前後を測る。



第2図 小田遺跡位置図

小田遺跡は昭和62年に新規発見された遺跡であるが、周辺には從来から多くの遺跡の存在が知られていた。縄文時代では当遺跡に隣接する軽部池西遺跡において土坑や自然河川跡から縄文時代後期を中心とする土器が多く検出されている。また山ノ内遺跡（B地区）においては土器棺墓、土坑等の遺構が検出されるとともにサヌカイト製の石器それらの未製品や鉗片が遺構や包含層から多量に検出されている。その他にも後期から晩期にかけての土器や土偶、黒曜石、メノウ、ヒスイ製の石器や石製品等が検出されている。

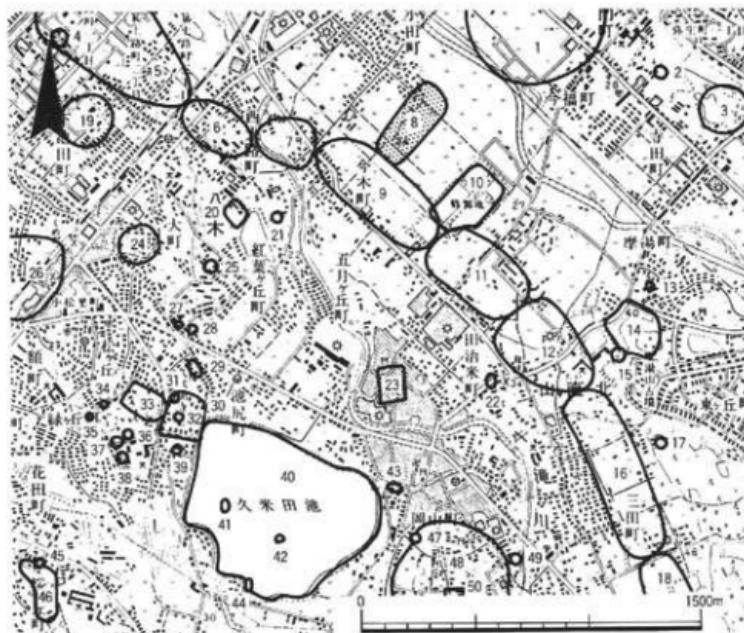
弥生時代では前期から後期にかけての遺物を出土し、長期にわたって集落が営まれたと推測される田治米宮内遺跡が南西方向約1kmの地点に存在する。弥生時代中期・後期の住居跡は周辺で多く確認されているがいずれも数棟からなる小さな集落であったとみられる。中期のものとしては山ノ内遺跡（B地区）や松尾川の対岸に位置する和氣遺跡において、後期から後期末（庄内期）にかけてのものとしては今木遺跡や山ノ内遺跡（A地区）、西大路遺跡等で検出されている。また和氣遺跡においては中期の水田跡も検出されている。

古墳時代前期（布留期）の集落跡はあまり確認されていない。しかし、東山丘陵の先端部には4世紀後半に比定される全長200mを測る前方後円墳の摩湯山古墳が存在し、また同古墳の西側に位置する三田遺跡においては同時期の土坑墓群が検出されており、付近に集落の存在が推測される。古墳時代後期になると集落跡が広範囲に認められるようになる。山直北遺跡、三田遺跡等においては5世紀後半から6世紀前半に比定される竪穴住居跡が検出されている。掘立柱建物も並存し竪穴住居は6世紀後半まで存続している。

飛鳥・奈良時代では山直北遺跡において官衙的色彩の強い遺構が検出されている。また

軽部池は奈良時代の文献にみられる「輕郷六塘」に当たるものと考えられている。

中世の集落跡は和氣遺跡、三田遺跡、上フジ遺跡等で検出されている。  
(虎間)



第3図 周辺遺跡地図 (1/25000)

第1表 周辺遺跡地名表

1 和氣遺跡	14 摩湯山古墳	27 下鶴羽遺跡	40 久米田池
2 狐塚古墳	15 馬子塚古墳	28 豆尻古墳	41 久米田池内遺跡
3 守門古墳・古墓	16 三田遺跡	29 佐尻町遺跡	42 久米田池須恵窯跡
4 大鶴堂跡	17 東山古墳	30 久米田寺跡	43 岡山矢取遺跡
5 箕土路遺跡	18 上フジ遺跡	31 光明塚古墳	44 岡山八ツ川遺跡
6 西大路遺跡	19 下池田遺跡	32 久米田寺境内	45 狐塚古墳
7 今木遺跡・今木庵寺	20 今木城跡	33 貝吹山古墳	46 狐塚遺跡
8 小田遺跡	21 丸山古墳	34 志阿弥法師塚古墳	47 狐塚古墳
9 軽部池西遺跡	22 田治米宮内遺跡	35 長坂古墳	48 岡山遺跡
10 軽部池	23 田治米廻寺	36 無名塚古墳	49 川原古戦出土地
11 山ノ内遺跡	24 八木城跡	37 風吹山古墳	50 岡山御坊跡
12 山北遺跡	25 大町遺跡	38 女郎塚古墳	
13 イナリ古墳	26 小松里廻寺	39 佐尻円筒棺出土地	

## 第III章 調査の成果

### 第1節 基本層序・包含層遺物

#### 第1項 基本層序

基本層序は出土遺物による時期を基準に設定した。

第1層は、現代の耕作土および盛土である。

第2層は、近世の耕作土および近世の遺物を含む層である。

第3層は、中世の耕作土および中世の遺物を含む層である。

第4層は、弥生時代中期の遺物を含む層である。第III-a・b調査区にのみ存在する。

約20cmの堆積が認められる。黄灰色系の砂混じりシルトである。遺構検出面上では不定形な土坑状を呈するが、埋土と第4層に差が認められないことから検出面上のくぼみに堆積したものとみなし、当初現地で遺構出土遺物として取り上げた遺物も今回第4層出土遺物と改めた。

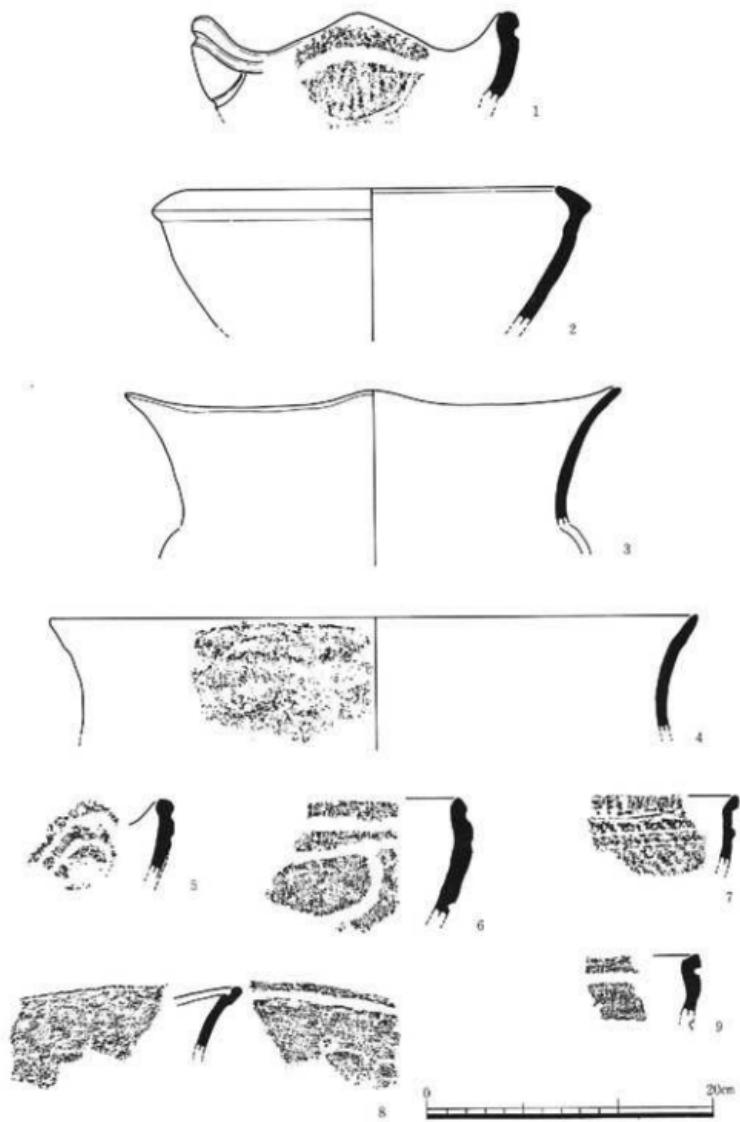
第5層は、縄紋時代晚期の遺物を含む層である。第III-a調査区にのみ存在する。約10～30cmの堆積が認められる。黄灰色系の粘質シルトである。

第6層は、第I-e調査区のトレンチ調査により検出した層を仮称したものである。炭化物を含む砂層からなる層である。縄紋時代前末期の土器や石器を含んでいる。自然河川や谷地形等の埋土であるかプライマリーな包含層であるかは不明である。 (虎間)

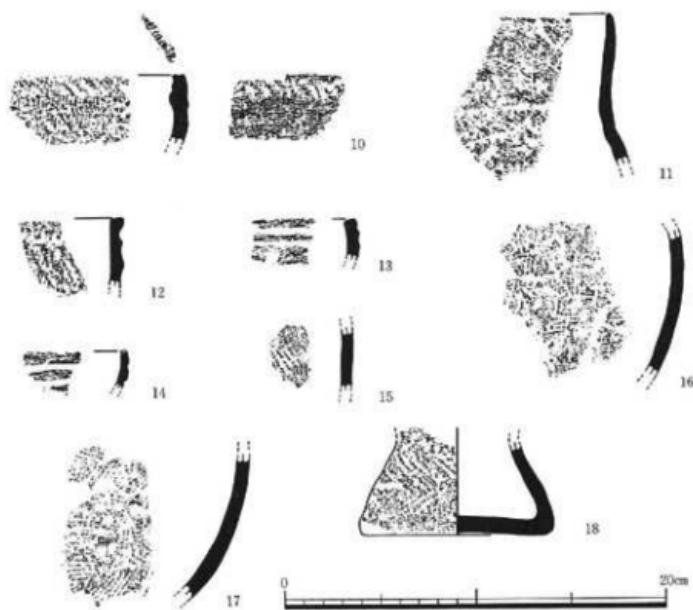
#### 第2項 包含層出土遺物（第4～7図、図版25・27）

包含層出土の縄紋土器は図示資料を含め約30点以上出土している。自然河川部分での出土が多く、とくに前期から中期の資料は第I-b・e調査区で、晚期の資料は068・065-OR付近に多く認められた。

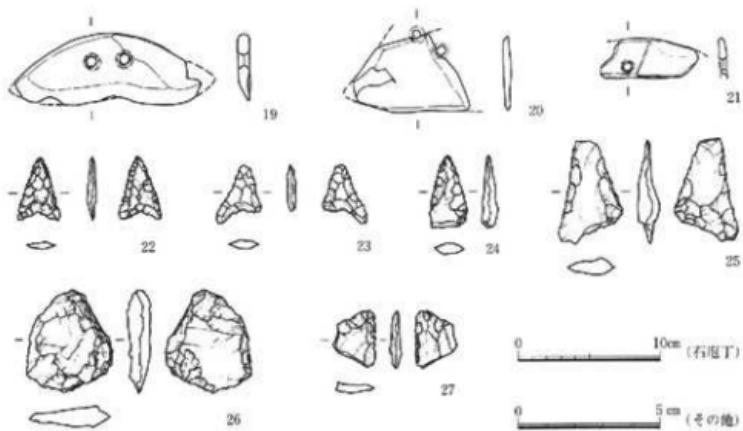
各時期のものがあり、器表面が磨滅しているものが多い。7・10・12・18は第I調査区で出土している。7は口縁部外面にキザミを持ち、直下の突帯の上に半裁竹管の押し引きによるキザミを施している。10は口縁部外面に縄紋を施し、口縁端部上面にキザミを加えている。口縁外面の直下には厚みの薄い突帯をつけ、その上を半裁竹管によるキザミを施している。18の底部は外面に羽状縄紋を施している。以上の土器は前期末および、前期末から中期初頭に位置付けられる。12は燃りの太い縄紋を施した後、口縁直下にキザミを



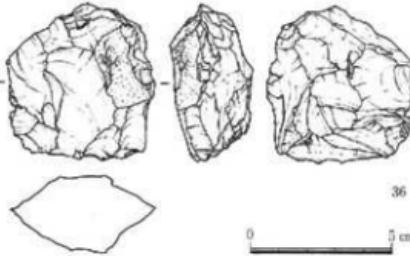
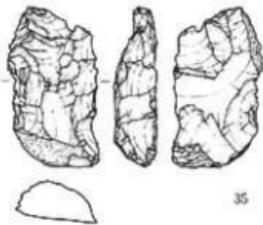
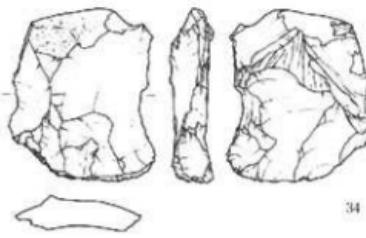
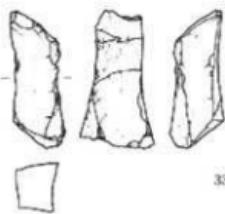
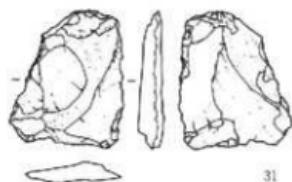
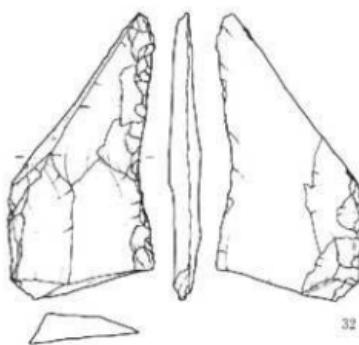
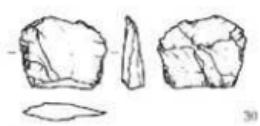
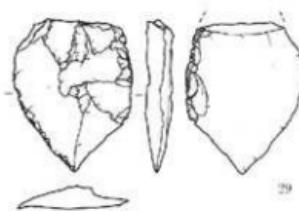
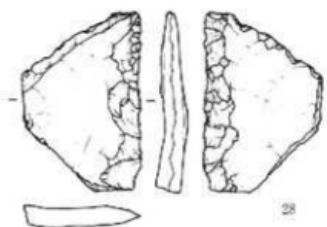
第4図 包含層出土遺物 1 (1/3)



第5図 包含層出土遺物2 (1/3)

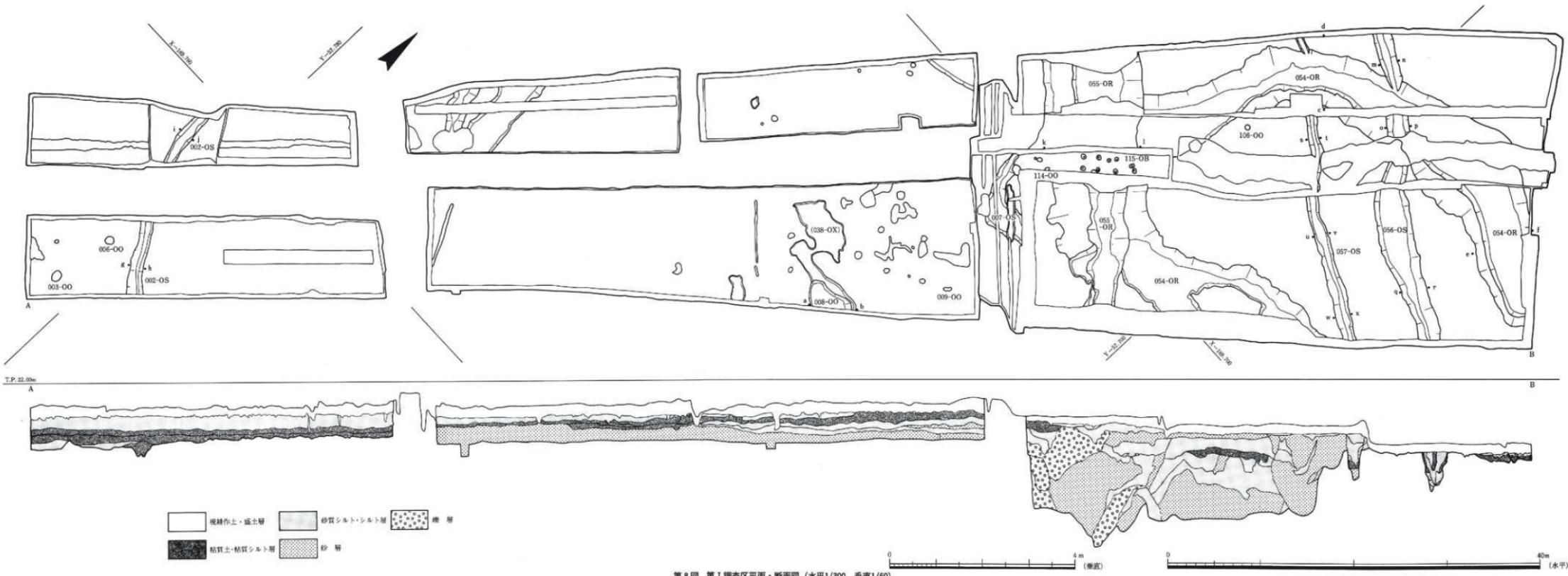


第6図 包含層出土遺物3 (1/4 + 1/2)

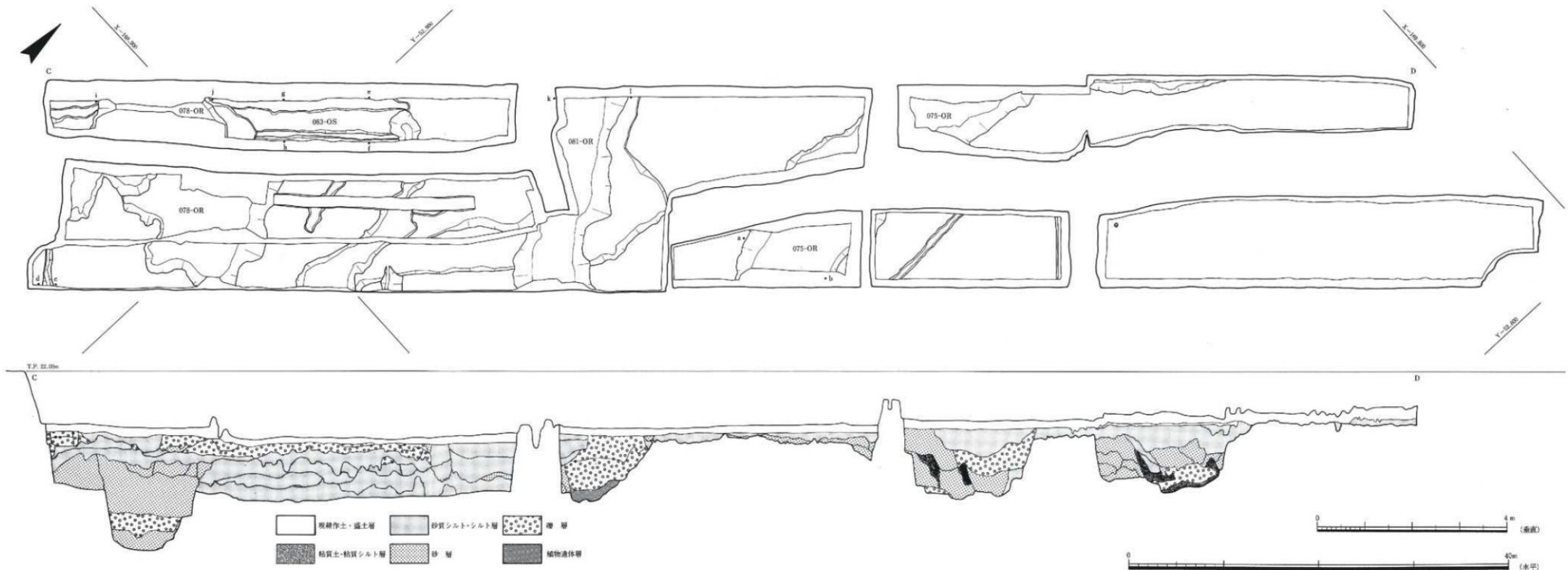


0 5 cm

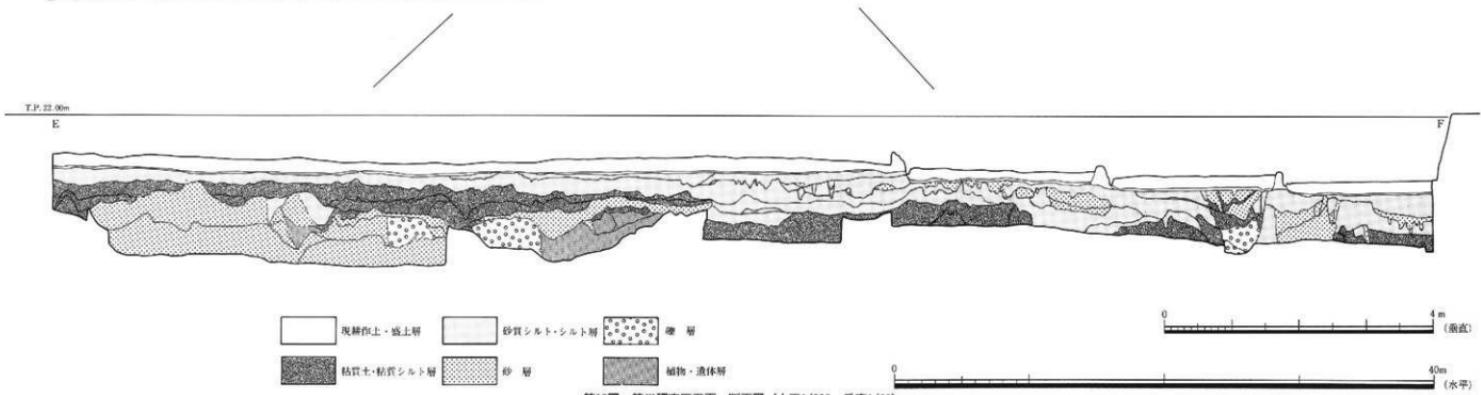
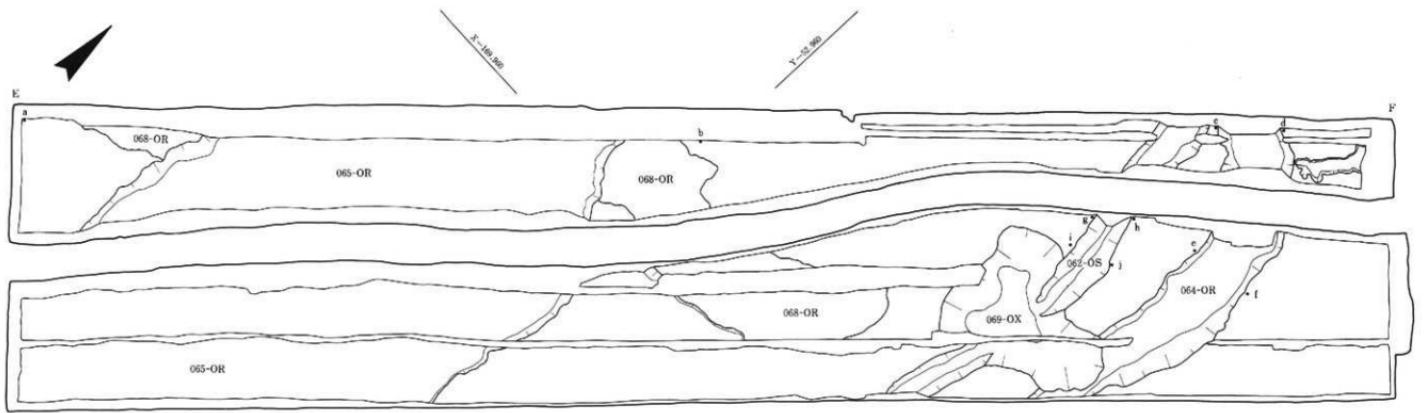
第7図 包含層出土遺物4 (1/2)



第8図 第I調査区平面・断面図(水平1/300、垂直1/60)



第9図 第II調査区平面・断面図(水平1/300・垂直1/60)



第10図 第III調査区平面・断面図 (水平1/300、垂直1/60)

施している。中期前半の土器である。

1・6・8・9・11・13～17は第Ⅲ調査区の出土で後期および晩期の土器である。1は太い縄紋を施す明褐色の土器で、横方向の太い沈線紋を持つ口縁部とともにやや古い様相を持っている。15～17は細い縄紋を施す。15の縄紋は乾いた器面に浅く施されているもので、前期に属する可能性も持っている。3・11・17は金雲母を顯著に含み、河内系の土器である可能性がある。

弥生土器では第4層の存在から中期の遺物が後期の遺物より多くみられる。前期の遺物は認められない。量的には小量である。

古墳時代の遺物はあまり多く存在しない。特に前期の土師器は認められず、中、後期の須恵器も多くは認められない。

奈良平安時代の遺物も多くは存在しない。

包含層出土遺物の大半が中世に属する遺物である。なかでも瓦器碗・皿が目立って多い。瓦器碗の中でも内面の全体にヘラミガキを施したものや斜格子状のヘラミガキを施したものより、平行線状のものや螺旋状のヘラミガキを施したものの方が多くみられる。各種の羽釜や鉢も多くみられる。

包含層出土石器 包含層から石器および剝片等を多数検出した。旧石器時代に属するとみられるものは認められない。その多くは縄紋時代の所産と考えられる。サスカイト製石器、剝片は第I-b・e区に比較的多くみられた。

19～21は石庵丁である。19・20は直線刃半月型である。ともに片刃である。21は刃部を欠損するが、前2者と同型と思われる。

22～25は石鎌である。22・23は二等辺三角形状の平面を呈する凹基式の石鎌である。両側縁部は、22がやや外湾し、23がやや内湾する。23は剝離面の磨滅が著しい。24は基部の調整がしっかりしていないため未製品の可能性がある。25は積極的には肯定できないものの未製品の可能性を考慮しておく。

28はスクレイバーである。横長剝片を素材とした、台形状の平面形を呈するスクレイバーである。刃部は両面調整でやや内湾気味である。

27・29～32は二次調整のある剝片である。29は左面左側縁部に使用痕が認められる。31は両面に自然面を残す。27は石鎌、32はスクレイバーの未製品の可能性も考えられる。

33～36は石核である。34・35・36は自然面を残す。

(藤田・橋本・虎間)

## 第2節 第I調査区の調査成果

### 第1項 概 要

第I調査区はさらに大きく6区に分けて調査を実施した。調査区の呼称は第1図に示す通りである。

縄文・弥生時代の遺構はb区の西側やe区の東側において円形や不定形を呈する土坑状の遺構を検出した。しかしe区におけるそれらの中には不定形で掘形が明瞭でなく遺物を含んでいないものも有り、樹根の痕跡とみられるものも存在する。

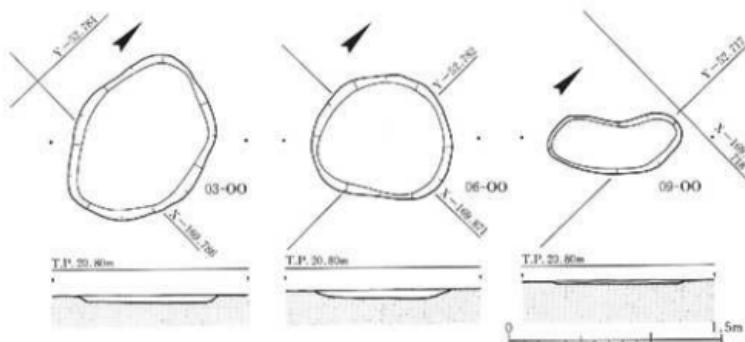
弥生時代の遺構はb区において溝を、f区においては自然河川を検出した。f区の自然河川は古墳時代前期のものを含め3条を検出した。当初は2条の重複する自然河川という認識のもとに掘削を進めていたが途中、埋土や遺物内容の変化、断面土層の観察から3条の自然河川が重複していることが判明した。そのため遺物の取り上げに一部混同がみられた。今回の報告に際し、出土地点や遺物の時期等を考慮し遺構間の調整を計った。以下次の通りである。弥生時代後期前半の自然河川を054-OR、弥生時代後期後半の自然河川を055-OR、古墳時代前期の自然河川を058-ORとした。

古墳時代の遺構はf区においてのみみられた。掘立柱建物、溝、土坑、自然河川を検出した。

(虎間)

### 第2項 遺構各説

003・006・009-OO (第11・12図、図版28)



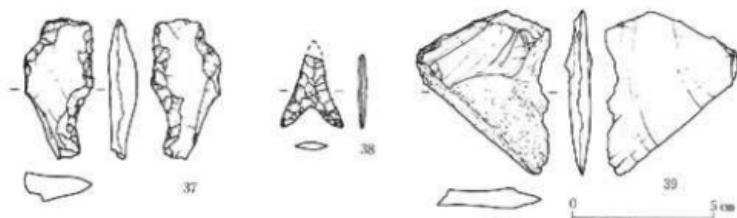
第11図 003・006・009-OO平面・断面図 (1/40)

003・006-OOはb区、009-OOはe区においてそれぞれ検出した土坑である。

いずれも1m前後の円形もしくは不整円形を呈し、深さは0.1mを測る。埋土は灰黄褐色砂混じりシルトである。サヌカイト製の石器や剝片を検出した。

37は003-OO出土のサヌカイト製のスクレイパーである。横長剝片を素材として、刃部は交互剝離である。

これらの土坑は、出土遺物から縄文時代もしくは弥生時代に比定されるものと考えられる。しかし遺構の深さが0.1mと浅いことから、微地形やレンズ状の滲り等の自然的な痕跡である可能性も考えられる。



第12図 003・008-OO出土遺物 (1/2)

#### 008-OO (第12・13図、図版3)

008-OOはe区、C13GS周辺において検出した土坑である。不定形な平面形を呈し一部は調査区外に延びている。検出長11.3m、深さ約0.35mを測る。検出当初は008-OOと038-OXの別の遺構としていたが、掘削時の観察により同一遺構内の堆積と認識した。埋土は主に灰黄褐色系の砂質シルトである。埋土には炭化物を多く含み、遺構の最深部には草科の植物遺体が堆積していた。埋土中よりサヌカイト製石器や剝片を検出した。

38はサヌカイト製の石器である。二等辺三角形状の平面形を呈し、凹基式である。両側縁部はやや内湾し、細かい押圧剝離が施されている。39はサヌカイトの横長剝片である。

出土遺物より縄文時代もしくは弥生時代に比定されるものと考えられる。



第13図 008-OO断面土層図 (1/60)

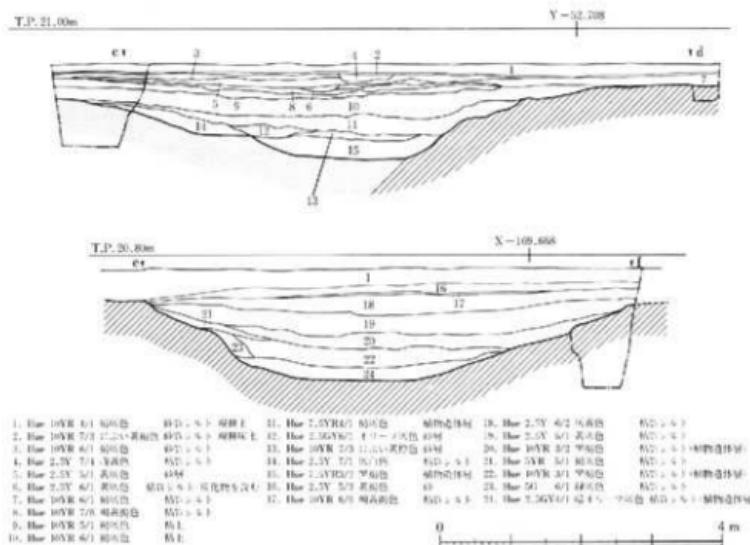
054-OR (第14・15図、図版4・12・21・28)

054-ORはf区において検出した自然河川である。幅は5.7~7.0mを測り、走行方向はe区の東端から西端にかけて「C」の字状に大きく蛇行している。深さは最深部でおよそ1.6mを測る。埋土は大きく2~3層に分かれる。上層は黄灰色系の砂質シルト、中層は植物の種子や葉の堆積、下層は砂層あるいは植物遺体を含む暗灰色系の粘質土である。堆積状況から長期間の流水とともに徐々に堆積したものとみられる。

054-ORは055-OR、058-ORと一部重複しているが、検出状況から054-ORが最も古く、055-OR、058-ORの順と考えられる。

遺物は僅かであるが検出した。40は壺である。口縁部端面に2条の波状紋とその間に角度の狭い扇形紋を配している。弥生時代中期の所産。41は甕である。埋土最上層からの出土である。口縁部は受口状を呈し、体部外面に粗いタタキを施す。暗褐色を呈し、胎土に雲母が観察されることから河内地方からの搬入品とみられる。弥生時代後期前葉の所産。

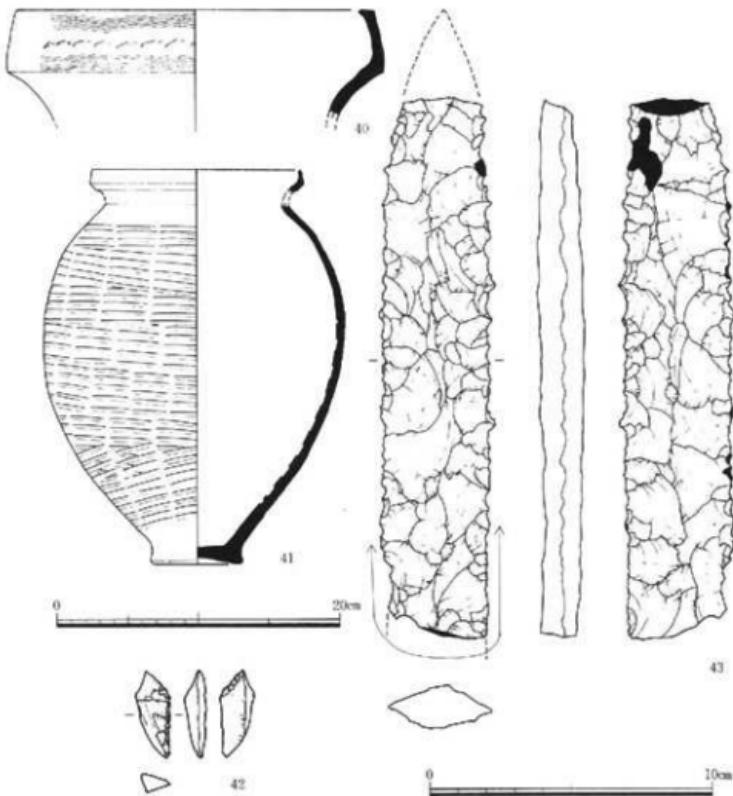
43はサヌカイト製の打製石剣である。現存長19.1cm、最大幅3.8cm、厚さ1.5cm、重量147.6g。先端部を欠損する。両側縁部より比較的大きな剝離面を形成しながら形を整え



た後、細かい剝離調整を施して刃部を整形している。基部より切先部に向かって長さ4.0cmの両側縁部には刃が作られていないことから、この部分が柄の装着部分にあたるものと思われる。（矢印の範囲）。刃部は左面右側縁部の凹凸が顕著で鋸歯状を呈している。両面とも縞がとおり、断面は菱形となる。弥生時代中期の所産と考えられる。42はサスカイト製の刀器である。剣菱形の平面形を呈し、左面右側縁部に刃部を有する。刃部は片面調整で上半部と下半部で剝離調整の方向が異なっている。

054-ORは出土遺物から弥生時代中期に比定される。そして後期前葉にかけて、徐々に埋没したと推測される。

（橋本・虎間）



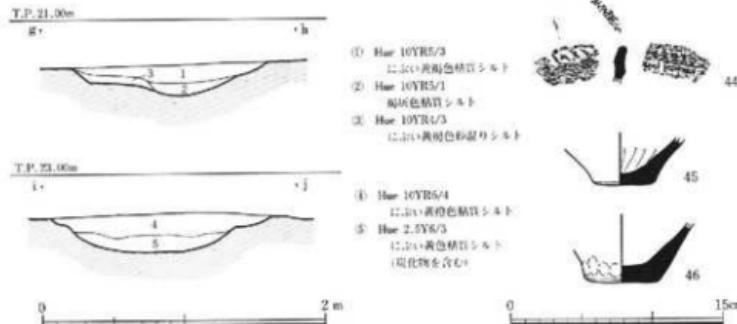
第15図 054-OR出土遺物 (1/4・1/2)

002-OS(第16図、図版3)

002-OSはa・b区において検出した溝である。やや弧を描くように南から北に向かい走行する。幅約1.5m、深さ約0.3mを測る。埋土は主に黄褐色系の粘質土で、炭化物を含む。

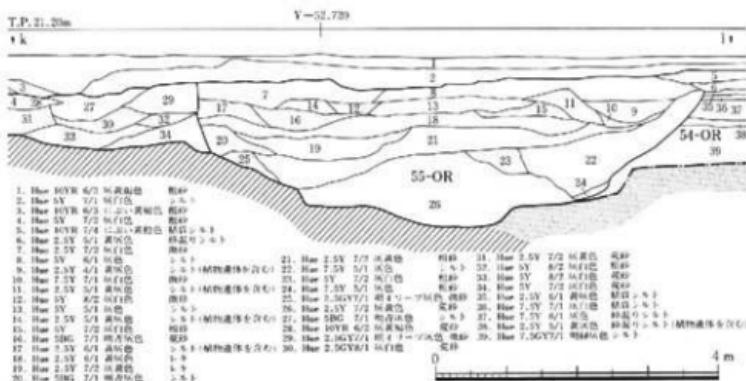
縄紋土器・弥生土器を検出した。44は縄紋時代中期初頭の深鉢の口縁部である。45・46は弥生時代後期の底部片である。図示できなかった遺物の中にはタタキを施した斐の体部片がある。

002-OSは出土遺物から弥生時代後期に比定される。

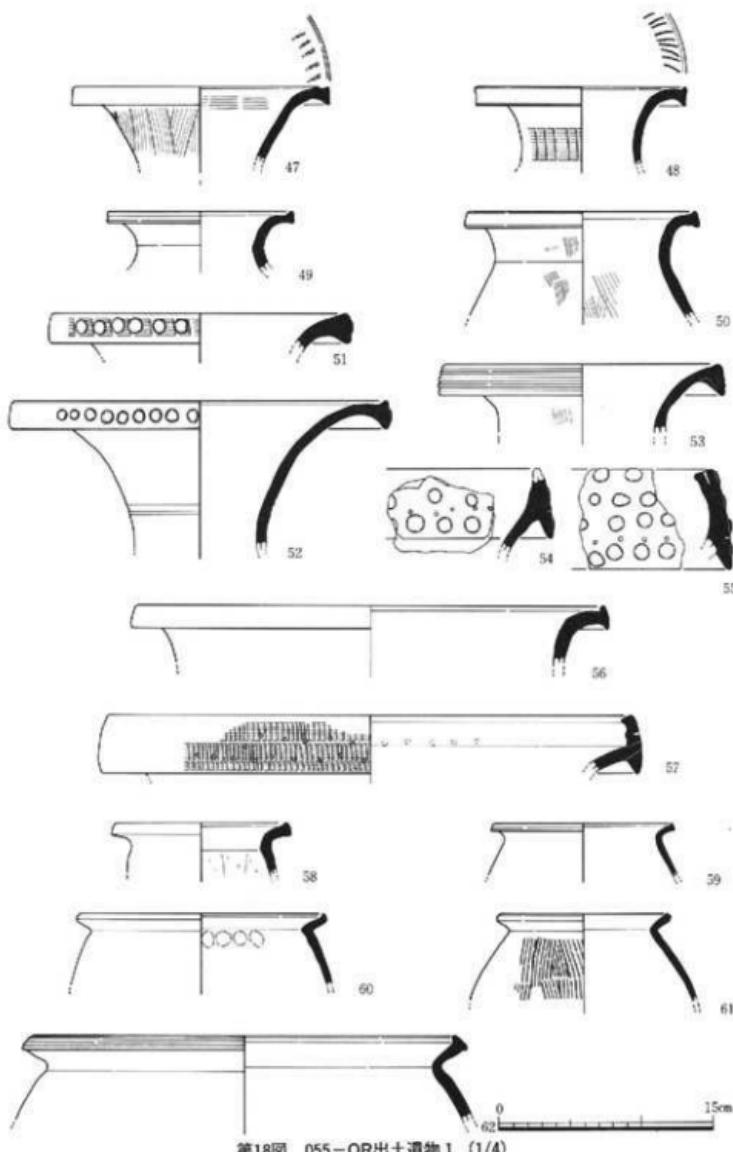


第16図 002-OS断面土層図 (1/40)・出土遺物 (1/4)

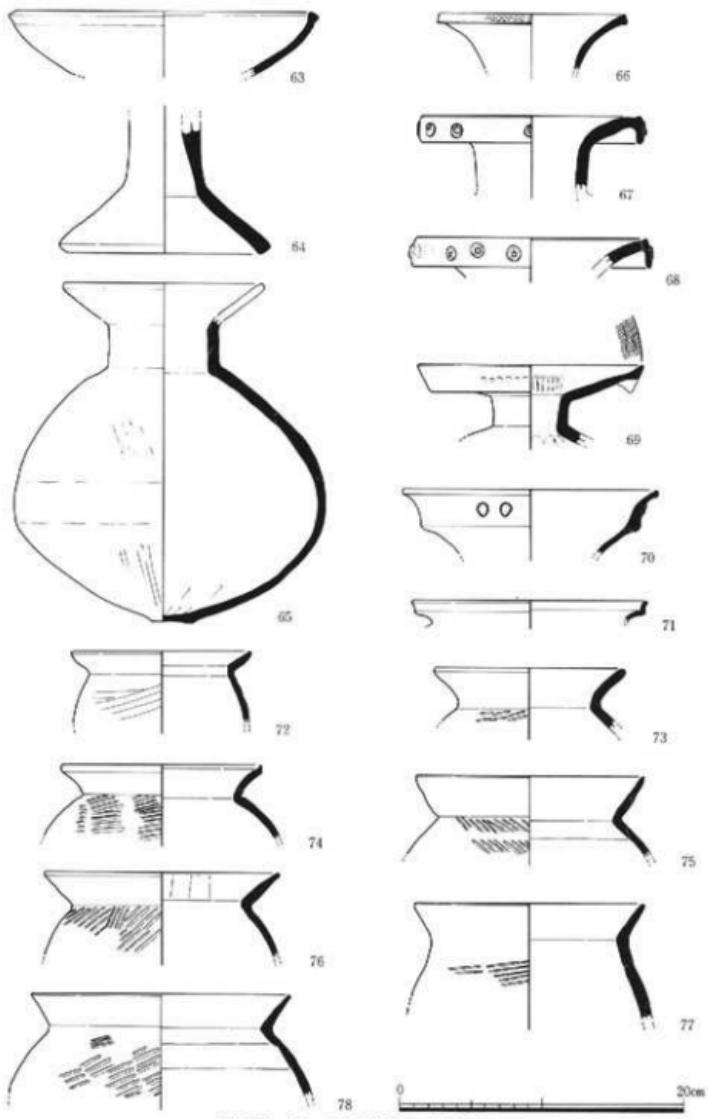
055-OR (第17~21図、図版4・21・29)



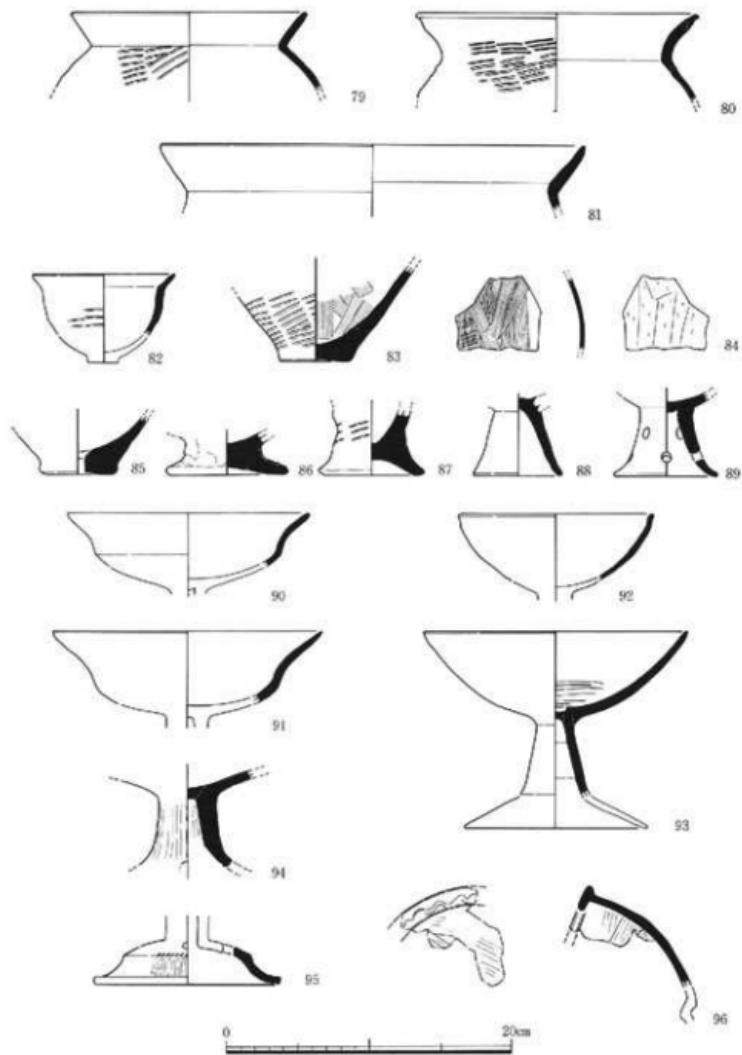
### 第17図 055-OR断面土層図 (1/80)



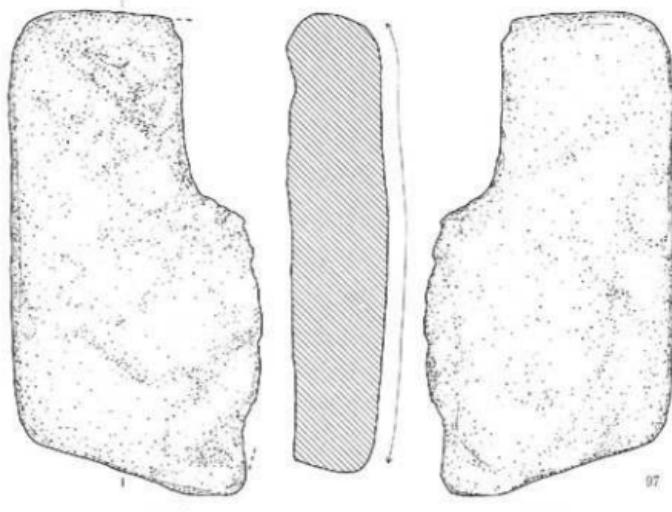
第18圖 055-OR出土遺物1 (1/4)



第19図 055-OR出土遺物 2 (1/4)

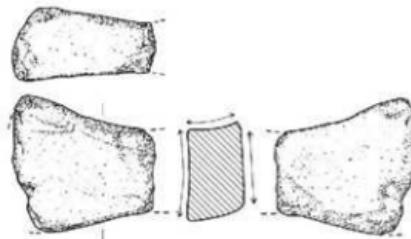


第20図 055-OR出土遺物 3 (1/4)

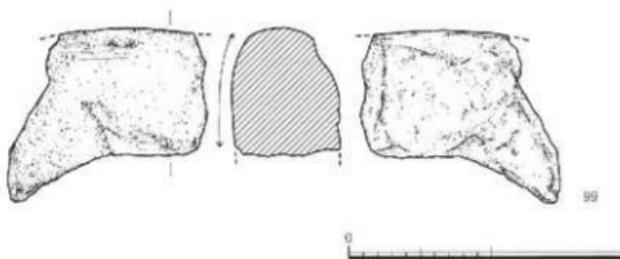


(A面)

(B面)



98



0 20cm

第21図 054・055-OR出土遺物 (1/4)

055-ORはf区の西半部において調査区を横断するかたちで検出した自然河川である。幅約10.1m、深さ約2.2mを測る。埋土はその大部分が砾と砂からなり、状況から短時間に埋没したとみられる。上層は後に058-ORによって削られている。遺物を多量に検出した。

47~64は弥生時代中期の遺物である。

65~96は弥生時代後期末葉の遺物である。65~70は壺である。65は口縁部を欠損している。頸部は短く直立しており、体部は下膨れ状の球形を呈し、底部は小さくやや上げ底を呈しあんど突出していない。体部の外面調整は上半部にはハケの後ナデを施し、下半部には縱方向のヘラミガキを施すが、ハケ調整の痕や接合痕が認められる等粗雑な仕上がりとなっている。内面調整は板状工具によるナデとみられ、底部内面にはいわゆる「くもの巣状ハケ」の痕が観察される。67・68は口縁部を垂下させ円形竹管浮紋を施している。

71~80・83・84は甕である。72~80・83は体部外面にやや粗いタタキを施している。84は庄内型甕の破片である。体部外面に細かいタタキを施した後ハケ調整を行う。内面にヘラケヅリを施すことにより器壁を極めて薄く仕上げている。この他にも数例認められる。

81・82・85は鉢である。86・87は製塩土器の脚部とみられる。ともに粗雑な作りである。88は甕か鉢の脚部とみられる。

89~95高杯である。95は装飾性の強い高杯の脚部とみられる。

96は手培形土器の蓋部とみられる破片である。蓋部端部を上下に拡張し面を作り波状紋を施す。内面に粗いハケあるいは板ナデを施す。

97は石皿である。B面と側面に使用痕が認められる。

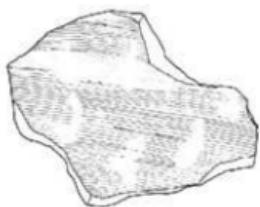
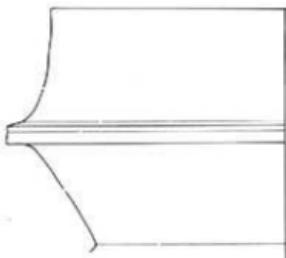
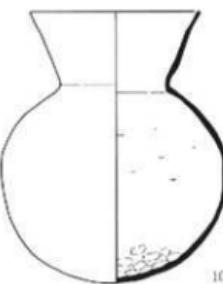
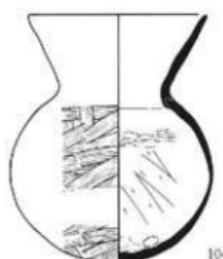
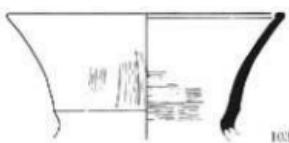
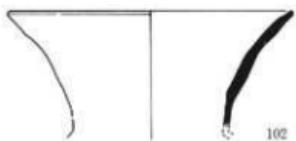
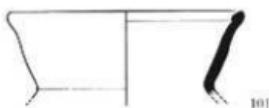
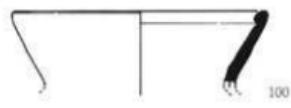
出土遺物には弥生時代中期のものが多く含まれているが、後期前葉に堆積を終える054-ORより新しいことや堆積が急激であったと考えられること、そして同一層に中期の遺物と後期後葉（庄内期）の遺物が混在していたことから、055-ORは後期後葉（庄内期）に流水が起り、短期間の内に埋没したと推測される。

058-OR（第22~25図、図版5・21・22）

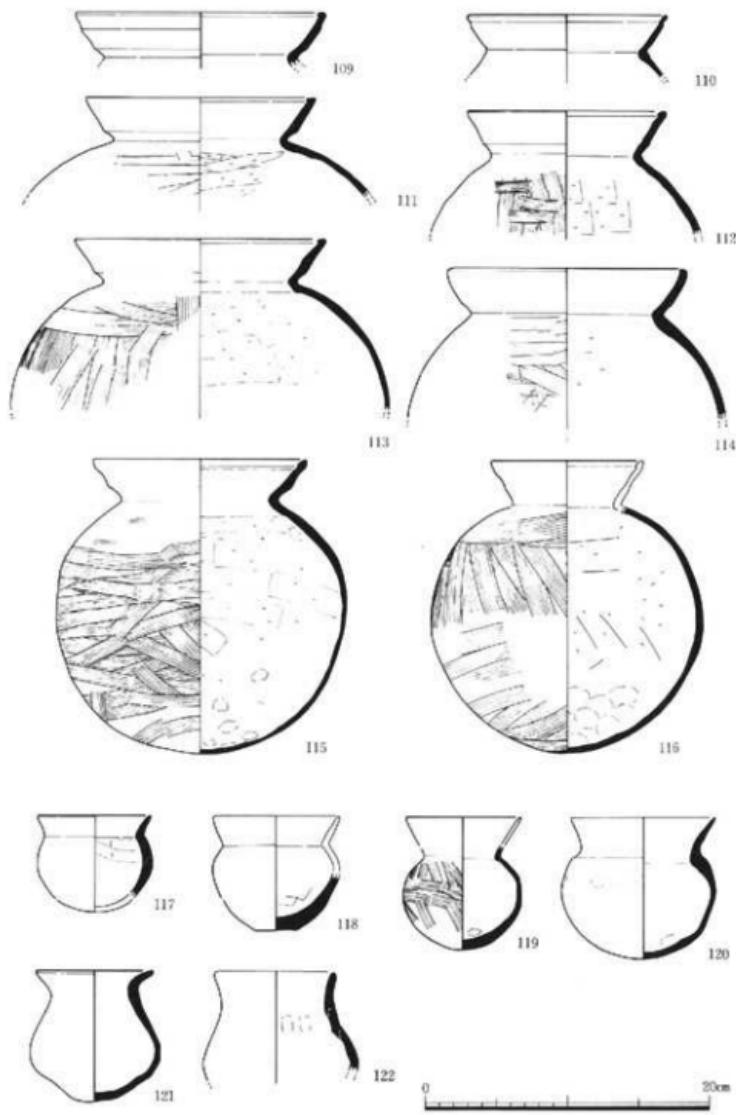
058-ORはf区西半部において検出した。遺構の明確な肩は検出されず、埋没時にあふれ出たとみられる砂が広範囲に渡って確認された。特に北側においては不明瞭で、砂の範囲をもって肩としている。幅10mを越えるものとみられる。深さはおよそ0.7mを測る。埋土はそのほとんどが砂からなる。

054-ORと055-ORの上層を切って流れたことが認められる。

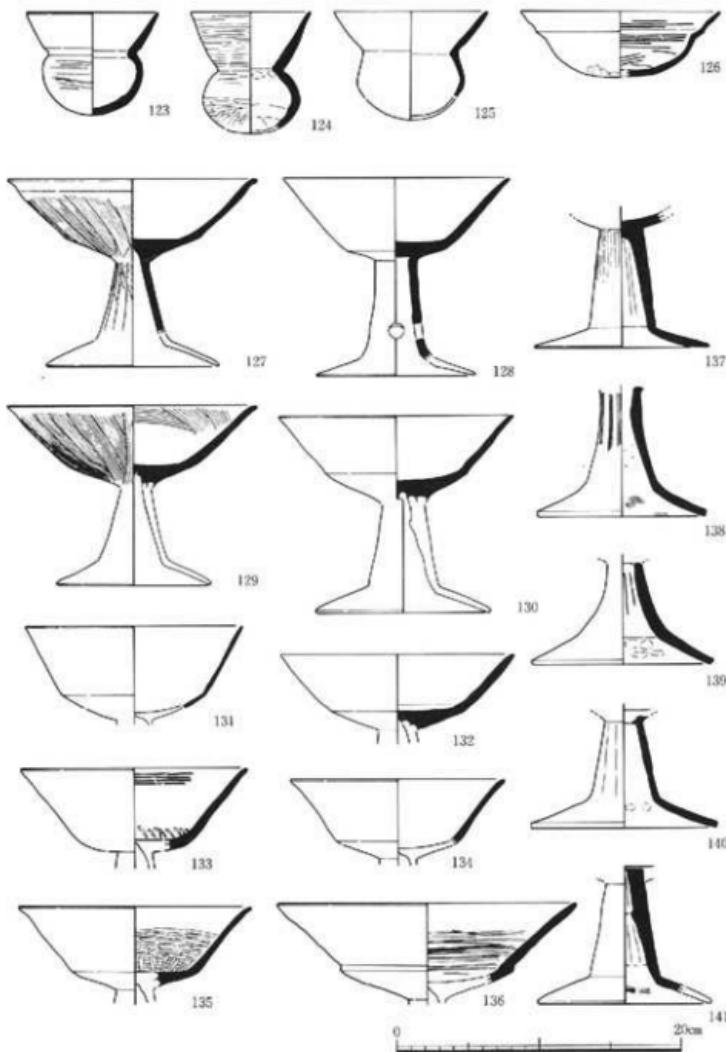
土師器および弥生土器を多量に検出した。



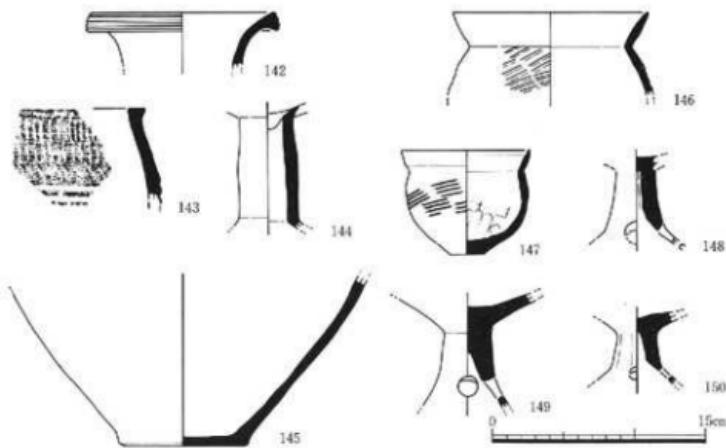
第22図 058-OR出土遺物 1 (1/4)



第23図 058-OR出土遺物2 (1/4)



第24図 058-OR出土遺物 3 (1/4)



第25図 058-OR出土遺物4 (1/4)

100~107は壺である。104、口縁部は直線的に開き端部を丸く仕上げている。体部はやや偏平な球形を呈する。器壁の厚さは総じて厚く体部に比べ底部を厚く作っている。体部外面にハケを施す。肩部内面に幅の狭いヘラケズリを横方向に施し、体部内面には縦方向のヘラケズリを施している。底部内面に指頭圧痕が認められる。105、口縁部はやや外反気味に開く。体部はほぼ球形を呈する。器壁を薄く作っている。106と107は同一個体と考えられる。大型の二重口縁壺とみられ、口縁部と二重口縁部の接合部外面に凸帯を巡らせている。器壁は厚く体部の破片とみられる107においては1cmを越えている。胎土には砂粒を多く含み、灰白色を呈する。在地系のそれとは異なるものと思われる。

108~116は壺である。115、口縁部をやや内湾させ、口縁端部を肥厚させ丸く仕上げている。体部はほぼ球形を呈する。体部外面には主に横方向のハケを施し、内面にはヘラケズリを施す。底部内面に指頭圧痕が認められる。

117~122は小型の壺である。118、底部はやや上げ底状を呈している。121、口縁部は大きく開き、体部は下彫れ状を呈する。123~126は小型丸底鉢である。いずれの胎土も緻密で、焼成は良好である。外面および口縁部の内面にヘラミガキを施したものとみられる。

127~141は高杯である。127、杯部は直線的に開くが口縁部に強くナデを施すことによりやや外反させている。杯部および脚部にハケを施す。杯部内面には認められない。128、

脚部は筒状を呈し余り開かない。脚柱部にスカシが認められるがその数は不明である。

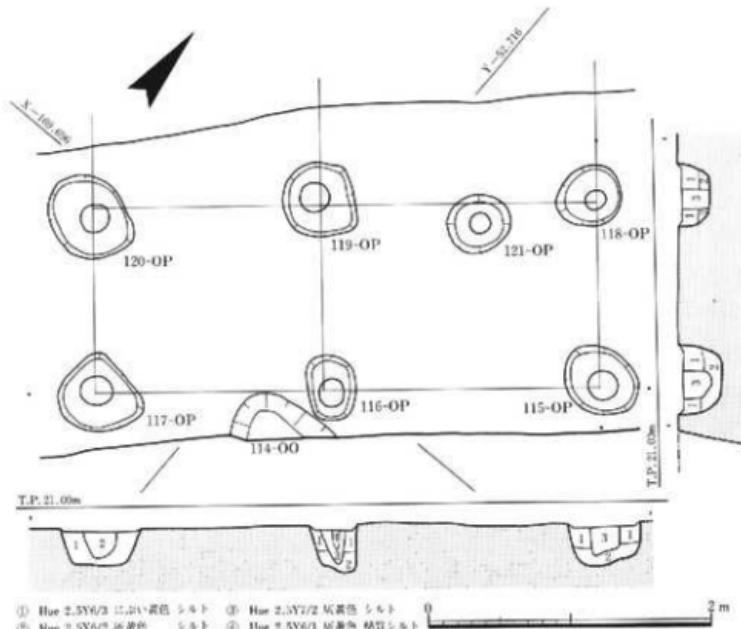
142～151は弥生土器である。

058～ORは出土遺物から古墳時代前期に比定される。

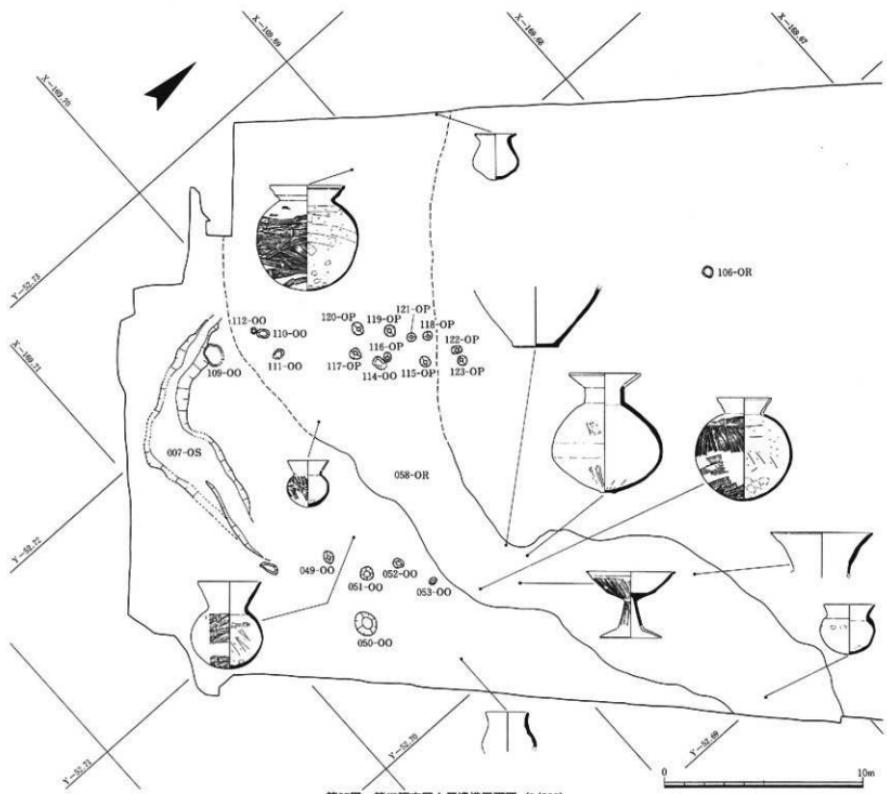
115～OB (第26図、図版6)

115～OBはf区において検出した掘立柱建物である。北側に現水路が走り検出できたのは2間×1間分だけである。総柱の建物とみられ、北側に延びるものと考えられる。柱間は東西方向が1.6～2.0m、南北方向がやや狭く1.3mとばらつきをみせる。主軸方向は北から西に約40度振っている。掘形の平面形は隅丸方形あるいは円形を呈する。掘形の一辺ないし径は60cmを測る。各々の掘形において柱痕跡を確認した。柱痕径は約20cmである。埋土はおおよそぶい黄灰色系のシルトと灰黄色系のシルトの2層からなる。

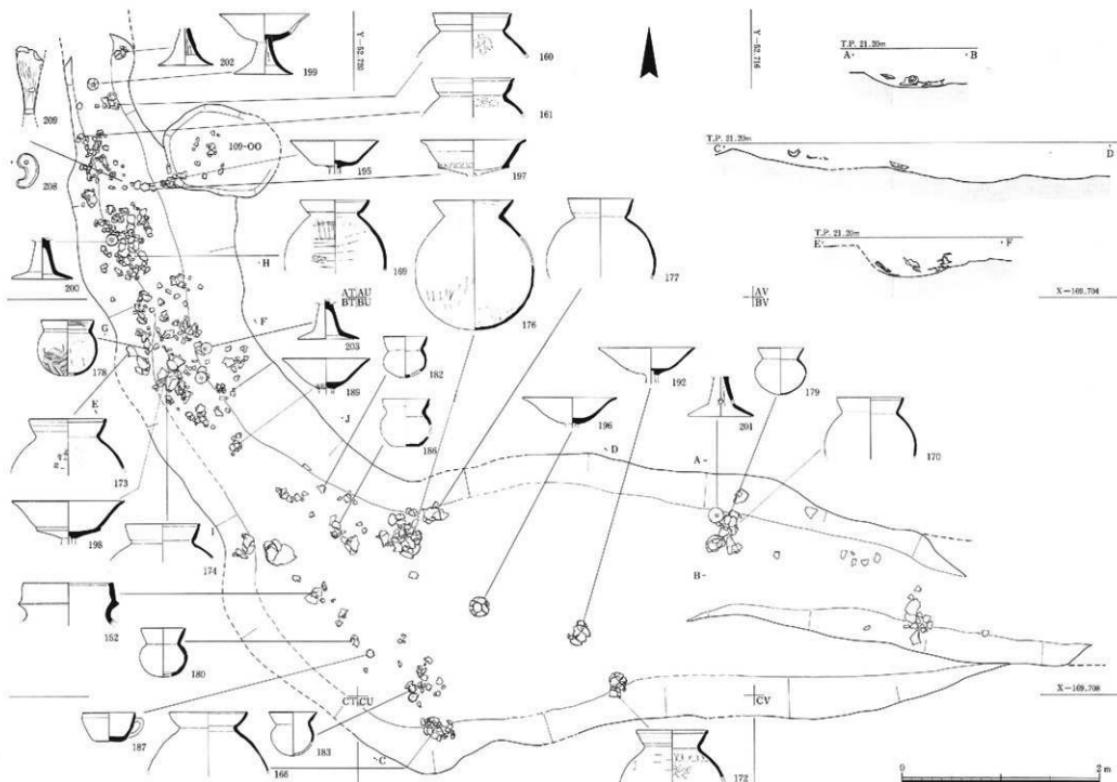
遺物は検出できなかった。そのため時期を比定し難いが周辺の遺構の状況から古墳時代前期から中期にかけてのものと考えておきたい。



第26図 115-OB平面・断面図 (1/40)



第27図 第三調査区上層遺構平面図 (1/200)



第28图 007-OS平面・遺物出土状況図 (1/40)

007-OS (第29~34図、図版 7・8・22・23・28)

007-OSはf区の西側C13BT付近で検出した溝である。検出長約10m、幅0.8~3.6m、深さ約0.4mを測る。平面形は「C」字状に大きく弧をえがいている。本来の深さは不明であるが削平を受けその最深部分のみが残ったとみられ、遺構の端部は本来それぞれ延長されるものと考えられる。断面形は立ち上がりの緩やかな「U」字形を呈する。

埋土は大きく2層に分かれ、上層は灰白色系の砂質シルト、下層は黄灰色系の粘質シルトである。ともに炭化物を多く含んでいる。

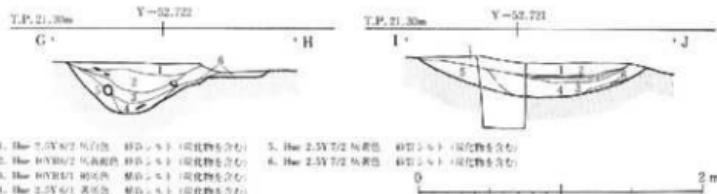
遺物は底面より重なった状態で検出した。遺物の分布には偏りがみられる。C13AT・BTに多く固まっていた。X-169.7028km、Y-52.7223kmの地点から砥石と勾玉が出土した。勾玉は砥石の直下からの出土であった。

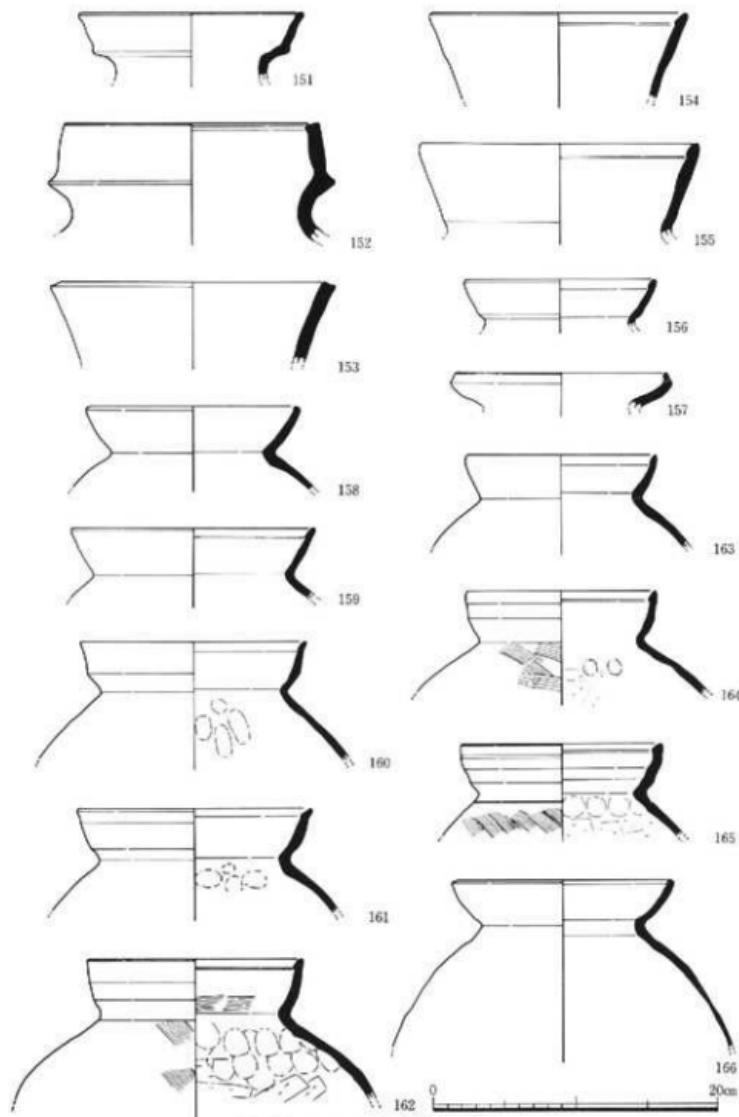
多数の土師器と石製品を検出した。須恵器は認められなかった。土師器はおよそ120個体に及ぶものと推測される。その内訳はおおよそ壺が55%、壺と高杯がそれれ15%前後、小型丸底壺（鉢）が10%前後となっている。器台は認められなかった。遺物の遺存状態は悪くほぼ完形の状態で検出したにも関わらず復元し得なかったものもある。

151~155は壺である。151・152は二重口縁壺である。151は二重口縁部が外傾するのに対し152のそれは内傾させている。いずれも二重口縁部の接合部は明瞭な稜線をなしている。

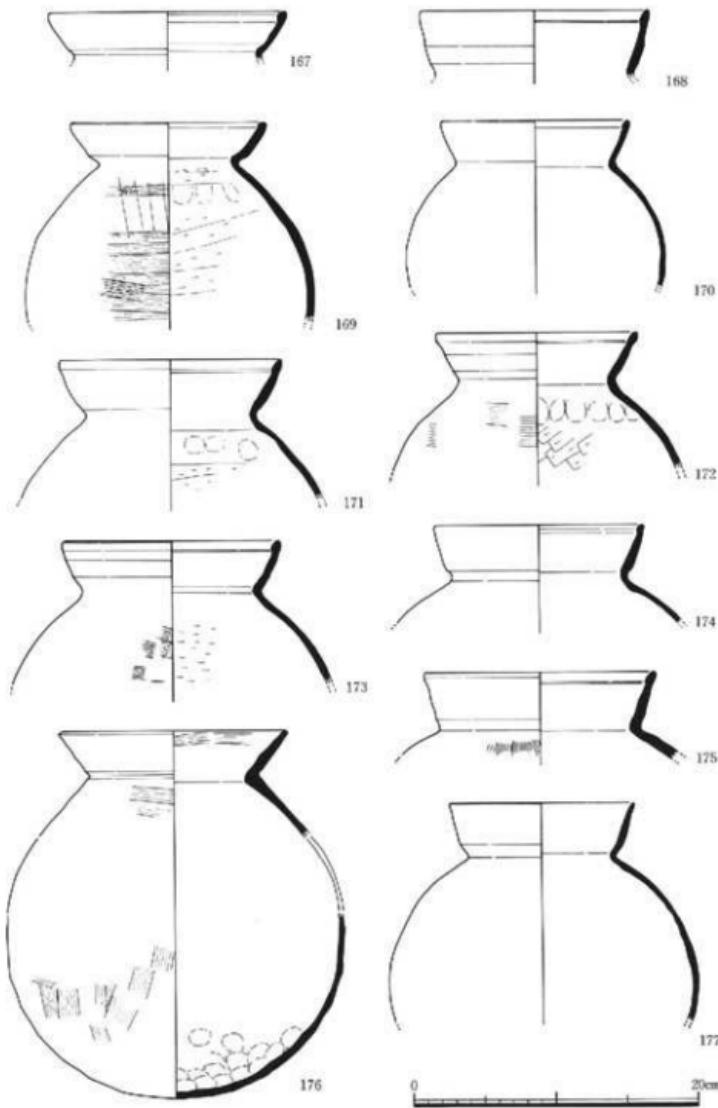
156~177は壺である。176はほぼ完形である。口縁部は直線的に開き端部を丸く仕上げる。体部はやや下膨れ状を呈する球形である。口縁部内面に横方向のハケを施す。外面の調整は不明瞭であるが、肩部に横方向のハケを体部下半には縦方向のハケが認められる。

178~186は小型の壺（鉢）である。178は丸底の壺である。口縁部は短く内湾気味に立ち上がり、内面に横方向のハケを施す。体部はほぼ球形を呈し外面には細かいハケを、内面にはヘラケズリを施している。186は平底の壺である。円形の粘土板に体部を接合し成形したものとみられる。口縁部はやや受口状を呈する。





第30図 007-OS出土遺物1 (1/4)



第31図 007-OS出土遺物2 (1/4)

187は把手付の椀とみられる。円形の粘土板に体部を接合し成形したものと思われる。底面には粘土板を輪體に固定するための突起痕（ゲタ痕跡）が方形に認められる。体部外面に把手を接合したとみられる円形の痕跡が観察される。二次焼成を受けたとみられ器壁が赤変し、もろくなっている。韓式系土器の範疇に含まれるものと考えられる。

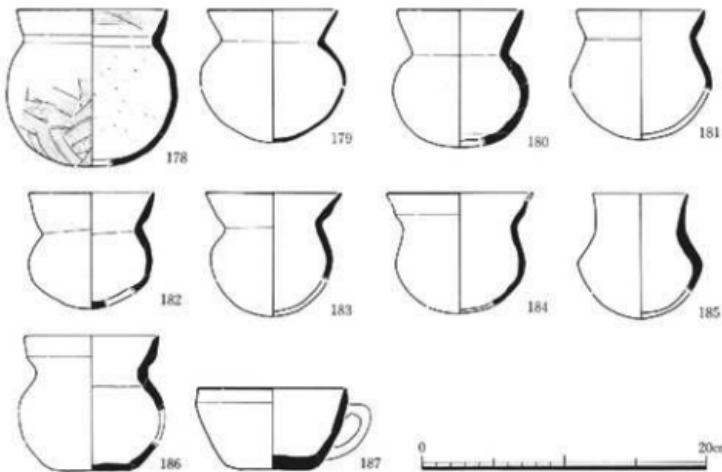
188～205は高杯である。形態や製作技法の違いが認められる。201は脚柱部に1方向のスカシを穿ち外面にヘラミガキを施している。脚柱部内面に工具によるとみられるケズリ痕が認められる。

206は叩石である。棒状を呈しておりその先端部と側面に打撃痕が観察される。

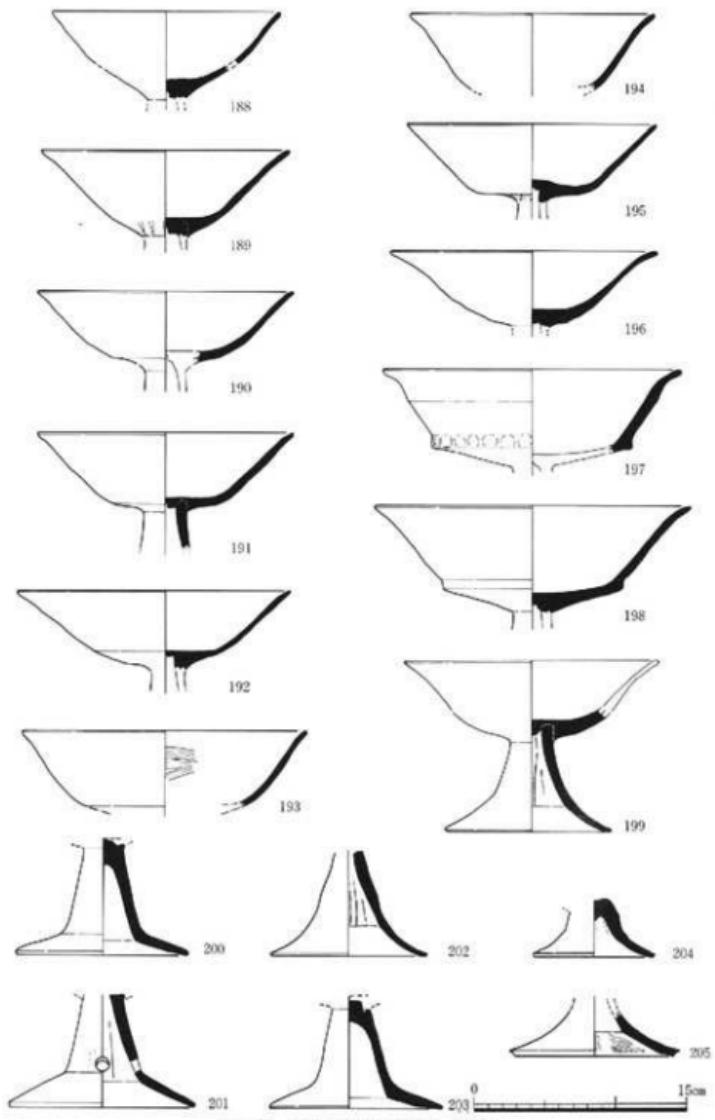
207・209は砥石である。207は平面的な石材を利用しており、両面ともに擦痕が観察される。209は板状の石材を利用している。かなりの磨滅が認められ側面形が撥形を呈している。上下面および両側面を使用している。

208は勾玉である。全長17.2mm、厚さは頭部で3.9mm、尾部で3.2mmを測る。孔は片側からの穿孔で、穿孔方向に円形のくり込みが観察されるが、孔径はほとんど変わらず2.0～2.1mmを測る。偏平な板材を加工したとみられ胴部での断面形は長方形を呈する。材質には縞模様状の筋が観察され、また表面の磨滅が著しい。材質は滑石とみられる。

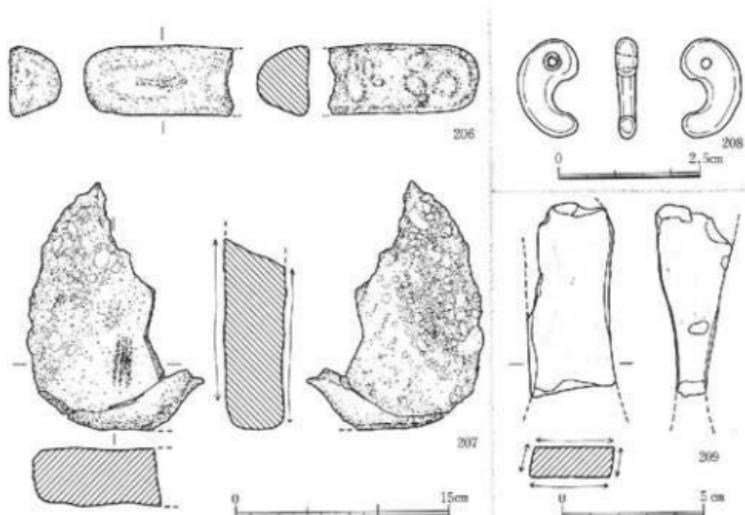
007-OSは出土遺物から古墳時代中期前葉に比定される。



第32図 007-OS出土遺物 3 (1/4)



第33図 007-OS出土遺物4 (1/4)



第34図 007-OS出土遺物 5 (1/1・1/2・1/4)

049~053・106・109・114-OO

これらの土坑はf区の西側C13BW付近(106-OOはC08UX)において検出した。遺構の検出は058-OR上層の砂層の上面において行った。106-OOは現行水路により削平を受けていたため他の検出面より約0.5m低い。

埋土の多くは、炭化物を含む灰黄褐色系の砂質シルトである。

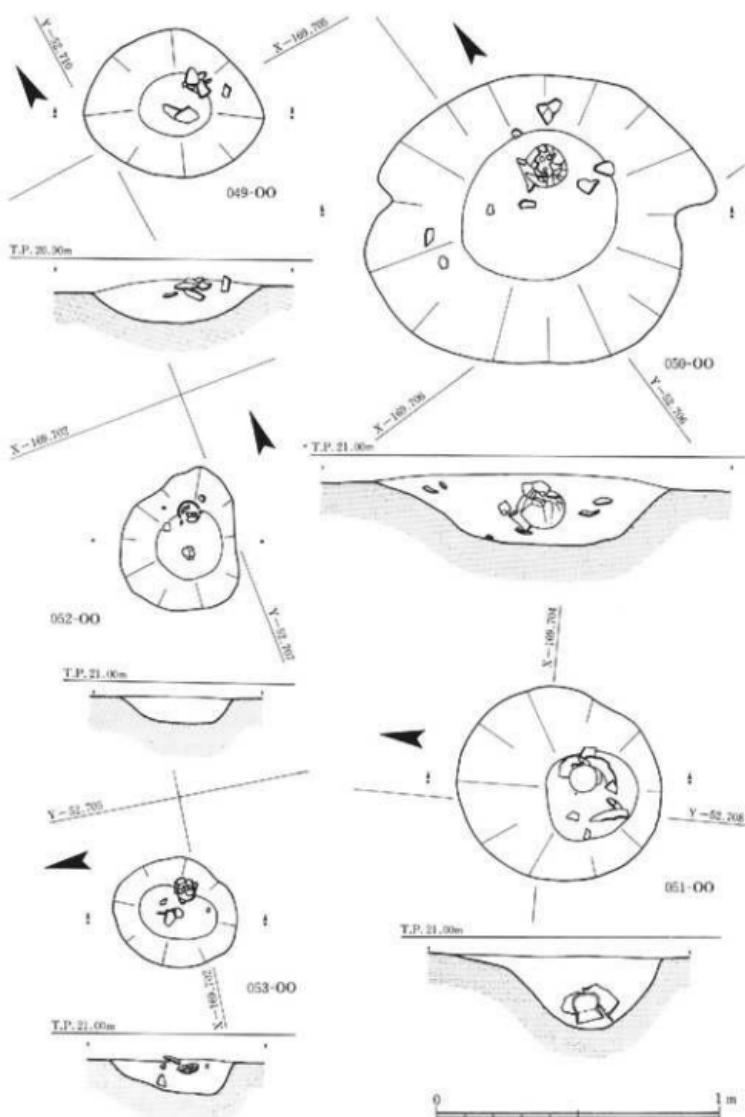
049-OO(第35・37図、図版9)

049-OOは、長径63cm、短径52cmの橢円形を呈する。深さ15cmを測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器の壺と高杯を検出した。

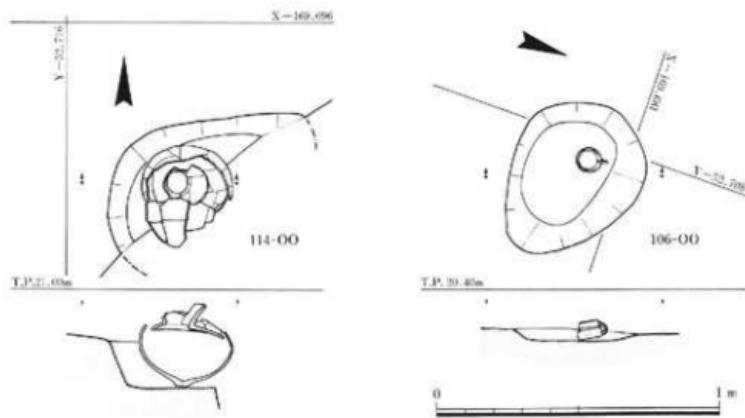
050-OO(第35・37図、図版9・23)

050-OOは長径102cm、短径120cmの橢円形を呈する。深さは25cmを測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器の小型の壺を検出した。壺は横転していた。

212はほぼ完形である。口縁部は直線的に開き端部においてやや外反する。体部は球形を呈するがやや偏平な感がある。体部外面には主に横方向のハケ調整を施し、肩部内面には横方向のヘラケズリを、体部内面には斜め方向のヘラケズリを施す。また底部内面には指頭圧痕が認められる。



第35圖 049・050・051・052・053-OO遺物出土狀況圖 (1/20)



第36図 106・114-OO遺物出土状況図 (1/20)

051-OO (第35・37図、図版10・23)

051-OOは径66cm～73cmのはば円形を呈する。深さは26cmを測る。埋土は大きく2層に分かれる。上層は灰黄褐色系の砂質シルトである。下層は炭化物層で縫状に編んだ植物遺体が観察される。遺構の底より土師器の小型丸底壺と甕を検出した。小型丸底壺は伏せた状態にあり、甕はそれを覆うような状態であった。

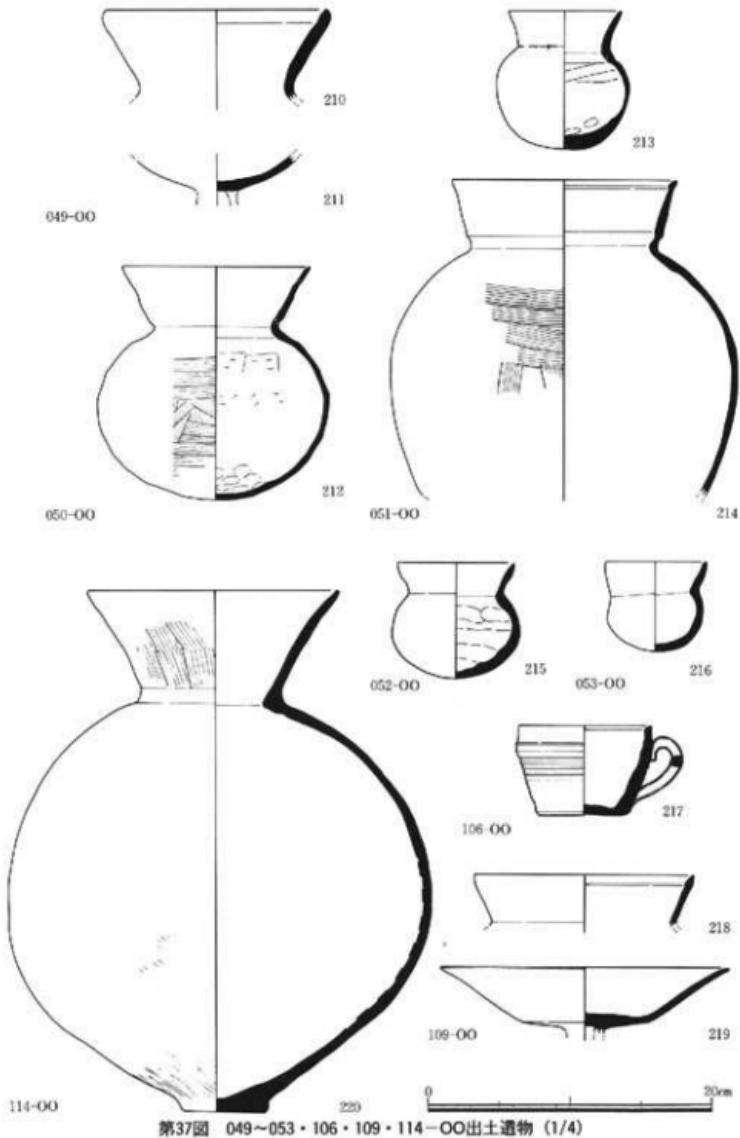
213はほぼ完形である。口縁部は短く外反気味に開く。焼成は良好、体部外面はやや摩耗しているがハケ調整は認められない。ただ口縁部と体部の接合部にわずかにハケ状工具によるとみられる圧痕が観察される。体部の器壁に比べ底部の器壁はきわめて厚く作られている。

214は約半分が残存している。口縁部と頸部の接合部は内外面に強いナデを施すことにより外面に横線、内面に段を形成している。体部はその最大径が上半部に位置することから長胴の感がある。

052-OO (第35・37図、図版10・23)

052-OOは長径51cm、短径43cmの不整橢円形を呈する。深さは10cmを測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器の小型丸底壺を検出した。

215はおよそ1/3が残存している。口縁部は外反気味に開き、端部を丸く仕上げている。体部はやや偏平気味である。



053-OO (第35・37図、図版11・24)

053-OOは39~45cmのほぼ円形を呈する。深さは12cmを測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器小型丸底壺を検出した。

106-OO (第36・37図、図版24)

106-OOは長径60cm、短径47cmの椭円形を呈する。深さは5cmを測る。大部分を削平されていると考えられる。埋土は灰黄色系統の砂混じりシルトである。須恵器の把手付き椀を検出した。椀は伏せた状態であった。

217は完形である。口縁端部に面取を行い、端面は内傾する。口縁部と体部の境を断面三角形の凸帯状に成形する。体部に3状の凹線を巡らせる。底面にはヘラ状工具による切り離しの後ナデを施す。陶質土器である可能性がもたれる。

109-OO (第28・37図)

109-OOは長径115cm、短径85cmの椭円形を呈する。深さは15cmを測る。土師器の甕と高杯を検出した。007-OSと重複しているが調査時の観察により007-OSより新しいことが認められた。

114-OO (第36・37図、図版11・24)

114-OOは土坑の半分を検出したにすぎない。長径60cmの椭円形を呈するものとみられる。深さは16cmを測る。土師器の壺を土坑の底に据えた状態で検出した。

220はほぼ完形である。口縁部は大きく外反して開き、端部を丸く仕上げる。対部はやや下膨れの球形を呈する。底部は突出するが、中心から離れているため非常に不安定である。焼成はやや不良、全体に磨滅が著しく調整は不明瞭であるが、口縁部から体部中程にかけての外面には粗いハケを、体部中程から底部にかけては縦方向のヘラミガキを施したものとみられる。

出土遺物から以上の土坑は古墳時代中期前葉に比定される。

056-OS (第38・39図、図版12・13・24)

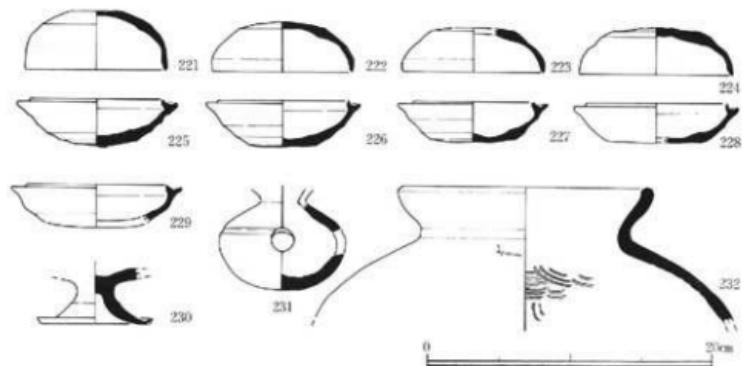
056-OSは「区において検出した溝である。検出長およそ38m、幅2.2~3.7m、深さ約0.5~0.7mを測る。溝底面のレベルは北側でT.P.19.75m、南側でT.P.19.65mを測る。断面形は逆台形もしくは「U」字形を呈している。埋土は黄灰色系の砂質シルトを基本とし、砂、粘質土を間層としている。また断面土層の観察により遺構の埋没後に再び掘削が行われたことが窺われる。溝底面にヒトの足跡が認められた。最初に掘削された溝の埋土中より須恵器を検出した。

221～229は杯及び杯蓋である。杯蓋は回転ヘラギリの後ナデ調整を加えるが丁寧な仕上げはしていない。また回転ヘラケズリはほぼ天井部のみに行っている。杯身の底部の形態は平底状を呈するものが多く、回転ヘラギリの後ナデ及び回転ヘラケズリを行うが底面中央部まではおよばず、中央部は未調整となっている。

230は小型の高杯である。231は甕である。体部外面に回転ナデを施し、底部外面に回転ヘラケズリを施す。肩部には1条の凹線を巡らせていている。

232は甕である。口縁部は短く内湾気味に立ち上がり端部を丸く仕上げる。焼成は不良で外面調整は摩耗のため不明である。内面にはタタキの当具痕跡が観察される。肩部にヘラ記号とみられる工具痕跡が認められる。

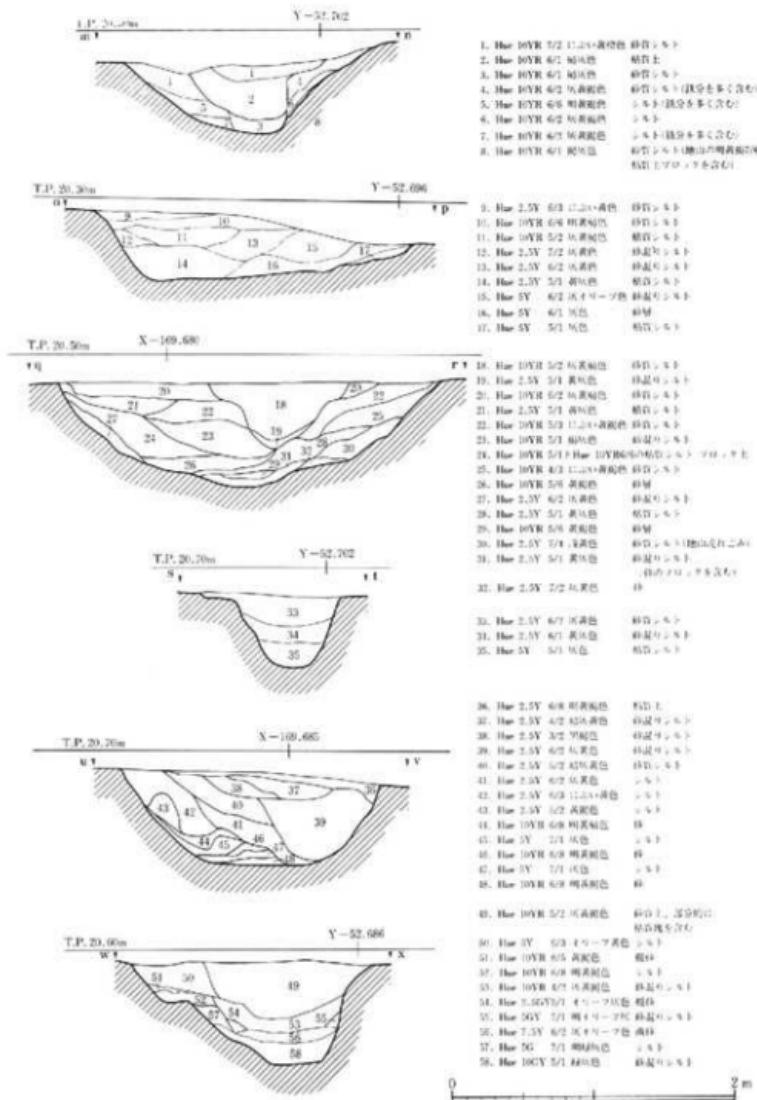
056-OSは出土遺物から7世紀前葉に比定される。



第38図 056-OS出土遺物 (1/4)

057-OS (第39図、図版12・13)

057-OSはf区において検出した溝である。検出長およそ30m、幅1.0～1.8m、深さ約0.7を測る。溝底面のレベルは北側でT.P.20.00m、南側でT.P.19.80mを測る。断面形は逆台形もしくは「U」字形を呈している。埋土は黄褐色系の砂質シルトを基本とし、砂、粘質土を間層としている。また断面土層の観察により遺構の埋没後に再び掘削が行われたことが窺われる。遺物は検出できなかった。出土遺物がないことから時期の決定はし難いが、056-OSの西側約5mの地点に平行して設けられていること、両者とも埋没後に再び掘削が行われていることから、同時期に並存していた可能性が高いと思われる。(虎間)



第39図 056・057-OS断面土層図 (1/40)

## 第3節 第II調査区の調査成果

### 第1項 概 要

第II調査区はさらに大きく6区に分けて調査を実施した。調査区の呼称は第1図に示す通りである。

全体に近・現代に行われたとみられる削平を受けており、溝や土坑等の遺構は浅くなっていたが、里道部分の調査箇所においては比較的良好に遺構面が保たれていた。

弥生時代の自然河川、奈良時代の溝、中・近世の溝や自然河川等を検出した。(虎間)

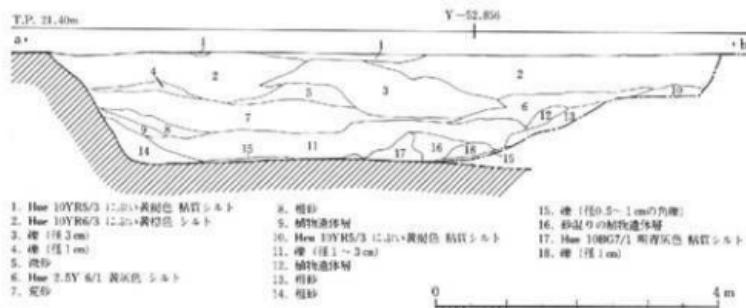
### 第2項 遺構各節

075-OR (第40~46図、図版14・24・28・30)

075-ORはb・d・e・f区にかけて検出した自然河川である。検出長約30m、幅約11m、深さ1.5mを測る。埋土は主に砂と砾からなるが、一部にシルト層や植物遺体層が観察された。走行方向はほぼ北に向かっている。主に中層から下層にかけての層から弥生土器を多量に検出した。236は中層よりやや下位の荒砂層の中からほぼ完形の状態で検出した。横転し、口縁部は河川の走行方向に対し直行する方向を向いていた。

233はサヌカイト製の石鎌である。柳葉形を呈し、左面中央部から基部にかけて大剥離面が残存するほかは、両側縁部より細かい調整剥離が施されている。弥生中期の所産。

234は蓋である。口縁部は端部を上方に拡張し、二孔一対の紐孔を穿っている。体部外側に縦方向のヘラミガキを施している。胎土は黄褐色を呈し、雲母を含むことから河内産の土器とみられる。



第40図 075-OR断面土層図 (1/80)

235~247は壺である。236、口縁部は内傾し立ち上がる。口縁部外面に2条の簾状紋を巡らせ、その間に扇形紋を配している。頸部から肩部にかけての外面に8条の簾状紋とその下位に扇形紋を配している。体部外面にはタタキを行った後、丁寧なナデないしはヘラミガキを施している。体部の中程から底部にかけての外面にはヘラミガキを施している。237、口縁部を垂下させ、外面に6条の凹線を巡らせ、その上に円形浮紋を配する。また内面には列点紋を配している。245、ハケ調整の後にタタキを施しているのが観察される。

248~250・275は鉢である。248・249、ともに内傾する段状の口縁を呈する。249の体部外面には列点紋が施されている。250は台付の鉢である。脚裾部外面に3条の凹線を巡らせ、円形のスカシを穿っているがその数は不明である。

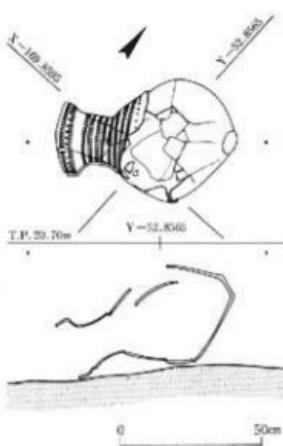
254~267は甌である。256~267、いずれも口縁部を「く」の字状に屈曲させ、端部を上方にあるいは上下方向に拡張し面となしている。体部の内外面に縱方向の粗いハケを施したものが多くみられる。

268は水差形土器である。口縁部外面に3条の凹線を巡らせている。頸部から体部にかけては直線紋と波状紋を交互に配している。

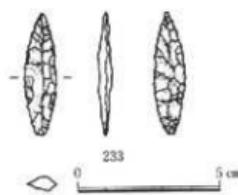
269~274は高杯である。273・274は口縁部を強く屈曲させ、杯部との境に凹線を条状巡らせる。247の口縁部内面に横方向のヘラミガキが、杯部内面に不定方向のヘラミガキがそれぞれ認められる。

出土遺物より075-ORは弥生時代中期後葉に比定される。

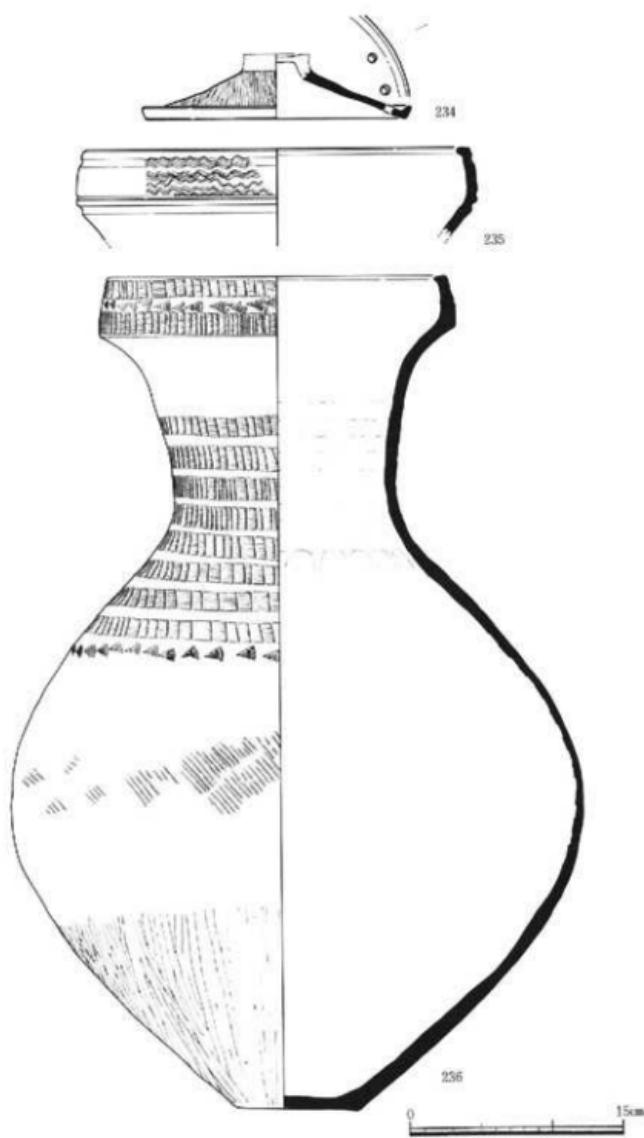
(橋本・虎間)



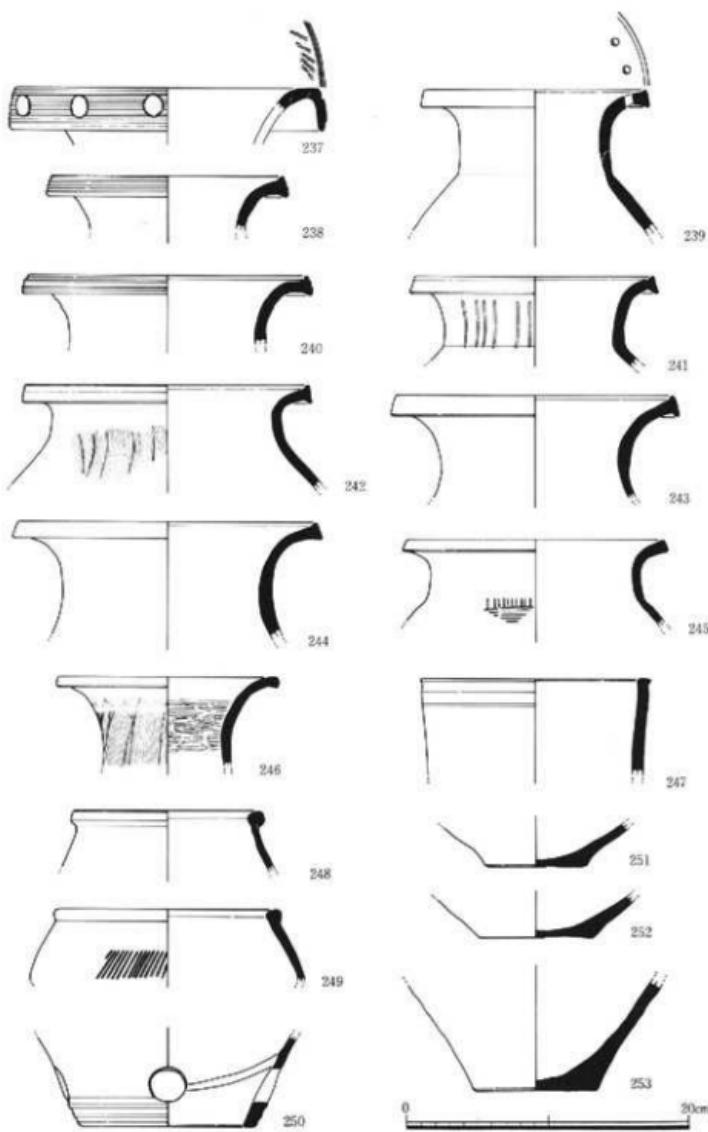
第41図 075-OR遺物  
出土状況図 (1/20)



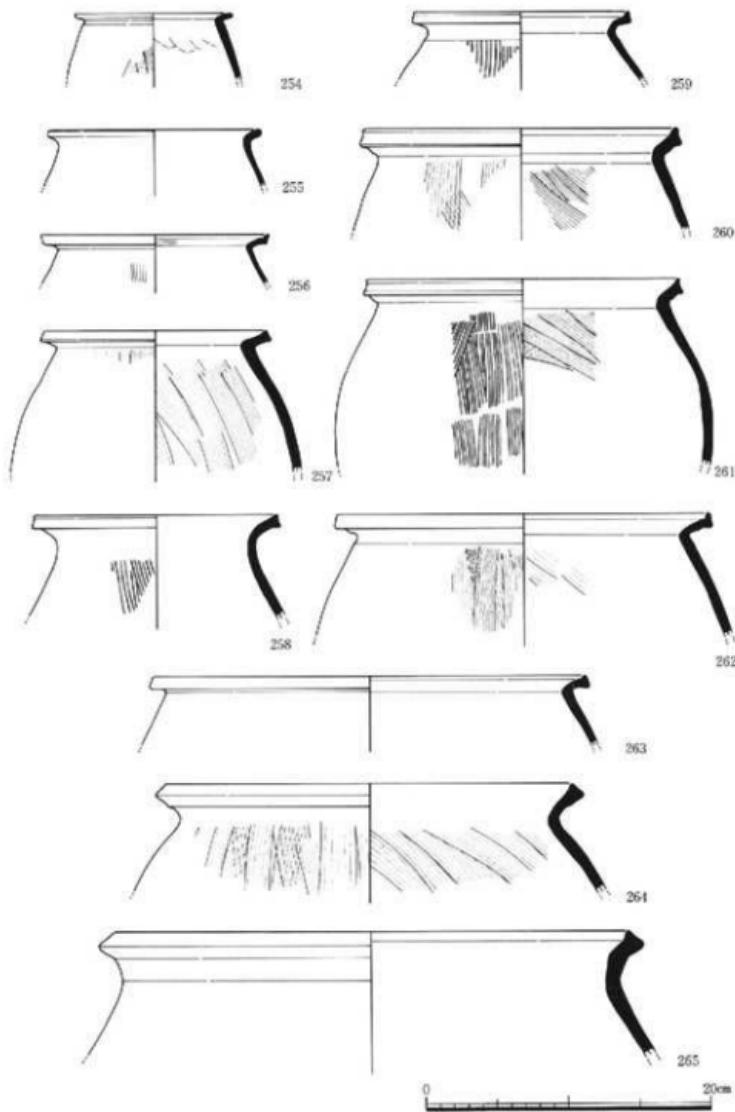
第42図 075-OR出土遺物 1 (1/2)



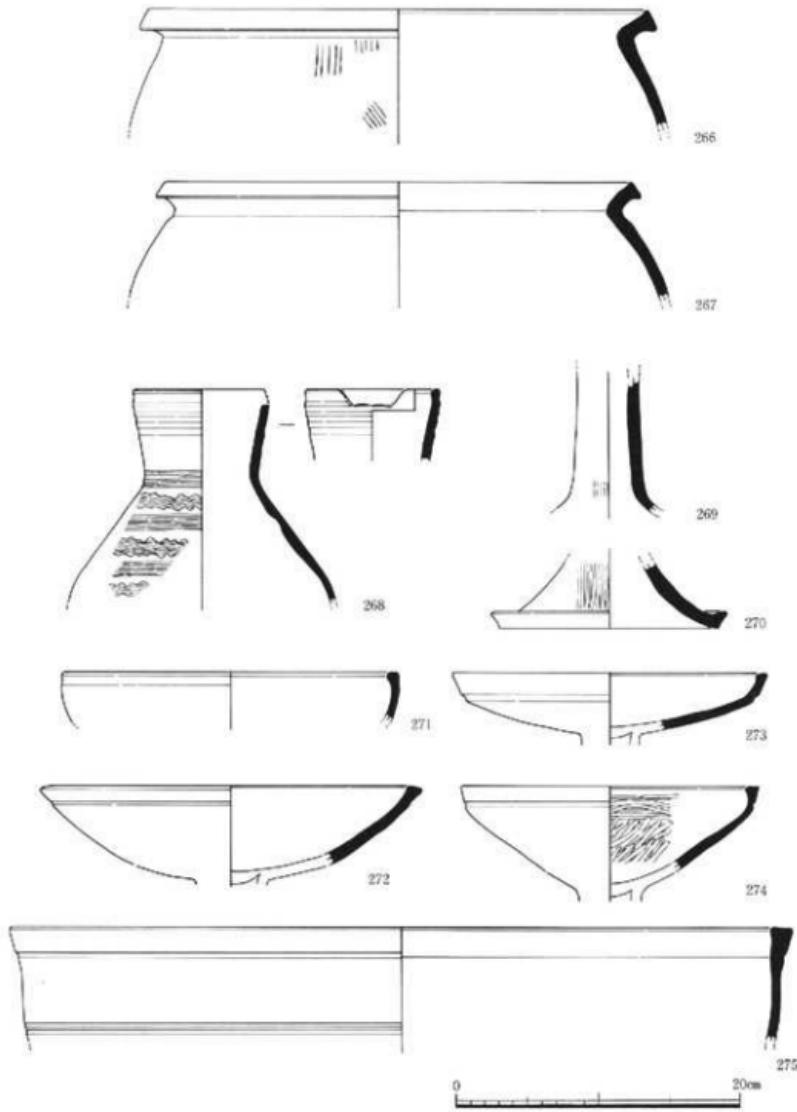
第43圖 075-OR出土遺物2 (1/4)



第44図 075-OR出土遺物 3 (1/4)



第45図 075-OR出土遺物 4 (1/4)

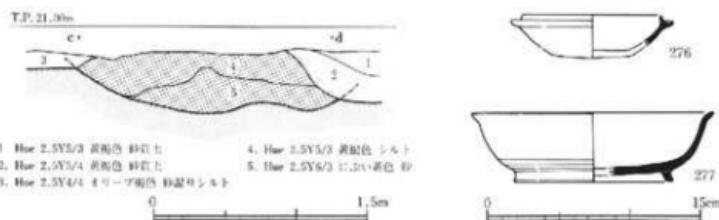


第46図 075-OR出土遺物 5 (1/4)

### 124-OS (第47図)

124-OSはb区の西端において検出した溝である。検出長約3.8m、幅0.7~1.9m、深さ0.5mを測る。遺構の西肩を中世の包含層により削平されている。上下2層に分かれる。上層は黄褐色系のシルト層、下層はにぶい黄色系の砂層である。埋土中より須恵器若干量を検出した。276は須恵器杯身の口縁部破片である。7世紀前半の所産と考えられる。277は須恵器杯身である。口縁部を外反させたいわゆる金属器を模倣したとみられるタイプである。杯部外面に他の個体との熔着が認められる。8世紀中頃の所産である。

出土遺物から124-OSは8世紀中頃に比定される。



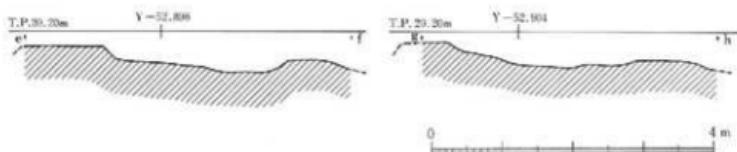
第47図 124-OS断面土層図 (1/40)・出土遺物 (1/4)

### 083-OS (第48・49、図版15)

083-OSは第II-a区から第III-a区にかけて、調査区にはば平行する形で検出した溝である。検出長およそ50m、幅1.3~2.7m、深さ0.2m前後を測る。黄褐色系の粘質土をベースとして掘り込まれ、全体が砂で覆われていた。土師質土器の羽釜、瓦器楕、瓦質土器の羽釜・鉢等を検出した。

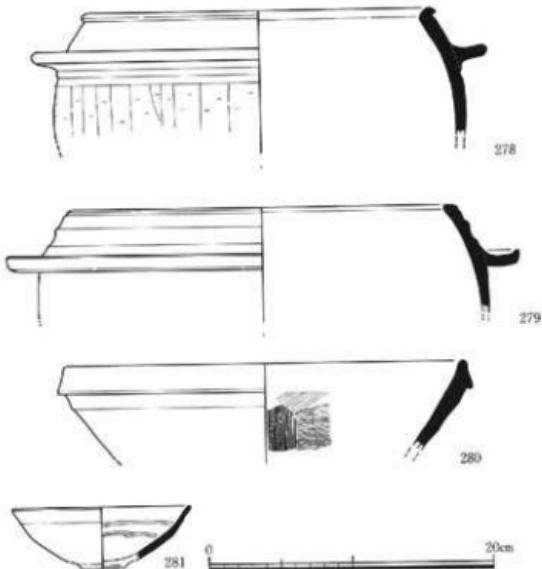
279は瓦質土器の羽釜である。280は瓦質土器の鉢である。内面にスリ目がある。ともに15世紀前葉の所産と考えられる。

以上の遺物を検出した砂層は、後述する078-ORが埋没する際にあふれ一帯に堆積した



第48図 083-OS断面図 (1/80)

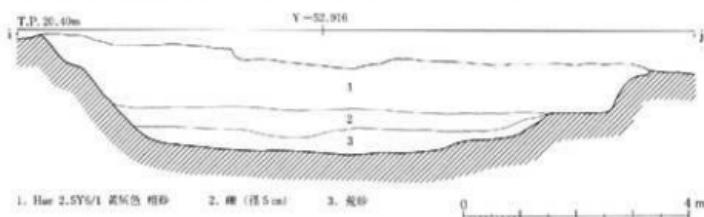
のと推測されることから、当遺構は15世紀前葉以前に比定される。また083-OSは現在見られる条里地割の方向に平行し、坪境に相当することから条里に伴う溝であった可能性が高いものと考えられる。



第49図 083-OS出土遺物 (1/4)

#### 078-OR (第50・51、図版15)

078-ORはa、b区の西側で検出した自然河川である。走行方向は調査区を横断する形で北に向かう。遺構の形状は一定しておらず、複雑に入り込み不明瞭である。埋土は砂と砾とからなり、あふれ出た砂が一面に堆積していたことから、急激な流れとともに埋没し



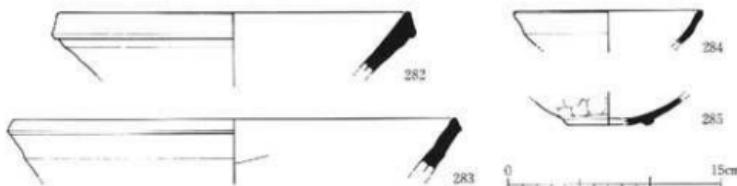
第50図 078-OR断面土層図 (1/100)

たと思われる。埋土中より若干の遺物を検出した。

282・283は瓦質土器の鉢である。15世紀前葉の所産とみられる。

284・285は瓦器碗である。

出土遺物から078-ORは15世紀前葉に比定される。

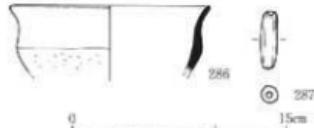


第51図 078-OR出土遺物 (1/4)

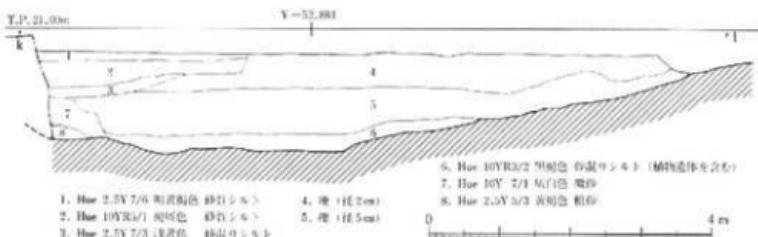
081-OR (第52・53、図版15)

081-ORはb区において検出した自然河川である。検出長約20m、幅6.1~8.1m、深さ1.4mを測る。埋土は大きく2層に分けられる。上層は浅黄色系の砂混じりシルト、下層は疊である。埋土中より若干の遺物を検出した。主に近世陶磁器（染付、国産陶器）の破片と瓦からなるが、繩紋土器も1点検出した。286は繩時代後期の鉢である。287は土師質の土鍤である。時期を限定し難いが、近世においても同じタイプのものが見られることから近世の所産である可能性が高い。

出土遺物から081-ORは近世の中でも比較的新しい時期に比定される。  
(虎間)



第52図 081-OR出土遺物 (1/4)



第53図 081-OR断面土層図 (1/80)

## 第4節 第III調査区の調査成果

### 第1項 概 要

第III調査区はさらに大きく2区に分けて調査を実施した。調査区の呼称は第1図に示す通りである。

遺構検出面が3面存在し、それぞれにおいて遺構を検出した。その結果、縄紋時代の自然河川と弥生時代の溝等を検出した。

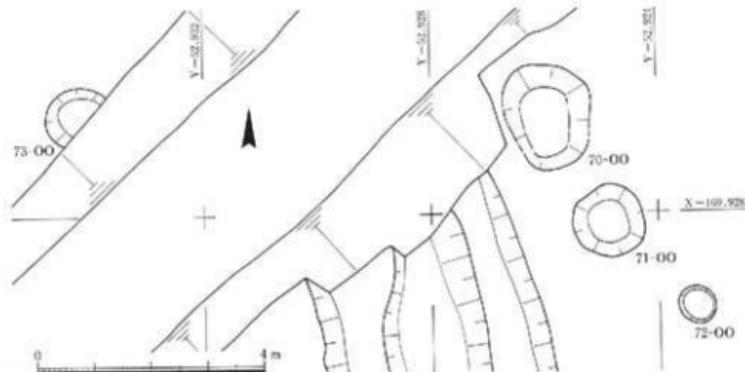
### 第2項 遺構各節

070-OO、071-OO、073-OO (第54・55図、図版16)

070-OO、071-OO、073-OOはa、b区において検出した土坑である。C21GS周辺に位置している。遺構検出面は、64-ORのそれよりも約0.5m近い面での検出である。

いずれも円形もしくは梢円形を呈している。径は1.1~1.9mを測る。断面形は逆台形あるいは浅い「U」字形を呈する。深さはおよそ0.4~0.5m、埋土は3~5層に分けることができる。ともに緑灰色系の粘質シルトもしくはシルトである。そして中間や最下層に植物の果実の堆積が認められた。そのほとんどがトチの実で、若干シイの実が含まれるものとみられる。上器片やサヌカイト剝片等の遺物は検出しなかった。

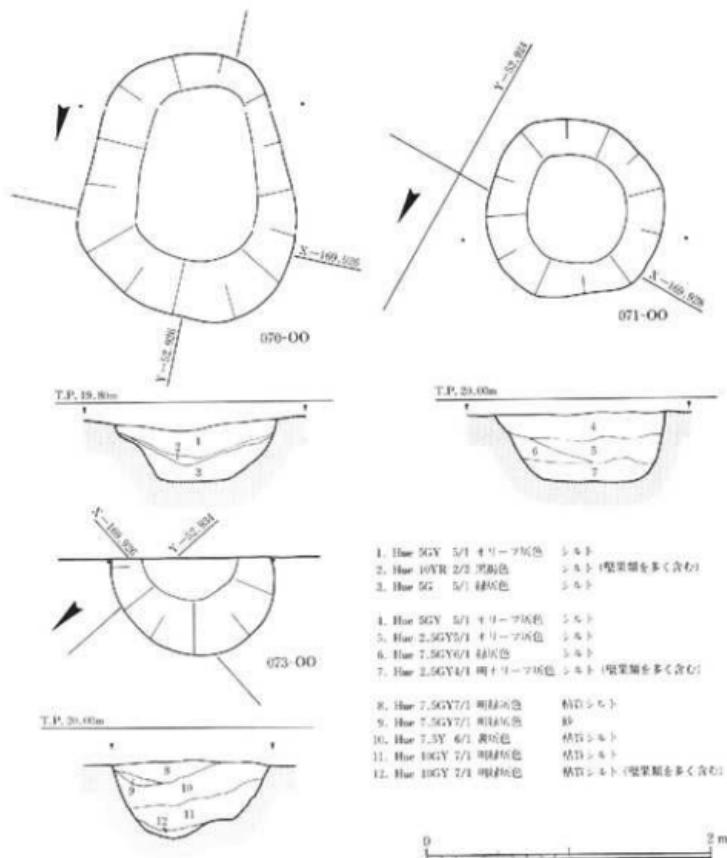
これらの土坑には遺物が存在しなかったことから、時期を明確にし難い。ただ遺構検出面が064-ORのそれより低いことから064-ORの時期である弥生時代中期より古いことが知れる。また性格についてはトチやシイの実の堆積から堅果類の貯蔵穴ではないかと考え



第54図 070・071・073-OO配置図 (1/100)

られる。

(虎間)



第55図 070・071・073-OO平面・断面土層図 (1/40)

#### 068-OR (第56・57、図版25)

068-ORはa、b区において検出した自然河川である。幅約6.5m、走行方向は蛇行しながら東から西に向かうとみられる。途中065-ORと交差している。断面の観察により068-ORの方が古いことが認められる。深さは、調査区の壁面保護のため川床を検出していないので不明である。検出できた深さは1.1mを測る。埋土の大半は砂と植物遺体である。

東肩部は砂が盛り上がった様な堆積を呈し、その上に縄紋晩期の包含層である第5層が堆積していることから、検出面上では一見第5層からの切込みのように観察される。

埋土中より縄紋土器を検出した。

288は波状口縁を持つ粗製の深鉢の頂部付近の土器で内済する口縁部をもつ。波頂部を意識したものか、内面に深い押圧痕を残している。外面上半と内面は押圧痕を残したまま軽くナデを施し、頸部付近は軽く器表をケズったような形跡がある。

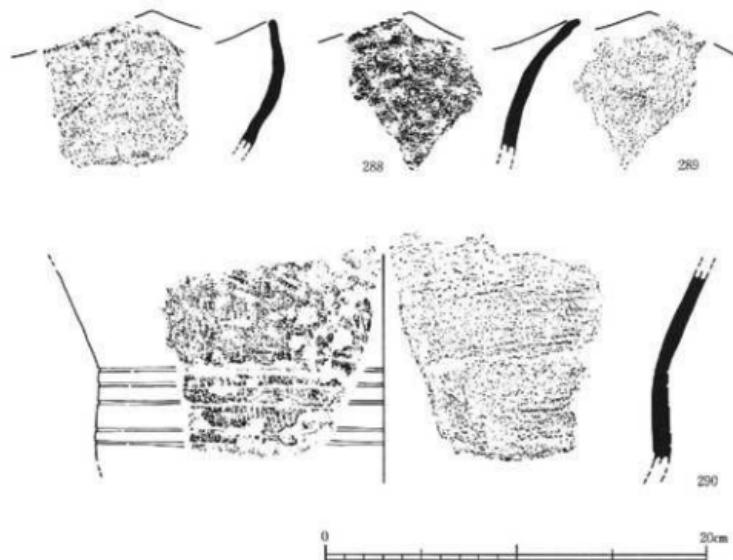
289は波状口縁を持つ深鉢で器表面は全体に軽くナデている。口縁部内面は単なる押圧痕か意識的なものかはっきりしないが、口縁直下に浅い凹部を形成している。

290は現存部に5条の細い沈線を巡らせる深鉢形の土器で、くびれ部から上半は軽く磨いたような器面を呈している。くびれ部の沈線間には不鮮明ながらLRの縄紋を施しているようである。

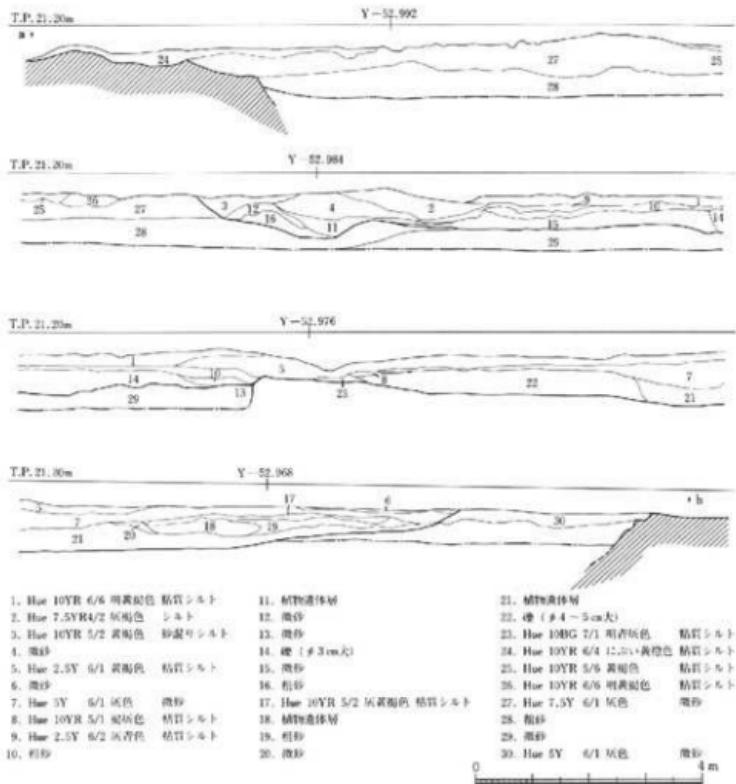
288・289は晩期に290は後期末に属すると考えられる。

出土遺物から068-ORは縄紋時代晩期に比定される。

(藤田・虎間)



第56図 068-OR出土遺物 (1/3)



第57図 068・065-OR断面土層図 (1/100)

065-OR (第57~60、図版17・26・28)

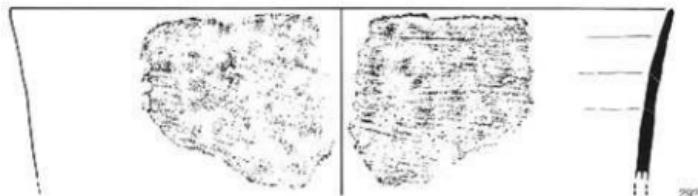
065-ORはa、b区において検出した自然河川である。幅約27mを測る。走行方向は調査区を横断する形で南から北に向かうとみられる。途中068-ORと交差している。断面の観察から068-ORの方が古いことが認められる。深さはおよそ1.0mを測る。埋土の大半が砂礫と植物遺体層からなる。なお、川床からは数カ所にドングリおよびトチが多く集中する箇所がみられた。掘方は検出できることから、網状のものに入れられて河川に保存していたものかもしれない。

縹紋土器、木製品、石器を検出した。

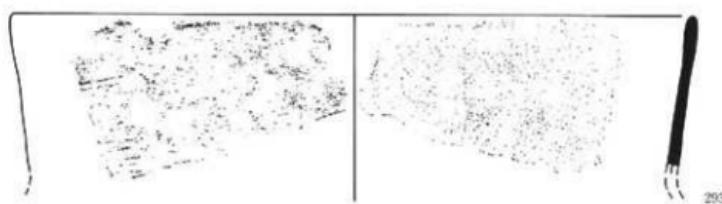
縄紋上器は全体によく磨滅している。291～293は横方向の条痕を施す深鉢である。いずれも二枚貝による条痕と思われる。291は頗著な頸部を持ち、内面はくびれの上半を板目



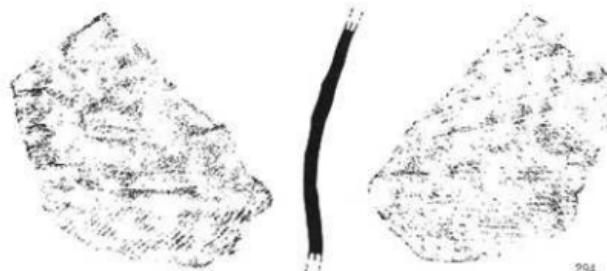
291



292



293



294



第58図 065-OR出土遺物 1 (1/3)

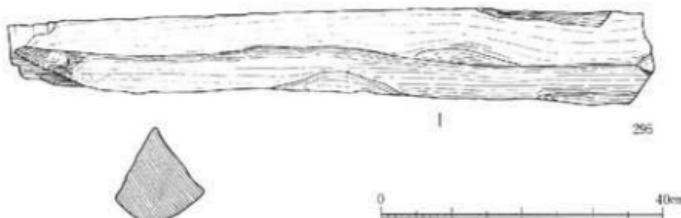
のナデを施し、くびれ部以下はケズリの様な痕跡を観察することができる。293は内面を押圧痕の上を軽くナデしている。以上の土器は晩期に属する。

294は金雲母を含む河内系の土器と思われ、くびれ部の下半で上下の施紋の方法が異なる。くびれ部から下は縄紋を施し、上は縄紋を丁寧にナデ消している。内面は二枚貝条痕を施している。後期後半に属する深鉢であろうか。

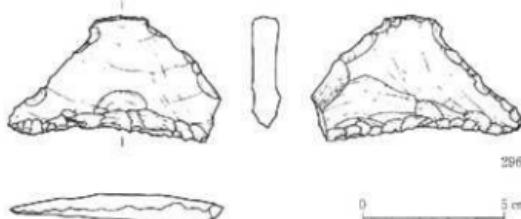
295は径約25cmの材を推定6分割に「みかん割」を行ったとみられる部材である。表面に樹皮が認められる。

296はサヌカイト製のスクレイパーである。頂部に打瘤が認められる。頂部と左面には自然面が残る。横長剝片を素材とし、刃部は階段状の剝離である。

出土遺物から065-ORは縄紋時代晩期に比定される。（藤田・山本・橋本・虎間）



第59図 065-OR出土  
遺物2 (1/8)



第60図 065-OR出土  
遺物3 (1/2)

064-OR (第61・62、図版18・25)

064-ORはa、b区において検出した自然河川である。遺構検出面は062-OSのそれより約0.5m低い面での検出である。幅約4.5~5.5mを測る。深さはおよそ1.0m、埋土は大半が砂層からなる。遺構の断面が段状を呈していることや、062-OSと平行していることから人為的な溝である可能性がもたれる。

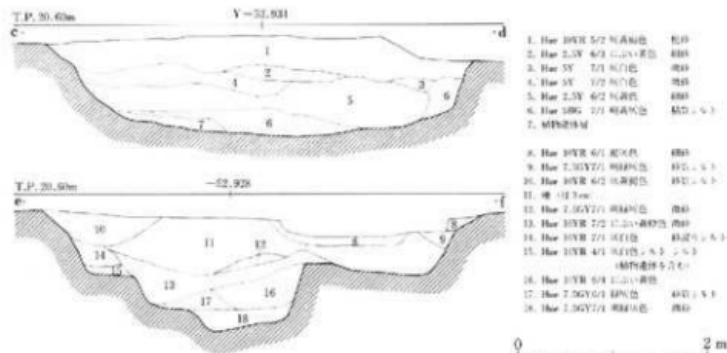
縄紋土器、弥生土器を検出した。弥生土器は図示できなかったが中期の壺の体部とみら

れる破片が出土している。

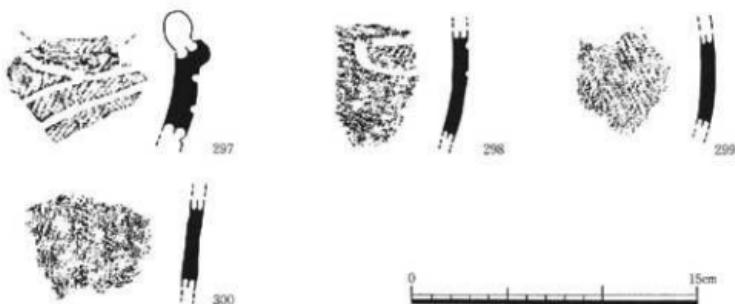
繩紋土器は全体に磨滅が著しい。297は口縁部付近の破片と考えられ、残存部上端に隆起部がある。外面全体にLRの繩紋を施し、太い沈線を巡らせる。現存部では繩紋を磨消した形跡はみられない。298は沈線が図の左上で途切れている。土器の上下関係については左右上下が90°ずれる可能性もある。299・300は器表面が荒れているものの繩紋を全体に施している。

以上の土器は後期前半に属するものと思われる。

064-ORは繩紋時代の遺物を含んでいるが、弥生時代中期のものと思われる土器も認められることから弥生時代中期頃のものと考えておきたい。  
(藤田・虎間)



第61図 064-OR断面土層図 (1/60)



第62図 064-OR出土遺物 (1/3)

### 069-OX (第63図)

069-OXはb区において検出した土坑状の遺構である。C21LQ周辺に位置している。一辺およそ12mを測る不整形な隅丸の三角形を呈する。深さ約1.4m、埋土は褐灰色系の粘質シルトである。

062-OSと重複しているが現地の観察により、当遺構の方が062-OSより先行することが確認されている。埋土にラミナ(葉層)が観察されたことから、灌水していたとみられる。遺構の西肩部で、弥生土器の鉢壺形土器を検出した。

301はコップ形を呈した小型の鉢壺形土器である。口縁部はやや内傾する。体部は下彫れ状を呈する。体部上半に紐孔を1個穿つ。

当遺構の時期は限定し難いが、062-OSとともに同構であった可能性も考えられるところから、062-OSと同時期の弥生時代後期のものと考えておきたい。

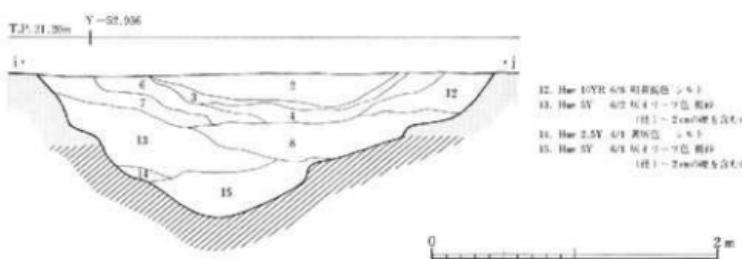
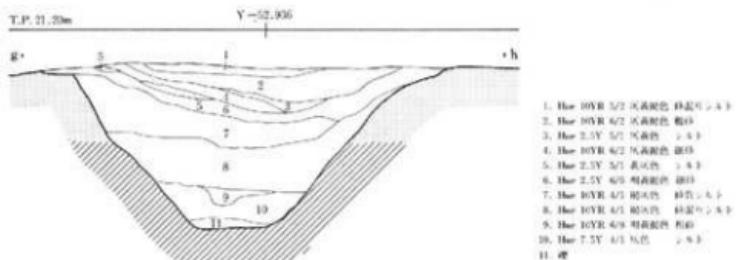
(虎間)

### 062-OS (第64~68図、図版18・19・20・24・26)

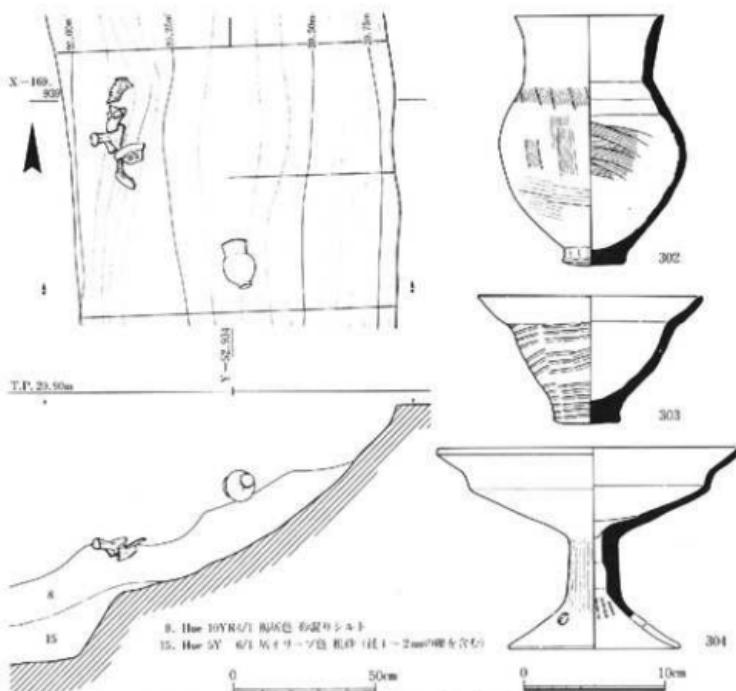
062-OSはa、b区の東側において検出した溝である。検出長約30m、幅2.6~3.2m、



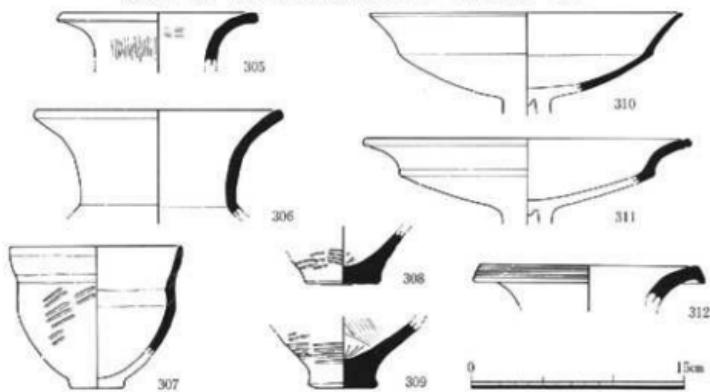
第63図 069-OX  
出土遺物  
(1/4)



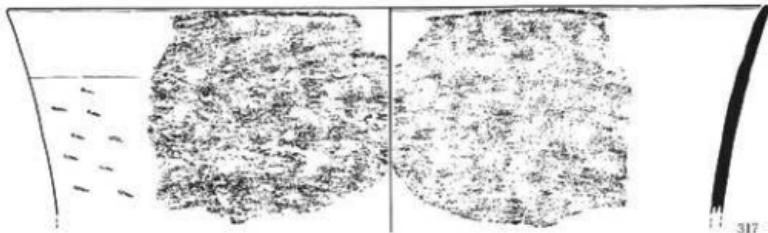
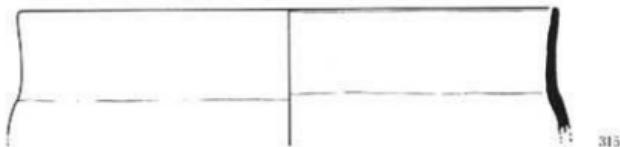
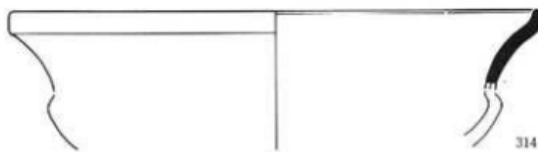
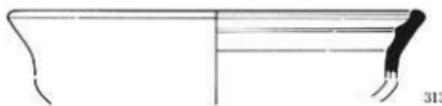
第64図 062-OS断面土層図 (1/40)



第65図 062-OS遺物出土状況図 (1/20)・出土遺物 1 (1/4)



第66図 062-OS出土遺物 2 (1/4)



第67図 062-OS出土遺物 3 (1/3)

深さ1.1mを測る。走行方向はほぼ北に向かい、064-ORに平行している。

埋土は大きく3層に分けることができる。最下層に疊が若干堆積しており、その上に灰褐色系の砂混じりシルトが堆積している。上層は砂層もしくは砂混じりのシルトである。

中層の砂混じりシルトはやや粘性をもち、ラミナ（葉層）が認められた。

主に中層から縄紋土器、弥生土器、石製品を検出した。遺物の多くは細片であったが、東肩部のC21KG地点において壺と鉢、高杯をほぼ完形の状態で検出した。これらの遺物は、砂混じりシルト層のほぼ上面（第64図の8層）に、鉢と高杯がまとまった状態で、またそのやや上方に壺が横転した状態であった。

302・305・306は壺である。303・307は鉢である。308・309は壺の底部とみられる。304・310・311は高杯である。312は器台である。いずれも弥生時代後期の所産である。

縄紋土器は全体によく摩耗している。313・314は精製の浅鉢形土器で内外面を丁寧にナデもしくは研磨している。313は波状口縁の一部になるよう口縁内面をナデて段を作りだしている。

315～317は粗製の深鉢形土器で器表面の傷みが著しいが、いずれも外面に条痕紋を施し、内面を丁寧にナデしている。315の口縁端部には浅いキザミを施した可能性もある。317の外面は一部に貝殻によるケズリのような痕跡を認められる。318は浅鉢形の土器であるが、外面の調整は粗雑で一部にケズリのような痕跡を残す。

319は太めのヘラ描き沈線で直線紋と曲線紋を施している。後期の可能性を持つが、他の土器はすべて晩期に属することから、ここでは晩期の中で考えておきたい。

321、用途不明の石製品である。円錐状の石材に2箇所の紐孔状の穿孔が認められる。

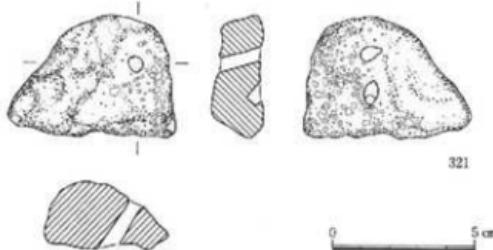
1箇所は完全に穿孔し、

もう1箇所は穿孔の途中

で止めている。

出土遺物から062-OS  
は弥生時代後期に比定さ  
れる。

(藤田・虎間)



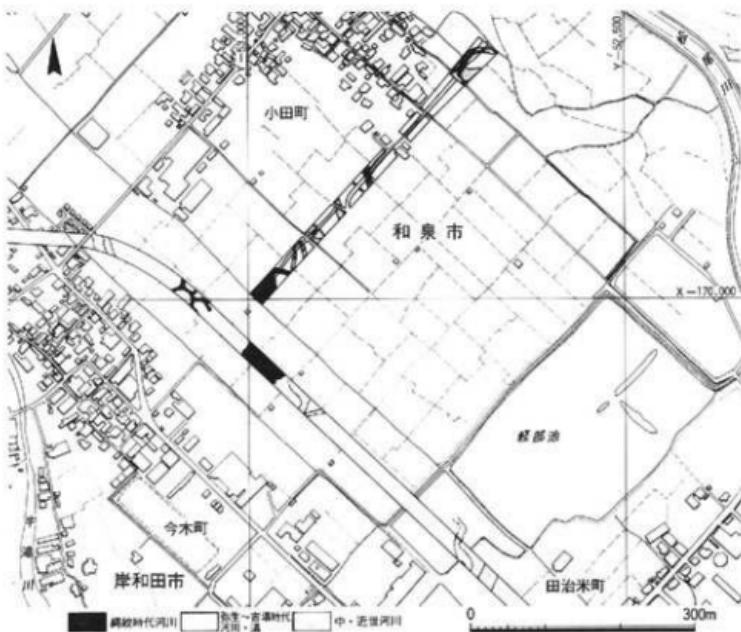
第68図 062-OS出土遺物4 (1/2)

## 第V章 まとめ

小田遺跡で検出された遺構および遺物については前章まで地区ごとに詳述した。ここでは再び代表的な遺構を時期別にみることによってそれらの持つ意味なり意義をのべることによってまとめにかえたい。

繩紋時代のものでは自然河川（065-OR）を検出した。この河川は位置からみて、脇部池西遺跡で検出されている589-<sup>主1</sup>ORと同一と考えられる。この見解は両者から出土する土器形式からみても矛盾しない。同時期の遺構は自然河川以外には明確には認められず生活の痕跡は認めがたいが、第III調査区で検出したドングリの貯蔵穴は同時期まで下る可能性のあることを示唆しておきたい。

弥生時代でも溝と自然河川を検出したのみである。075-ORでの完形の中期の大形土器



第69図 調査区周辺図 (1/7500)

がほとんど磨滅することなく出土することからみれば周辺に同時期の集落が存在することが予測されるが、昭和初期のレンガ生産に伴う大規模な粘土取りによって削平された可能性が高い。

古墳時代の代表的な遺構としては、I-f区で検出された5世紀代の掘立柱建物・土坑溝と、7世紀代の溝がある。これらはいずれも地元の話では粘土取りをまぬがれた地域に該当しており本来は今少し南方へ拡張をもっていた可能性が高い。前者は、いずれもほぼ同一時期に共存したと考えられ弧状を呈する溝（007-OS）については掘立柱建物と土坑群を区画するものと考えられる。なお、この溝からはわずか1点ではあるが滑石製の勾玉とその生産に関与した可能性の高い磁石が出土しており集落内において玉の生産のあった可能性を示しているといえる。なお、当該期の遺構は周辺地域ではほとんど認められない点を考えると、久米田池西方に所在する久米田池古墳群<sup>註2</sup>成立の基盤を考える上で意味深いものがある。また、7世紀の二条の溝の周辺では黒褐色のグライ土壤が検出されている。花粉分析を実施したところイネ科が70%を超える高い出現率を示しており水田土壤として利用されたことは疑いがなく、考古学的な検討による限り、小田遺跡における明確な水田の痕跡は当該期が上限とすることができる。蛇足ながら天平19年（747）2月11日の日付をもつ「法隆寺伽藍縁起并流記資財帳」に記載のある軽郡は当該地周辺に比定されており文献上からも注目されるところであるが、時期的には大きな矛盾のないことを指摘しておきたい。

中・近世も検出遺構の主たるものは自然河川であったが、特筆すべきものとして083-OSがある。083-OSは現行の条里制地割と同一でありその規模からみて坪境と考えて差し支えないと思われる。時期的には15世紀前葉以前の年代を与えることが可能で小田遺跡の景観が現状のあまり隔たりなくなるのはこの頃のようであり、発掘調査と周辺の事例による限りでは当地の条里制施行の上限は13世紀代とすることが可能であろう。（山本）

#### 註

註1 財團法人大阪府埋蔵文化財協会『輕部池西遺跡－発掘調査報告書－』（大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第11編）昭和62年

註2 岸和田市『岸和田市史』第1巻 昭和54年

付 遺 物 觀 察 表

## 包含層出土遺物

地 区 名 称 及 部 位 番 号	器 形	計 測 値 mm ( b. — )	性 質	土	成 分	色 調 (外 面 (内 面 (断 面))	備 考
第 4 地 区 1 國版 25	C21NT 圓紋土器 4組 深鉢	(16.0) (4.5) —	外面 滑紋、沈縫	1.0mm 大の白色粒を含む。 黒母を含む。	硬	10YR 2.6 黄褐色 5Y 2.1 底白色 5Y 3.1 オリーブ黑色	反転実測 5層
第 4 地 区 2 國版 25	C21MK 圓紋土器 562 浅鉢	(19.5) (7.2) —	口縁部 ネジ 体部 ネジ	1.0mm 大の白色粒を含む。	中	5YR 6.2 淡黄色 10YR 7.2 に近い黄褐色 10YR 7.2 に近い黄褐色	反転実測 5層
第 4 地 区 3 國版 25	C21LL 圓紋土器 469 深鉢	(26.0) (7.0) —		1.0mm 大の白色・赤色粒を含む。	軟	7.5YR 7.3 に近い褐色 7.5YR 2.1 黑色 7.5YR 2.1 黑色	反転実測 5層
第 4 地 区 4 國版 25	C21LK 圓紋土器 443 深鉢	(34.0) (6.1) —		1.0mm 大の白色・赤色粒を含む。	軟	10YR 2.1 黑色 10YR 2.1 黑色 10YR 2.1 黑色	反転実測 5層
第 4 地 区 5 國版 25	C21ML 圓紋土器 470 深鉢	(4.0) —	外面 沈縫	1.0mm 大の白色粒を含む。	軟	10YR 8.3 浅黄褐色 7.5YR 5.3 に近い褐色 10YR 3.3 褐色	5層
第 4 地 区 6 國版 25	C21MK 圓紋土器 562 深鉢	(6.2) —	外面 沈縫	1.0~ 4.0mm 大の白色粒を含む。	軟	10YR 5.2 反転褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色	5層
第 4 地 区 7 國版 27	C13LN 圓紋土器 137 浅鉢	— (3.8)	口縁部外面 ネジと目 突起 半斜面管によるネジと目	1.0mm 大の白色粒を含む。	軟	10YR 4.3 反転褐色 10YR 5.3 に近い黄褐色 10YR 4.3 反転褐色	2層
第 4 地 区 8 國版 25	C21IN 圓紋土器 377 浅鉢	— (3.6)	口縁部外面 沈縫	1.0~ 3.0mm 大の白色粒を含む。 黒母を含む。	中	10YR 5.4 に近い黄褐色 10YR 5.4 に近い黄褐色 10YR 5.4 に近い黄褐色	3層
第 4 地 区 9 國版 25	C21MK 圓紋土器 447 深鉢	— (3.2)	外面 沈縫	2.0mm 大の白色粒を含む。	硬	10YR 5.2 褐色 10YR 8.1 底白色 10YR 6.2 底褐色	5層
第 5 地 区 10 國版 27	— 圓紋土器 137 深鉢	— (3.7)	口縁部、ネジと目 口縫部 内面 滑紋 実際 平斜竹管 によるネジと目	1.0mm 大の白色粒を含む。	中	10YR 7.4 に近い黄褐色 10YR 7.2 に近い黄褐色 10YR 7.2 に近い黄褐色	6層
第 5 地 区 11 國版 25	C21LI 圓紋土器 528 深鉢	— (7.9)		1.0~ 3.0mm 大の白色粒を含む。 黒母を含む。	軟	10YR 3.2 黑褐色 10YR 6.6 反転褐色 10YR 3.2 黑褐色	5層
第 5 地 区 12 國版 27	— 圓紋土器 137 深鉢	— (3.7)	口縫部底下 ネジと目 外面 滑紋	1.0mm 大の白色粒を含む。	中	7.5YR 6.6 淡褐色 10YR 7.4 に近い黄褐色 10YR 7.4 に近い黄褐色	6層
第 5 地 区 13 國版 25	C21MN 圓紋土器 369 浅鉢	— (2.2)	外面 沈縫	1.0mm 大の白色・赤色粒を含む。	中	5Y 8.3 淡黄色 2.5Y 8.2 底白色 2.5Y 8.2 底白色	2層
第 5 地 区 14 國版 25	— 圓紋土器 835 浅鉢	— (2.0)	外面 沈縫 口縫部上端 突起	1.0mm 大の白色粒を含む。 黒母を含む。	中	2.5Y 3.2 黑褐色 2.5Y 5.2 反転褐色 2.5Y 5.2 反転褐色	3層
第 5 地 区 15 國版	C21MK 圓紋土器 562 深鉢	— (3.3)	外面 滑紋	1.0mm 大の白色粒を含む。	硬	10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 4.6 黄色	5層
第 5 地 区 16 國版	C21LL 圓紋土器 468 深鉢	— (8.0)	外面 滑紋	1.0~ 2.0mm 大の白色粒を含む。 黒母を含む。	中	10YR 8.2 底白色 10YR 4.1 黄褐色 10YR 4.1 黄褐色	5層
第 5 地 区 17 國版	C21LL 圓紋土器 469 深鉢	— (7.8)	外面 滑紋	1.0mm 大の白色粒を含む。 黒母を含む。	中	10YR 4.3 に近い黄褐色 10YR 6.3 に近い黄褐色 10YR 4.3 に近い黄褐色	5層
第 5 地 区 18 國版	C13JN 圓紋土器 133 深鉢	— (4.5) 9.8	外面 滑紋	1.0mm 大の白色粒を含む。	中	2.5Y 6.2 黄褐色 2.5Y 7.4 淡黄色 2.5Y 7.4 淡黄色	一底反転実測 3層

## 054-O R

序 号	地 区	基 礎 形 態	計 算 面 積 (m <sup>2</sup> )	技 術	植 土	硬 度	色 調 (外 面) (内 面)	備 考
第15回 40 回数	C09Q C	野生上部 茎	(25.4) (17.7) —	口様的外面 淡紋状・暗淡紋 口様的内部 ヨコナダ 葉部 ナダ	1.0~3.0mmの大白色、灰白色を含む。	硬	7.5Y 8.2 淡白色 8.5Y 8.2 淡白色 7.5Y 8.2 淡白色	反転寒暖
第15回 41 回数 21	C08U V	野生上部 茎	(11.1) (27.8) 6.0	口様的 ヨコナダ 体表面 ナダ	2.0~4.0mmの大白色、灰白色を多く含む。葉母を含む。	中	10YR 4.2 暗褐色 10YR 4.1 暗褐色	反転寒暖

## 002-O S

第16回 44 回数	—	埴生土茎	— (2.6)	口様端面 オザミ目 口様部 外面 手触竹管によるキザミ は 口様部内部 圓柱	1.0mmの大白色粒を 含む。	軟	2.5Y 8.2 淡白色 2.5Y 8.2 淡白色 10YR 5.1 淡黃褐色	
第16回 45 回数	—	野生土茎 裏	— (3.2) 4.1	底端約面 複ナダ	0.1~0.3mmの大白色粒を含む。	中	7.5Y 8.1 淡白色 7.5Y 8.2 淡白色 7.5Y 8.1 淡白色	
第16回 46 回数	C13TF F	野生土茎 茎	— (1.1) 5.2	体部外面 ナダ 體部外面 指オサエ 體部内部 ナダ	0.1~1.0mmの大白色粒を含む。	中	2.5Y 8.3 淡白色 2.5Y 8.1 淡黃褐色 7.5Y R 7.8 黄褐色	

## 055-O R

第18回 47 回数	—	野生土茎 茎	(18.0) (5.3) —	口様的内部 死紋状 葉部外面 ハケ 葉部内部 ハケ	1.0mmの大白色、灰 色粒を多く含む。	中	2.5Y 7.2 淡黃褐色 2.5Y 7.2 淡黃褐色 2.5Y 7.2 淡黃褐色	反転寒暖
第18回 48 回数	C08X U	野生土茎 裏	(11.9) (5.5) —	口様的内部 死紋状 葉部外面 濁状紋 葉部内部 ナダ	0.5~1.0mmの大白 色粒を含む。	硬	2.5Y 8.4 淡黃褐色 7.5Y 7.6 棕色 2.5Y 4.1 黄褐色	反転寒暖
第18回 49 回数	C08X S	野生土茎 裏	(13.0) (3.6) —	口様部 ヨコナダ	0.5mmの大灰色、黑 色粒を含む。	硬	7.5Y R 8.4 淡黃褐色 10YR 7.2 淡黃褐色 10YR 8.3 淡黃褐色	反転寒暖 外側スズ村着
第18回 50 回数	C08W S	野生土茎 裏	(16.0) (7.2) —	口様部 ヨコナダ 葉部外面 ハケのあとナダ 内側 ナダ 茎部 ハケ	0.5mmの大白色粒を 含む。	硬	10YR 7.3 淡黃褐色 2.5Y 8.2 底白色 2.5Y 8.2 底白色	反転寒暖
第18回 51 回数	—	野生土茎 裏	(30.6) (3.0) —	口様端面 垂状紋・円形浮紋 口様部 ヨコナダ 葉部 ナダ	0.5mmの大白色、灰 色粒を多く含む。	硬	2.5Y 8.2 淡白色 2.5Y 8.2 底白色 2.5Y 7.2 底白色	反転寒暖
第18回 52 回数	C13BW	野生土茎 茎	(26.4) (10.2) —	口様端面 円形浮紋 口様部 ヨコナダ 葉部 ナダ	0.5mmの大白色、黑 色粒を含む。	硬	7.5Y R 8.3 淡黃褐色 7.5Y R 8.2 底白色 7.5Y R 7.1 明顯灰色	反転寒暖
第18回 53 回数	C08X U	野生土茎 裏	(19.5) (4.8) —	口様部 ヨコナダ 葉部外面 ハケ 葉部内部 ナダ	2.0mmの大白色、黑 色粒を含む。	硬	2.5Y 7.2 淡黃褐色 2.5Y 7.2 淡黃褐色 2.5Y 7.2 淡黃褐色	反転寒暖
第18回 54 回数	—	野生土茎 茎	(5.4) —	口様端面 円形浮紋・垂状紋	0.5~2.0mmの大白 色粒を多く含む。 葉母を含む。	中	10YR 4.2 淡黃褐色 10YR 4.2 淡黃褐色 10YR 4.1 淡黃褐色	河内處
第18回 55 回数	—	野生土茎 裏	(7.0) —	口様端面 円形浮紋・垂状紋	0.5~2.0mmの大白 色粒を多く含む。 葉母を含む。	硬	2.5Y 6.2 淡黃褐色 10YR 2.1 黑色 2.5Y 4.1 黄褐色	河内處
第18回 56 回数	C13AV	野生土茎 茎	(32.8) (4.0) —	口様部 ヨコナダ 葉部 ナダ	0.5~1.0mmの大白 色、黑色粒を含む。	中	2.5Y 8.3 底白色 2.5Y 8.4 淡黃褐色 7.5Y 8.2 底白色	反転寒暖
第18回 57 回数	C13AY	野生土茎 茎	(36.8) (4.0) —	口様端面 厚状紋・垂状紋 口様部 ナダ	0.5mmの大白色粒を 含む。	硬	2.5Y 6.3 淡黃褐色 10YR 9.4 淡黃褐色 10YR 7.2 淡黃褐色	反転寒暖

序 回 数	地 区	被 覆 形 態	1. 計測值 b.	計 法	動 土	発 成	色 調 (外 面) (内 面) (底 面)	備 考
第18回 58 回版	C08YW 213	寄生土苔 葉	32.0 (3.5)	体部外葉 ナデ 体部内葉 ヘラケズリ	0.5mm大の白色粒を 含む。	中	10YR 8.3 淡黄緑色 10YR 8.2 灰白色 7.5YR 7.6 橙色	
第18回 59 回版	— 311	寄生土苔 葉	(12.6) (3.7)	口縁部 ヨコナデ 体部内葉 ナデ	1.0mm大の白色・灰 色粒を含む。	硬	7.5YR 8.6 棕色 10YR 8.2 灰白色 10YR 5.1 暗灰色	反転実測
第18回 60 回版	— 230	寄生土苔 葉	(17.0) (5.0)	口縁部 ヨコナデ 體部内葉 テオサエ 体部 ナデ	0.5mm大の白色粒を 含む。	中	10YR 8.3 淡黄緑色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第18回 61 回版	C08XT 196	寄生土苔 葉	(11.6) (6.0)	体部外葉 ハゲ	1.0mm大の褐色粒を 含む。	中	7.5YR 8.1 灰白色 10YR 8.2 灰白色 10YR 8.3 淡黄緑色	反転実測
第18回 62 回版	C08XU 919	寄生土苔 葉	(29.2) (5.9)	口縁部 ヨコナデ 体部 ナデ	0.5mm大の白色粒を 含む。	中	5YR 7.6 棕色 5YR 7.6 棕色 10YR 7.2 にぶい黄緑色	反転実測
第19回 63 回版	C13AX 280	寄生土苔 高年	(30.6) (4.6)	口縁部 ヨコナデ	0.5~1.0mm大の白 色・灰色粒を含む。	中	10YR 8.4 淡黄緑色 10YR 8.4 淡黄緑色 10YR 8.4 淡黄緑色	反転実測
第19回 64 回版	C08WS 197	寄生土苔 高年	(9.2) 13.5	—	1.0~2.0mm大の灰 色・黑色粒を含む。	硬	7.5YR 6.6 黄緑色 7.5YR 6.6 黄緑色 2.5YR 5.1 露泛色	
第19回 65 回版	C13AY 295	寄生土苔 葉	(21.6) 5.9	体部上半 ハゲのちナデ 体部下半 ハゲのちヘラミガ + 体部内葉 ナデ	2.0~4.0mm大の白 色・灰色粒を含む。	硬	2.5Y 7.2 淡黄緑色 2.5Y 6.1 黄緑色 2.5Y 6.1 黄緑色	一般反転実測
第19回 66 回版	— 281	寄生土苔 葉	(13.0) (3.9)	口縁端部 刈目 口縁部 ヨコナデ 體部 ナデ	0.5~2.0mm大の赤 色粒を含む。	中	7.5YR 8.1 灰白色 7.5YR 8.2 灰白色 7.5YR 8.2 灰白色	反転実測
第19回 67 回版	C13AX 316	寄生土苔 葉	(15.4) (5.2)	口縁端部 竹葉形羽状	1.0mm大の白色粒を 若干含む。	硬	10YR 7.3 にぶい黄緑色 10YR 7.3 にぶい黄緑色 10YR 7.3 にぶい黄緑色	反転実測
第19回 68 回版	C13AX 318	寄生土苔 葉	(16.2) (2.1)	口縁端部 竹葉形羽状	0.6mm大の白色粒を 若干含む。	軟	3YR 7.6 棕色 3YR 7.6 棕色 3YR 7.6 棕色	反転実測
第19回 69 回版	C08XU 946	寄生土苔 葉	16.0 (4.9)	口縁端部 竹葉紋 口縁部内葉 波状紋+ヘラ ナデ	3.0~5.0mm大の白 色粒を若干含む。	中	5YR 7.6 棕色 5YR 7.6 棕色 10YR 7.4 にぶい黄緑色	
第19回 70 回版	— 292	寄生土苔 葉	(17.8) (4.5)	口縁部 ヨコナデ 口縁部外葉 背形浮紋 體部 ナデ	1.0~3.0mm大の白 色・黑色粒を含む。	小	10YR 7.6 明黄緑色 10YR 6.6 明黄緑色 10YR 6.6 明黄緑色	反転実測
第19回 71 回版	— 285	寄生土苔 葉	(16.4) (1.5)	口縁部 ヨコナデ	0.5mm大の白色・黑 色粒を含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.3 淡黄色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第19回 72 回版	— 281	寄生土苔 葉	(12.4) (5.0)	口縁部 ヨコナデ 体部外葉 ハタキ 体部内葉 ナデ	0.5mm大の白色粒を 含む。	中	10YR 8.2 灰白色 5Y 4.1 灰色 10YR 8.4 淡黄緑色	反転実測
第19回 73 回版	— 284	寄生土苔 葉	(13.2) (3.7)	体部外葉 ハタキ 体部内葉 ナデ	2.0~4.0mm大の褐 色粒を含む。	中	7.5YR 8.2 灰白色 7.5Y 8.1 灰白色 7.5YR 8.4 淡黄緑色	反転実測
第19回 74 回版	C13AY 287	寄生土苔 葉	(14.0) (5.0)	口縁部 ヨコナデ 体部外葉 ハタキ 体部内葉 ナデ	0.5mm大の白色・褐 色粒を含む。	硬	2.5Y 8.3 淡黃色 10YR 8.2 淡白色 10YR 8.2 淡白色	反転実測
第19回 75 回版	C08XT 180	寄生土苔 葉	(16.0) (5.5)	体部外葉 ハタキ	1.0mm大の白色粒を 含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 5Y 6.1 灰色 5Y 7.1 灰白色	反転実測
第19回 76 回版	C08XU 949	寄生土苔 葉	(16.4) (5.9)	口縁部外葉 ヨコナデ、内葉 波ナデ 体部外葉 ハタキ 内葉 ナデ	0.5~2.0mm大の白 色・黑色粒を含む。	硬	5YR 7.4 にぶい棕色 5YR 7.8 棕色 5YR 7.6 棕色	反転実測

種 別 固 定 版	地 区	品 種	1. 計測数 量	性 状	地 土	質 感	色 調 (外 面) (内 面) (底 面)	考 察
第 19 固 定版 27 固定版 29	C08VU	赤生土器	(16.0) (6.5) —	口縁部 ロコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 —	2.0~ 4.0mm 大の白色・灰色を多く含む。	硬	5Y 8/1 底白色 5Y 8/1 底白色 5Y 8/1 底白色	外筋入付有 反転実測
第 19 固 定版 28 固定版 29	—	赤生土器	(18.0) (9.0) —	口縁部 ロコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	3.0mm 大の白色を多く含む。	硬	10YR 7/2 に 5Y 浅褐色 2.5Y 7/2 底黄色 10YR 5/2 底青褐色	反転実測
第 20 固 定版 29 固定版 29	—	赤生土器	(16.2) (5.3) —	口縁部 ロコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	0.5~ 2.0mm 大の白色を含む。	中	5YR 8/3 深褐色 5YR 8/4 深褐色 5YR 8/3 深褐色	反転実測
第 20 固 定版 30 固定版 29	C13BW	赤生土器	(19.0) (6.0) —	口縁部 ロコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	3.0mm 大の白色粒、 7.0mm 大の白色を含む。	硬	10YR 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/1 底白色	反転実測
第 20 固 定版 31 固定版 30	—	赤生土器	(20.6) (4.3) —	口縁部 ロコナデ 体部外面 ナデ	0.5~ 1.0mm 大の白色を含む。	硬	7.5YR 7/4 に 5Y 浅褐色 5YR 7/4 に 5Y 浅褐色 10YR 7/3 に 5Y 浅褐色	反転実測
第 20 固 定版 32 固定版 32	—	赤生土器	(10.0) (4.3) —	口縁部 ロコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	1.0~ 5.0mm 大の白色を含む。	中	2.5Y 8/3 底黄色 2.5Y 8/3 底黄色 2.5Y 8/3 底黄色	反転実測
第 20 固 定版 33 固定版 31	C08YX	赤生土器	(6.6) 4.8	体部外面 タタキ 体部内面 ナデ 底部内面 ハケ	0.5~ 3.0mm 大の白色・灰色を含む。	中	10YR 8/4 浅褐色 10YR 8/3 浅褐色 10YR 8/4 浅褐色	
第 20 固 定版 34 固定版 30	—	赤生土器	(5.2) —	体部外面 タタキのちハケ 体部内面 ハラケグリ	1.0mm 大の白色粒を含む。	硬	10YR 7/3 に 5Y 浅褐色 10YR 7/3 に 5Y 浅褐色 10YR 7/3 に 5Y 浅褐色	外筋入付有 (庄内式窯)
第 20 固 定版 35 固定版 949	C06XU	赤生土器	(4.0) 5.4	—	0.5mm 大の白色粒を含む。	中	10YR 6/6 明黄色 10YR 6/6 明黄色 10YR 6/6 明黄色	底部穿孔
第 20 固 定版 36 固定版 321	—	赤生土器	(3.4) 8.5	脚部 ナデ	2.0~ 5.0mm 大の白色・灰色・黑色を含む。	中	7.5YR 8/2 浅褐色 7.5YR 8/2 浅褐色 7.5YR 8/2 浅褐色	
第 20 固 定版 37 固定版 318	C13AX	赤生土器	(4.6) 7.4	体部外面 タタキ 脚部外面 ナデ 脚部内面 ハナダ	2.0~ 4.0mm 大の白色を含む。	硬	7.5YR 7/2 浅褐色 7.5YR 7/2 浅褐色 7.5YR 7/2 棕褐色	一部反転実測
第 20 固 定版 38 固定版 268	C13AT	赤生土器	(4.5) 16.0	—	1.0~ 2.0mm 大の白色粒、3.0mm 大の白色を含む。	硬	2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色	一部反転実測
第 20 固 定版 39 固定版 308	—	赤生土器	(5.9) (7.0)	—	1.0mm 大の白色・灰色・褐色を多く含む。	硬	2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色	反転実測 2段4方向スカシ
第 20 固 定版 40 固定版 265	—	赤生土器	(17.0) (3.8) —	—	0.5mm 大の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 8/4 浅褐色 2.5Y 6/1 黄褐色 7.5YR 8/4 浅褐色	反転実測
第 20 固 定版 41 固定版 320	—	赤生土器	(19.0) (5.0) —	—	1.0~ 3.0mm 大の白色を含む。	硬	5YR 7/6 棕褐色 5YR 7/8 棕褐色 5YR 7/6 棕褐色	反転実測
第 20 固 定版 42 固定版 281	—	赤生土器	(13.6) (4.7) —	口縁部 ロコナデ 杯部 ナデ	0.5~ 1.0mm 大の白色・黑色を含む。	中	7.5YR 8/3 浅褐色 7.5YR 8/3 浅褐色 7.5YR 8/3 浅褐色	反転実測
第 20 固 定版 43 固定版 189	C08XT	赤生土器	(18.6) (11.4) —	杯部 ヘラミガキ 脚部外面 ヘラミガキ	0.5mm 大の白色・灰色を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 5/1 黄褐色	反転実測
第 20 固 定版 44 固定版 283	C13AX	赤生土器	(6.2) —	底部内面 ヘラミガキ 底部外面 ヘラミガキ	1.0~ 2.0mm 大の白色・灰色を含む。	硬	10YR 8/2 底白色 10YR 8/2 底白色 10YR 8/2 底白色	一部反転実測 4方向スカシ
第 20 固 定版 45 固定版 321	—	赤生土器	(2.6) (13.0)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 ロコナデ	1.0~ 2.0mm 大の白色・灰色を含む。	中	7.5YR 8/2 底白色 7.5YR 8/2 底白色 7.5YR 8/2 底白色	反転実測 (庄内式)

博 物 館 記 録 版	地 区 名 称 登録番号	基 礎 種 類 形	計 測 数 量 目 数	技 法	剖 土	焼 成	色 調 (外 面) (内 面) (底 面)	備 考
第22回 96 回数	— 321	井生上部 手植形土器	— (6.9)	断面塗装 液状灰 断部外側 ナデ 断部内側 規ナデ	2.0~3.0mmの白色・灰色を多く含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 7.1 灰白色 10YR 4.1 灰褐色	

## 058-O R

第22回 100 回数	C13BV 264	土 壹 錠 重	(17.7) (5.4)	口縁部 ナデ —	1.0mmの大の白色・褐色を含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.3 灰褐色 2.5Y 6.1 灰褐色	反転実測
第22回 101 回数	C09WB 272	土 壱 錠 重	(16.6) (5.9)	—	3.0mmの大の白色・褐色を含む。	中	10YR 7.2 に.5灰褐色 10YR 7.2 に.5灰褐色 10YR 7.2 に.5灰褐色	
第22回 102 回数	C09WA 225	土 壴 錠 重	(20.0) (8.2)	口縁部 ノコナデ —	1.0~2.0mmの大の白色を多く含む。	硬	7.5YR 7.6 绿色 5YR 5.8 明赤褐色 10YR 7.2 に.5灰褐色	
第22回 103 回数	C08YY 218	土 壴 錠 重	(19.6) (8.2)	口縁部 ナデ 口根部 ハケ	0.5~1.0mmの大の白色・灰色を多く含む。	中	5YR 8.1 灰绿色 5YR 8.1 灰绿色 7.5YR 8.3 灰褐色	反転実測
第22回 104 回数	C13AW 271	土 壴 錠 重	(12.7) (7.3)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ、内面 ヘラケズリ 底部内面 扇オサエ	0.5~2.0mmの大の白色・褐色を多く含む。	硬	5YR 7.4 に.5灰褐色 10YR 8.2 灰白色 5YR 6.6 灰色	
第22回 105 回数	C13AW 233	土 壴 錠 重	(12.0) (9.9)	口縁部 ノコナデ 体部内面 ハケ、内面 ヘラケズリ 底部内面 扇オサエ	3.0mmの大の白色・褐色を多く含む。	中	5YR 8.6 灰色 5YR 6.6 灰色	
第22回 106 回数	C09XA 198	土 壴 錠 重	(—) (7.3)	—	1.0~2.0mmの大の白色・灰色を含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 7.2 灰褐色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測 と同一個体
第22回 107 回数	C09XA 198	土 壴 錠 重	(—) (12.9)	体部外側 ハケ	1.0~2.0mmの大の白色・褐色を含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	と同一個体
第22回 108 回数	C13CV 269	土 壴 錠 重	(14.6) (10.5)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ 体部内面 ヘラケズリ	1.0mmの大の白色・褐色を多く含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第23回 109 回数	C13BV 261	土 壴 錠 重	(17.4) (3.5)	口縁部 ノコナデ 底部 ナデ	0.5mmの大の褐色を含む。	中	7.5Y 8.4 淡黄褐色 2.5Y 8.3 淡黄色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第23回 110 回数	C13AV 289	土 壴 錠 重	(11.0) (4.2)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ノコナデ 体部内面 ヘラケズリ	0.5mmの大の褐色を含む。	硬	10YR 8.2 淡绿褐色 2.5Y 8.2 淡黄色 10YR 7.8 黄褐色	反転実測
第23回 111 回数	C13CV 268	土 壴 錠 重	(16.2) (6.7)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ 体部内面 ヘラケズリ	0.5mmの大の白色・褐色を多く含む。	硬	10YR 5.2 淡新褐色 2.5Y 4.1 黄褐色 7.5YR 7.6 12.5 绿色	反転実測
第23回 112 回数	C08XB 245	土 壴 錠 重	(13.9) (8.6)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ 体部内面 ヘラケズリ	0.5~1.0mmの大の白色・褐色を含む。	中	10YR 8.2 灰白色 10YR 6.1 灰褐色 10YR 7.2 に.5灰褐色	反転実測
第23回 113 回数	C09XA 213	土 壴 錠 重	(17.6) (12.0)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ 体部内面 ヘラケズリ	0.5mmの大の黑色を含む。	硬	10YR 5.1 灰褐色 7.5YR 4.1 灰褐色 7.5YR 5.1 灰褐色	
第23回 114 回数	— 292	上 壴 錠 重	(16.0) (10.3)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ 体部内面 ヘラケズリ	0.5~2.0mmの大の白色を含む。	中	10YR 8.2 灰白色 10YR 8.1 灰白色 10YR 7.1 灰白色	反転実測
第23回 115 回数	C08WT 187	土 壴 錠 重	(15.0) (25.7)	口縁部 ノコナデ 体部外側 ハケ、内面 ヘラケズリ 底部内面 扇オサエ	0.5mmの大の灰色を含む。	硬	10YR 2.2 に.5灰褐色 2.5Y 7.2 灰褐色 2.5Y 7.2 灰褐色	一部反転実測
第23回 116 回数	C08YY 272	土 壴 錠 重	(—) (17.2)	体部外側 ハケ 体部内面 ヘラケズリ 底部内面 扇オサエ	1.0mmの大の白色を含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 6.1 黄褐色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測

種 類 固 定 版	地 区	品 種 名	1. 計測面 積 mm <sup>2</sup>	性 状	新 土	焼 成	色 調 (外 面) (内 面) (底 面)			備 考
							口縁部 体部外面 体部内面	ヨコナデ ナデ ナデ	5 YR 8.3 淡黄褐色 10YR 8.3 淡黄褐色 5 YR 7.6 橙色	
第 23 固 117 固定版	—	上 細 箕	(7.9) 5.8 —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ 体部内面 ナデ	0.5~ 2.0mm 大の白色 色粒を含む。	中	5 YR 8.3 淡黄褐色 10YR 8.3 淡黄褐色 5 YR 7.6 橙色			
第 23 固 118 固定版	C06YW 322	土 細 箕	(4.0) 2.6 —	底部内面 ナデ	3.0mm 大の白色・灰色 ・褐色を多く含む。	硬	2.5Y 8.3 淡黄褐色 2.5Y 8.3 淡黄色 2.5Y 8.3 淡黄色			
第 23 固 119 固定版 21	C13AV 294	土 細 箕	(7.3) —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ 底部外面 ナデ、内面 ヨコサエ	0.5~ 1.0mm 大の白色・灰色 ・褐色を含む。	硬	10YR 8.2 淡白色 2.5Y 8.2 淡白色 10YR 8.2 淡白色			
第 23 固 120 固定版 21	C09XC 219	土 細 箕	(10.2) 9.9 —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ 底部外面 ナデ、内面 ヨコサエ	0.5~ 5.0mm 大の白色 色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8.2 淡白色 2.5Y 8.2 淡白色 5 YR 8.3 淡褐色		一部反転実測	
第 23 固 121 固定版 21	C08VT 102	土 細 箕	(8.3) 8.2 —	口縁部 ヨコナデ 体部 ナデ 底部内面 ヨコサエ	1.0~ 5.0mm 大の白色・灰色 ・褐色を多く含む。	硬	10YR 8.3 淡黃褐色 10YR 8.3 淡黃褐色 5 YR 8.3 淡褐色			一部反転実測
第 23 固 122 固定版 21	C13AV 282	土 細 箕	8.2 — (7.7)	口縁部 ヨコサエ	0.5~ 4.0mm 大の白色 色粒を含む。	中	7.5YR 7.4 に近い淡褐色 10YR 7.2 に近い淡褐色 10YR 7.2 に近い淡褐色			
第 24 固 123 固定版	C08WT 188	土 細 箕	(9.3) — (7.2)	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハラミガキ 体部内面 ナデ	0.5mm 以下の白色粒 を若干含む。	硬	2.5Y 8.2 淡白色 2.5Y 8.2 淡白色 2.5Y 8.2 淡白色			反転実測
第 24 固 124 固定版	—	上 細 箕	(8.4) — (8.2)	口縁部外面 ハラミガキ、内 面 ナデ 体部外面 ハラミガキ 内面 ヨコサエ ナデ	0.5mm 以下の白色粒 を若干含む。	硬	10YR 7.4 に近い淡褐色 10YR 7.4 に近い淡褐色 10YR 7.4 に近い淡褐色			反転実測
第 24 固 125 固定版	C06YW 243	上 細 箕	(10.6) — (6.1)	—	0.5mm 大の白色粒を 含む。	中	5 YR 7.6 橙色 2.5Y 6.8 橙色 5 YR 7.6 橙色			
第 24 固 126 固定版 21	C13BY 305	土 細 箕	(14.2) — (4.6)	口縁部 ヨコナデ 体部内面 ハラミガキ 底部外面 ハラミガキ	0.5mm 以下の白色粒 を若干含む。	硬	10YR 8.2 淡白色 10YR 8.2 淡白色 7.5YR 7.4 に近い淡褐色			反転実測
第 24 固 127 固定版 22	C06YY 207	土 細 箕	(17.4) — (11.2)	环部外面 ハケ 脚部外面 ハケのちへラミガキ	0.5~ 1.0mm 大の白色 ・灰色を含む。	中	7.5Y 8.6 淡黃褐色 7.5YR 8.6 淡黃褐色 7.5YR 8.3 淡黃褐色			一部反転実測
第 24 固 128 固定版	C06YW 265	土 細 箕	(15.8) — (12.8)	—	1.0~ 3.0mm 大の白色 ・灰色を多く含む。	軟	5 YR 7.4 に近い褐色 5 YR 7.4 に近い褐色 10YR 7.4 に近い褐色			反転実測
第 24 固 129 固定版 22	C09WB 215	土 細 箕	17.6 — (5.7)	口縁部 ヨコナデ 环部 ハケ	0.5~ 3.0mm 大の白色 ・灰色を含む。	硬	7.5YR 8.4 淡黃褐色 7.5YR 8.4 淡黃褐色 7.5YR 8.4 淡黃褐色			
第 24 固 130 固定版 22	C08XU 913	土 細 箕	(16.4) — (6.1)	—	0.5mm 以下の白色粒 を若干含む。	中	5 YR 8.4 淡黃褐色 7.5YR 8.6 淡黃褐色 7.5YR 8.2 淡黃褐色			反転実測
第 24 固 131 固定版	C13AW 266	土 細 箕	(15.2) — (5.7)	口縁部 ヨコナデ	0.5mm 大の白色 色粒を含む。	中	7.5YR 7.8 淡黃褐色 7.5YR 7.6 橙色 7.5YR 7.8 淡黃褐色			反転実測
第 24 固 132 固定版 22	C08YY 218	土 細 箕	(16.4) — (5.3)	—	3.0mm 大の白色粒を 若干含む。	硬	7.5YR 7.4 に近い褐色 7.5YR 7.4 に近い褐色 10YR 8.2 淡白色			反転実測
第 24 固 133 固定版	C06YY 226	土 細 箕	(16.0) — (6.6)	环部内面 ハラミガキ	0.5~ 2.0mm 大の白色 ・灰色を含む。	硬	10YR 6.3 に近い淡褐色 5 YR 7.1 に近い褐色 5 YR 6.6 橙色			反転実測
第 24 固 134 固定版	—	土 細 箕	(15.0) — (4.4)	口縁部 ヨコナデ 环部 ナデ	0.5mm 大の白色粒を 含む。	中	10YR 8.3 淡黃褐色 10YR 8.3 淡黃褐色 10YR 8.3 淡黃褐色			反転実測
第 24 固 135 固定版	C09YA 216	土 細 箕	(16.0) — (6.0)	环部内面 ハラミガキ	0.5~ 2.0mm 大の白色 ・灰色を含む。	中	5 YR 7.6 橙色 7.5YR 8.3 淡黃褐色 10YR 7.3 に近い淡褐色			反転実測

地 区 名 称	地 区 名 称	基 礪 種 類	計 測 面 積 ( m <sup>2</sup> )	被 覆 状 況	動 土	被 度	色 調 (外 面) (内 面) (断 面)	備 考
第24回 136 回数	C13A Y 257	土 壤 器 高 环	(20.0) (5.6) —	口縁部 ヨコナデ 環状外葉 ナデ 環状内葉 ナデ・ヘラミガキ	0.5mmの白色粒を含む。	中	5YR 6.6 緑色 7.5YR 7.6 に5YR 緑色 5YR 6.6 緑色	反射実測
第24回 137 回数	C08Y T 871	土 壤 器 高 环	(—) (8.9) (12.4)	脚部外葉 ヘラミガキ 脚部内葉 裂り根	0.5mm大的白色・褐色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	反射実測
第24回 138 回数	— 284	土 壤 器 高 环	(—) (8.9) (11.8)	脚部外葉 ハケのちナデ 脚部内葉 ハケのちナデ・板 ナデ	0.5mm大的白色粒を含む。	中	10YR 7.6 可黄綠色 10YR 5.1 開紫色 10YR 8.4 可黃綠色	
第24回 139 回数	C13C V 269	土 壤 器 高 环	(—) (7.1) (12.4)	脚部内葉 ナオサニ	1.0mm大的白色・褐色粒を多く含む。	軟	7.5YR 8.1 可黃綠色 7.5YR 8.1 可黃綠色 10YR 8.3 可黃綠色	一部反射実測
第24回 140 回数	C13A Y 268	土 壹 器 高 环	(—) (7.8) (13.1)	脚部外葉 ヘラミガキ	0.5~1.0mm大的白色・褐色粒を含む。	硬	5YR 8.4 純綠色 7.5YR 8.1 可黃綠色 5YR 8.1 純綠色	反射実測
第24回 141 回数	C08Y Y 218	土 壹 器 高 环	(—) (8.2)	脚部内葉 裂り根・ハケ	0.5mm大的白色・褐色粒を含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	脚部外葉平 行反射
第25回 142 回数	C08Y Y 313	外 生 土 器 壺	(12.8) (3.8) —	口縁部 ヨコナデ 底部 ナデ	0.5mm大的白色粒を含む。	硬	2.5Y 7.2 可黃色 2.5Y 7.2 可黃色 2.5Y 7.3 可黃色	反射実測
第25回 143 回数	C09Y A 221	外 生 土 器 盆	(—) (6.7)	体部外葉 楊枝紋	1.0mm大的白色粒を含む。	軟	10YR 8.2 灰白色 10YR 8.3 可黃綠色 10YR 6.1 開灰色	
第25回 144 回数	C09Y A 221	外 生 土 器 高 环	(—) (7.5)	—	1.0mm大的白色・褐色粒を含む。	中	7.5YR 7.8 純綠色 7.5YR 7.8 純綠色 7.5YR 7.8 純綠色	
第25回 145 回数	C08Y X 361	外 生 土 器 壺	(—) (11.5) (9.0)	—	3.0~5.0mm大的赤 色粒を含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.3 可黃色 2.5Y 8.3 可黃色	
第25回 146 回数	C08Y Y 313	外 生 土 器 壺	(12.8) (5.8)	口縁部 ヨコナデ 体部外葉 タタキ	0.5~2.0mm大的白 色粒を含む。	硬	2.5Y 8.2 灰白色 10YR 8.1 灰白色 10YR 8.2 灰白色	反射実測
第25回 147 回数	C08Y Y 207	外 生 土 器 盆	(10.1) 7.3 2.5	口縁部 ヨコナデ 体部外葉 タタキのちナデ 体部内葉 板ナデのちナデ	1.0~5.0mm大的白 色粒を多く含む。	硬	2.5Y 6.2 灰黃色 10YR 4.1 純綠色 2.5Y 5.1 純綠色	一部反射実測
第25回 148 回数	C09X C 221	外 生 土 器 高 环	(—) (6.2)	—	0.5~1.0mm大的白 色粒を含む。	硬	5YR 8.4 純綠色 5YR 8.3 純綠色 5YR 7.6 純綠色	
第25回 149 回数	C09X C 221	外 生 土 器 高 环	(—) (7.3)	—	0.5~3.0mm大的白 色粒を含む。	硬	7.5YR 8.2 可黃綠色 2.5Y 8.2 可黃綠色 5YR 7.4 に5YR 純綠色	一部反射実測 2方向スキャン
第25回 150 回数	C09Y A 216	外 生 土 器 高 环	(—) (4.3)	—	0.5mm大的白色粒を 含む。	中	10YR 7.4 に5YR 純黃綠色 2.5Y 7.3 可黃綠色 2.5Y 6.2 純黃綠色	一部反射実測

## 007-O S

第30回 151 回数	C13A T 873	土 壌 器 壺	(15.6) (4.9) —	—	2.0mm大的白色・赤 色粒を含む。	中	5YR 6.6 純綠色 5YR 7.4 に5YR 純綠色 5YR 4.1 純黃綠色	反射実測
第30回 152 回数	C12B T 963	土 壌 器 壺	(18.0) (7.6) —	口縁部 ヨコナデ	1.0mm大的白色・赤 色粒を含む。	中	10YR 8.1 可黃綠色 7.5YR 8.4 可黃綠色 7.5YR 5.1 開紫色	反射実測
第30回 153 回数	C13A T 875-905	土 壌 器 壺	(18.4) (5.5) —	口縁部 ヨコナデ	0.5mm大的白色・黑 色粒を含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 10YR 5.4 に5YR 黃綠色 2.5Y 6.1 黃白色	反射実測

被 属 國 國 版	地 区	器 種 名	1. 計測值 %	性 状	熟 度	色 調 (外 面) (内 面) (断 面)	備 考
第 30 國 154 國版	C13B T 932	土 壤 粘 重	(18.0) (6.0) —		0.5mm人の白色粉を含む。	硬 7.5YR 7.6 棕色 7.5YR 7.6 棕色 7.5YR 7.6 棕色	反転実測
第 30 國 155 國版	C13A T 871	土 壤 粘 重	(19.1) (6.4) —		4.0mm大の白色・黒色粒を多く含む。	中 10YR 6.4 にぶい黄褐色 10YR 7.2 にぶい黄褐色 10YR 8.1 黄白色	反転実測
第 30 國 156 國版	C13A T 931	土 壤 粘 重	(13.3) (3.5) —	口縁部 ヨコナデ	1.0~ 2.0mm人の白色・黒色粒を含む。	中 10YR 7.3 にぶい黄褐色 10YR 8.4 にぶい黄褐色 10YR 9.1 黄白色	反転実測
第 30 國 157 國版	C13A T 875	土 壤 粘 重	(14.7) (2.4) —	口縁部 ヨコナデ	0.5mm大の白色・黒色粒を含む。	硬 7.5YR 7.4 にぶい黄褐色 7.5YR 7.4 にぶい黄褐色 7.5YR 6.4 にぶい黄褐色	反転実測
第 30 國 158 國版	C13C U 918	土 壤 粘 重	(14.5) (5.6) —	口縁部 ヨコナデ	0.5~ 1.0mm大の白色粒を含む。	中 7.5YR 8.4 にぶい黄褐色 10YR 8.4 にぶい黄褐色 10YR 7.2 にぶい黄褐色	反転実測
第 30 國 159 國版	C13A T 873	土 壤 粘 重	(17.0) (4.8) —		1.0~ 4.0mm大の白色・黒色粒を含む。	中 10YR 7.2 にぶい黄褐色 10YR 8.1 黄白色 10YR 6.3 にぶい黄褐色	反転実測
第 30 國 160 國版	C13A T 888	土 壤 粘 重	(15.8) (8.1) —	体部内面 指オサエ	0.5~ 2.0mm大の白色・黒色粒を多く含む。	中 10YR 8.2 黄白色 10YR 8.2 黄白色 10YR 8.2 黄白色	反転実測
第 30 國 161 國版	C13A T 882	土 壹 粘 重	(16.4) (7.1) —	口縁部 ヨコナデ 体部外側 チヂ 体部内面 指オサエ	0.5~ 1.0mm大の黑色粒を含む。	中 10YR 8.1 黄白色 10YR 8.2 黄白色 10YR 7.6 明黄色	反転実測
第 30 國 162 國版	C13B T 947	土 壴 粘 重	(15.0) (9.7) —	口縁部内面 ハケのちヨコチ テ テ部分外側 ハケ、内面 指オサエ・ヘラケズリ	0.5mm大の白色・褐色・赤色粒を含む。	中 2.5Y 8.2 黄白色 10YR 8.1 黄白色 10YR 7.6 明黄色	反転実測
第 30 國 163 國版	C13B U 252	土 壴 粘 重	(13.5) (6.3) —	体部内面 指オサエ	1.0~ 3.0mm大の白色・赤色粒を多く含む。	中 2.5Y 8.2 黄白色 2.5Y 8.2 黄白色 2.5Y 8.2 黄白色	反転実測
第 30 國 164 國版	C13B V 100	土 壴 粘 重	(13.2) (7.0) —	口縁部 ヨコナデ 体部外側 ハケ、体部内面 指オサエ・ ヘラケズリ	0.5mm大の白色・黒色粒を多く含む。	硬 10YR 8.2 黄白色 10YR 8.2 黄白色 5YR 7.4 にぶい黄褐色	反転実測
第 30 國 165 國版	C13B T 917	土 壴 粘 重	(14.0) (6.3) —	口縁部 ヨコナデ 体部外側 ハケ、 内面 指オサエ・ヘラケズリ	1.0mm大の白色・赤色粒を含む。	中 10YR 8.2 黄白色 10YR 8.1 黄白色 10YR 8.1 黄白色	反転実測
第 30 國 166 國版	C13C U 918	土 壴 粘 重	(14.6) (11.7) —		1.0mm大の白色・黒色粒を含む。	中 2.5Y 8.2 黄白色 2.5Y 8.2 黄白色 5YR 5.8 明黄色	反転実測
第 31 國 167 國版	C13B T 937+938	土 壴 粘 重	(16.6) (3.5) —	口縁部 ヨコナデ	0.5~ 1.0mm大の白色・黒色粒を含む。	中 7.5YR 7.4 にぶい黄褐色 7.5YR 8.3 黄褐色 7.5YR 8.3 黄褐色	反転実測
第 31 國 168 國版	C13A T 914	土 壴 粘 重	(16.0) (4.7) —	口縁部 ヨコナデ	0.5~ 3.0mm大の白色・黒色粒を含む。	中 7.5YR 7.6 棕色 7.5YR 8.1 棕褐色 7.5YR 7.6 棕色	反転実測
第 31 國 169 國版	C13A T 931	土 壴 粘 重	(13.6) (4.6) —	口縁部 ヨコナデ 体部外側 ハケ、 内面 指オサエ・ヘラケズリ	0.5~ 3.0mm大の白色粒を含む。	硬 10YR 6.2 黄褐色 2.5Y 6.1 黄褐色 2.5Y 6.1 黄褐色	反転実測
第 31 國 170 國版	C13B U 250	土 壴 粘 重	(13.2) (11.7) —		0.5mm以下の白色粉を若干含む。	中 2.5Y 8.4 棕褐色 10YR 8.2 黄白色 10YR 7.1 黄白色	反転実測
第 31 國 171 國版	C13B V 009	土 壴 粘 重	(15.0) (9.8) —	体部内面 指オサエ・ヘラケズリ	2.0mm人の白色・黒色・赤色粒を含む。	中 7.5YR 7.3 にぶい黄褐色 7.5YR 8.3 黄褐色 7.5YR 8.1 黄白色	反転実測
第 31 國 172 國版	C13B U 917	土 壴 粘 重	(14.2) (9.5) —	口縁部 ヨコナデ 体部外側 ハケ、 内面 指オサエ・ヘラケズリ	1.0mm大の白色・赤色粒を含む。	中 10YR 8.2 黄白色 10YR 8.1 黄白色 10YR 8.1 黄白色	反転実測

邦 国 集 団 版	地 区	品 種	I. 計測値 (mm)	性 状	植 土	施 肥	色 調 (外 面) (内 面) (断 面)	備 考
第 31 国 173 國版	C13AT 910	土 鮎 葵 變	(15.0) (10.0) —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ 体部内面 ヘラケズリ	1.0mm 大の白色・黒 色斑を含む。	中	7.5YR 8.2 戊黃綠色 7.5YR 8.4 戊黃綠色 7.5YR 8.4 戊黃綠色	反転実測
第 31 国 174 國版	C13AT 909	土 鮎 葵 變	(14.6) (6.7) —		0.5~ 3.0mm 大の白 色・黒色斑を多く含 む。	軟	7.5YR 7.4 に、5YR 7.4 7.5YR 8.3 黄黄色 7.5YR 8.3 黄黄色	反転実測
第 31 国 175 國版	C13BU 925	土 鮎 葵 變	(16.0) (5.7) —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ 体部内面 ナデ	0.5mm 大の黒色斑を 含む。	硬	3.5Y 8.2 黄白色 10YR 8.5 戊黃綠色 2.5Y 8.1 黄白色	反転実測
第 31 国 176 國版	C13BU 926	土 鮎 葵 變	(15.6) (25.8) —	口縁部外面 ヨコナデ 内面 ハケ 体部外面 ハケ 底部内面 ナデオサエ	2.0mm 大の白色・黒 色・黒色斑を含む。	中	2.5Y 8.1 黄白色 2.5Y 8.1 黄白色 5YR 5.8 明赤褐色	反転実測
第 31 国 177 國版	C13BU 926	土 鮎 葵 變	(12.9) (15.3) —		1.0~ 3.0mm 大の白 色・黒色斑を多く含 む。	中	10YR 6.3 に、5YR 6.3 10YR 8.2 戊黃綠色 10YR 8.3 戊黃綠色	反転実測
第 32 国 178 國版	C13AT 911	土 鮎 葵 變	(10.6) (11.9) —	口縁部外面 ハケのちヨコナ デ 体部外面 ナデ・ハケ。 内面 ヘラケズリ	1.0mm 大の白色・黒 色斑を多く含む。	中	7.5YR 8.1 黄灰色 10YR 6.1 黄灰色 10YR 5.3 に、5YR 5.3	反転実測
第 32 国 179 國版	C13BU 926	土 鮎 葵 變	(9.2) (5.2) —		0.5mm 大の白色斑を 含む。	中	10YR 8.4 戊黃綠色 7.5YR 8.6 錫色 7.5YR 8.6 戊黃綠色	反転実測
第 32 国 180 國版	C13BT 921	土 鮎 葵 變	(8.8) (9.5) —	口縁部 ヨコナデ 体部内面 ナデ	0.5mm 以下の白色斑 を若干含む。	中	10YR 8.2 黄白色 10YR 6.1 黄灰色 10YR 5.1 黄灰色	反転実測
第 32 国 181 國版	C13BT 927	土 鮎 葵 變	(9.0) (5.6) —	口縁部 ヨコナデ	1.0~ 3.0mm 大の白 色・黒色斑を多く含 む。	中	2.5Y 7.1 黄白色 10YR 7.1 黄白色 10YR 8.3 戊黃綠色	反転実測
第 32 国 182 國版	C13BT 933-935	土 鮎 葵 變	(8.8) (8.2) —		0.5mm 以下の白色斑 を若干含む。	軟	10YR 7.3 に、5YR 7.3 10YR 7.4 に、5YR 7.4 10YR 7.4 に、5YR 7.4	一部反転実測
第 32 国 183 國版	C13BU 924	土 鮎 葵 小型丸庭跡	9.6 (6.1) —		1.0~ 3.0mm 大の白 色斑を含む。	軟	5YR 7.6 錫色 7.5YR 7.6 錫色 7.5YR 7.6 錫色	
第 32 国 184 國版	C13AT 904	土 鮎 葵 小型丸庭跡	— (7.3) —		1.0~ 3.0mm 大の白 色斑を多く含む。	軟	10YR 7.4 に、5YR 7.4 10YR 6.1 黄灰色 10YR 6.1 黄灰色	反転実測
第 32 国 185 國版	C13BT 877	土 鮎 葵 變	(6.7) (6.9) —	体部内面 ナデ	0.5~ 1.0mm 大の白 色・黒色斑を含む。	中	2.5Y 8.2 黄白色 2.5Y 8.2 黄白色 10YR 6.4 に、5YR 6.4	反転実測
第 32 国 186 國版	C13BT 922	土 鮎 葵 變	(9.3) (9.5) (5.2) —		0.5mm 以下の白色斑 を若干含む。	硬	2.5Y 8.3 戊黃綠色 5Y 5.1 黄色 2.5Y 8.3 黄黄色	反転実測
第 32 国 187 國版	C13BT 919-923	土 鮎 葵 肥手付木挽	(10.4) (5.7) —		0.5~ 1.0mm 大の白 色・黒色斑を若干含 む。	軟	10YR 5.3 金屬色 10YR 5.3 金屬色 10YR 5.3 金屬色	反転実測
第 32 国 188 國版	C13BT 947	土 鮎 葵 高 环	(16.0) (6.0) —		0.5~ 3.0mm 大の白 色斑を含む。	中	7.5YR 8.4 戊黃綠色 7.5YR 8.6 戊黃綠色 7.5YR 8.3 戊黃綠色	反転実測
第 33 国 189 國版	C13BT 936	土 鮎 葵 高 环	(17.4) (6.1) —	年部外面 ハケ	1.0~ 2.0mm 大の灰 色・黒色斑を含む。	中	10YR 7.6 明黃綠色 10YR 7.1 黄白色 10YR 6.1 黄灰色	反転実測
第 33 国 190 國版	C13BT 945	土 鮎 葵 高 环	(18.6) (5.6) —		1.0~ 3.0mm 大の灰 色斑を含む。	中	10YR 8.2 戊黃綠色 7.5YR 8.5 金屬色 7.5YR 8.6 錫色	反転実測
第 33 国 191 國版	C13BT 947	土 鮎 葵 高 环	(17.8) (8.1) —		0.5mm 大の白色斑を 含む。	中	2.5YR 8.4 戊黃綠色 2.5YR 8.6 戊黃綠色 2.5YR 8.3 戊黃綠色	一部反転実測

種 別 固 形 固 度	地 区 登 記 番 号	基 礦 物 名	計 測 値 ( mm )	技 術 法	粘 土	燒 度	色 調 ( 外 面 内 面 断 面 )	備 考
第33回 192 固形 23	C13BU 916	土 鋼 磷 高 环	19.2 ( 5.5) —		0.5mm大の灰色粒を 含む。	中	7.5YR 7.6 暗褐色 5YR 6.6 暗褐色 5YR 6.6 暗褐色	
第33回 193 固形 23	C13BT 917	土 鋼 磷 高 环	(19.9) ( 5.4) —	环部内面 ハケ	0.5mm大の白色粒を 含む。	中	7.5YR 7.4 にぶい褐色 7.5YR 5.2 淡褐色 10YR 8.3 淡黃褐色	反転実測
第33回 191 固形 23	C13BT 945	土 鋼 磷 高 环	(17.2) ( 5.4) —		0.5mm大の白色・黑 色粒を含む。	中	2.5Y 8.4 淡黃色 2.5Y 8.2 淡褐色 2.5Y 8.2 淡黃色	反転実測
第33回 195 固形 23	C13AT 890	土 鋼 磷 高 环	(17.0) ( 5.5) —	解部外面 ハケ	2.0mm大の灰褐色を 含む。	中	10YR 8.4 淡黃褐色 7.5YR 8.2 淡黃褐色 7.5YR 8.3 淡黃褐色	反転実測
第33回 196 固形 23	C13AT 915	土 鋼 磷 高 环	18.8 ( 5.3) —		0.5mm大の白色粒を 含む。	中	10YR 7.4 にぶい褐色 10YR 6.1 淡褐色 10YR 7.6 淡黃褐色	
第33回 197 固形 23	C13AT 891-902	土 鋼 磷 高 环	(20.8) ( 5.8) —	口縁部 ヨコナデ 环部外面 ナデ・ホセサエ	1.0~ 2.0mm大の白 色・灰・褐色粒を 含む。	中	10YR 8.3 淡黃褐色 7.5YR 7.6 暗褐色 7.5YR 7.6 暗褐色	反転実測
第33回 198 固形 23	C13AT 902-908	土 鋼 磷 高 环	(22.7) ( 7.5) —		0.5~ 3.0mm大の白 色粒を含む。	中	2.5Y 6.6 淡黃色 10YR 8.1 淡黃褐色 7.5Y 6.6 淡黃色	
第33回 199 固形 23	C13AT 896	土 鋼 磷 高 环	— ( 8.3) (11.4)	解部内面 ナデ	0.5~ 3.0mm大の白 色・灰褐色を含む。	中	7.5YR 7.6 暗褐色 5YR 8.3 淡黃色 5YR 8.4 淡黃色	一部反転実測
第33回 200 固形 23	C13AT 898	土 鋼 磷 高 环	— ( 7.6) (11.9)		0.5mm大の白色粒を 含む。	軟	5YR 7.8 暗褐色 5YR 6.8 暗褐色 5YR 7.8 暗褐色	
第33回 201 固形 23	C13BU 219	土 鋼 磷 高 环	— ( 7.4) (13.0)	解部外面 ハウミガキ 解部内面 ナデ	0.5~ 1.0mm大の白 色粒を含む。	硬	10YR 8.1 淡白色 10YR 6.1 淡褐色 10YR 8.1 淡白色	1方向スカシ
第33回 202 固形 23	C13AT 885	土 鋼 磷 高 环	— ( 7.2) (11.0)	解部内面 細り痕	1.0mm大の白色・赤 色粒を含む。	軟	2.5Y 8.3 淡黃色 2.5Y 8.2 淡白色 2.5Y 7.1 淡白色	
第33回 203 固形 23	C13AT 905	土 鋼 磷 高 环	— ( 6.9) (12.0)		0.5mm大の白色粒を 含む。	中	5Y 7.6 暗褐色 5Y 7.6 暗褐色 5Y 7.6 暗褐色	
第33回 204 固形 23	C13AT 873	土 鋼 磷 高 环	— ( 3.0) ( 8.4)	解部外面 ナデ	0.5mm以下の中色粒 を含む。	中	10YR 8.3 淡黃褐色 10YR 8.2 淡白色 10YR 8.2 淡白色	反転実測
第33回 205 固形 23	C13BT 945	土 鋼 磷 高 环	— ( 3.1) (11.2)	解部内面 ハケ	0.5~ 1.0mm大の黑 色粒を含む。	硬	2.5Y 7.1 淡白色 10YR 7.2 にぶい-暗褐色 7.5YR 7.6 暗褐色	反転実測

## 049-O O

第37回 210 固形 23	C13BW 151-153	土 鋼 磷 重	(15.5) ( 6.1) —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ	3.0mm大の白色・褐 色粒を含む。	軟	7.5Y 8.2 淡黃褐色 7.5Y 8.2 淡白色 5YR 6.6 暗褐色	反転実測
第37回 211 固形 23	C13BW 150	土 鋼 磷 重	— ( 2.2) —		2.0mm大の白色粒を 多く含む。	中	7.5YR 7.6 暗褐色 7.5YR 7.4 にぶい-褐色 7.5YR 7.4 にぶい-褐色	

## 050-O O

第37回 212 固形 23	C13BX 182	土 鋼 磷 重	13.1 16.3 —	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ 内面 ラクゼリ・ホセサエ	0.5~ 1.0mm大の白 色・灰褐色を含む。	硬	10YR 7.2 にぶい-暗褐色 10YR 7.2 にぶい-暗褐色 10YR 7.2 にぶい-暗褐色	
-------------------------	--------------	------------	-------------------	-------------------------------------	----------------------------	---	--	--

## 051-OO

序 回 数	地 区	部 位	形 状	計測箇 所	技 法	筋 肉	土	施成	色 調 (外 面) (内 面) (筋 面)	備 考
第37回 213 国版 23	C13BX	土 面 部	(7.9) 9.9 —	口縁部 ロコナゲ 腹部外側 ハケ 体部内面 ナデ・直オサエ	1.0mm以上の白色・褐色を多く含む。	硬	2.5Y 2.5Y 2.5Y	8/2 灰白色 8/2 灰白色 8/2 灰白色	—	—
第37回 214 国版 28	C13BX	土 面 部	(15.8) (15.0) —	体部外側 ハケ	3.0~5.0mm以上の白色・褐色を多く含む。	軟	10YR 5 YR 3 YR	7/1 灰白色 6/6 紅色 6/6 紅色	反転実測	反転実測

## 052-OO

第37回 216 国版 23	C13AX	土 面 部	(8.1) 8.1 —	口縁部 ロコナゲ 体部内面 ナデ	0.5mm以上の白色粒を含む。	中	2.5Y 2.5Y 10YR	7/2 灰黄色 7/1 灰白色 7/4 灰黃褐色	反転実測	—
----------------------	-------	-------	-------------------	---------------------	-----------------	---	----------------------	--------------------------------	------	---

## 053-OO

第37回 216 国版 24	C13AX	上 面 部	(6.9) 6.3 —	—	1.0mm以上の白色・赤色を含む。	軟	10YR 2.5Y	8/2 灰黃褐色 8/2 灰褐色	—	—
----------------------	-------	-------	-------------------	---	-------------------	---	--------------	---------------------	---	---

## 106-OO

第37回 217 国版 24	C06UX	頭 濁 部	9.1 6.3 6.0	口縁部 回転ナデ 体部 ナデ 腹部外側 ヘラ切りのちナデ	0.5mm以下の白色粒を含む。	硬	N N	6/0 灰色 6/0 灰色	—	—
----------------------	-------	-------	-------------------	------------------------------------	-----------------	---	--------	------------------	---	---

## 109-OO

第37回 218 国版	C13AT	土 面 部	(15.1) (3.5) —	—	0.5mm以上の白色粒を含む。	軟	10YR 2.5Y 2.5Y	8/2 灰白色 8/2 灰白色 7/1 灰白色	反転実測	—
第37回 219 国版	C13AT	土 面 部	(20.4) (4.5) —	—	2.0mm以上の白色粒を若干含む。	軟	5 YR 5 YR 5 YR	8/3 灰黄色 8/3 灰黄色 8/3 灰黄色	反転実測	—

## 114-OO

第37回 220 国版 21	C06VV	上 部 部	17.4 36.7 5.3	口縁部外側 ハケ 体部外側 上半 ハテ。下半 ハラミガ + 体部内面 ナデ	0.5mm以下の白色粒を若干含む。	硬	5 YR 7.5Y 10YR	7/4 灰黃褐色 6/1 紅色 8/1 灰白色	—	—
----------------------	-------	-------	---------------------	---	-------------------	---	----------------------	-------------------------------	---	---

## 056-O-S

第38回 221 国版	C09U7	頭 濁 部	(9.8) 4.1 —	口縁部 回転ナデ 天井部外側 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5mm以下の白色粒を含む。	硬	N N N	6/0 灰色 7/0 灰色 8/0 灰色	反転実測	—
第38回 222 国版 24	C09UE	頭 濁 部	(10.7) 3.5 —	口縁部 回転ナデ 天井部外側 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5mm以下の白色粒を含む。	硬	N N 10K	6/0 灰色 6/0 灰色 5/3 灰褐色	反転実測	—
第38回 223 国版 21	C09TC	頭 濁 部	(9.8) 2.5 —	口縁部 回転ナデ 天井部外側 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5mm以下の白色粒を含む。	硬	N N N	7/0 灰白色 7/0 灰白色 7/0 灰白色	反転実測	—
第38回 224 国版 21	C09TD	頭 濁 部	(10.0) (3.1) —	口縁部 回転ナデ 天井部外側 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5mm以下の白色粒を含む。	硬	K K N	7/0 灰白色 7/0 灰白色 7/0 灰白色	反転実測	—

神 奈 都 國 都 區 號	地 區 號	器 種 形	1. 計測部 b.	技 法	粉 土	塊成	色 調 (外 面) (内 面) (底 面)	備 考
第 38 回 225 國版 24	C08TD	頭 電 器 201 环 壁	9.3 3.4 —	口縫部 回転ナデ 体部外側 ナデ・ヘラケメリ 体部内側 ナデ	3.0mm 大の白色粒を 若干含む。	硬	7.5Y 6/1 底色 10Y 7/1 底白色 10Y 7/1 底白色	
第 38 回 226 國版 24	C09UE	頭 意 器 205 环 壁	(9.1) 3.2 —	口縫部 回転ナデ 体部外側 ナデ・ヘラケメリ 体部内側 ナデ	0.5~ 2.0mm 大の白 色粒を含む。	硬	N 7/0 底白色 N 7/0 底白色 2.5Y 8/1 底白色	反射実測
第 38 回 227 國版 24	C09UE	頭 意 器 205 环 壁	(8.4) 2.8 —	口縫部 回転ナデ 体部外側 ナデ・ヘラケメリ 体部内側 ナデ	3.0mm 大の白色粒を 含む。	硬	N 5.0 底色 N 5.0 底色 N 5.0 底色	反射実測
第 38 回 228 國版 24	C00TD	頭 電 器 203 环 壁	(10.0) (2.6) —	口縫部 回転ナデ 体部外側 ナデ・ヘラケメリ 体部内側 ナデ	0.5mm 以下の大白色粒 を含む。	硬	N 7.0 底白色 N 7.0 底白色 5R 6/1 底色	反射実測
第 38 回 229 國版 24	C09UE	頭 意 器 205 环 壁	(9.8) (2.6) —	口縫部 回転ナデ 体部外側 ナデ・ヘラケメリ 体部内側 ナデ	0.5mm 以下の大白色粒 を含む。	硬	N 7/1 底白色 10GY 6/1 鮮黄色 10GY 6/1 鮮黄色	反射実測
第 38 回 230 國版	C09UE	頭 意 器 206 高 壁	— (3.2)	環部 ナデ 脚部 ナデ	0.5mm 以下の白色粒 を含む。	中	10Y 8/1 底白色 10Y 8/1 底白色 10Y 8/1 底白色	反射実測
第 38 回 231 國版	C06RY	頭 意 器 1021 裏	— (6.2)	体部 回転ナデ	1.0mm 大の白色粒を 若干含む。	中	N 7/1 底白色 8/1 底白色 5YR 8/1 底白色	反射実測
第 38 回 232 國版	C09TD	頭 意 器 206 裏	(17.2) (9.2) —	口縫部 回転ナデ 体部内側 タタキ	2.0~ 3.0mm 大の灰 色粒を含む。	軟	10YR 3/1 灰褐色 10YR 6/1 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反射実測 前部外表面にハ リ記号

## 075-O R

第 43 回 234 國版	C17J L 718	介 生 土 益 益	(18.2) (3.7) —	口縫部 ヨコナデ 体部外側 ヘラミガキ	2.0mm 大の白色・黑 色粒を若干含む。 黒色を含む。	硬	10YR 5/3 にぶい黄褐色 10YR 5/3 にぶい黄褐色 10YR 5/3 にぶい黄褐色	反射実測 河内産
第 43 回 235 國版	C17K K 727	介 生 土 益 益	(27.0) (6.3) —	口縫部外側 波状紋、内面 ヨコナデ 腹部外側 ヘラミ ガキ。 内面 ヨコナデ	0.5mm 大の白色粒を 多く含む。	硬	2.5Y 7/2 底黄色 2.5Y 7/2 底黄色 2.5Y 6/1 底黄色	反射実測
第 43 回 236 國版 24	C17OK 256	介 生 土 益 益	23.6 59.0 8.6	口縫部外側 波状紋・履歴紋 体部外側上半 ツタキのむな じ、下半 ヘラミガキ	2.0~ 3.0mm 大の白 色粒を若干含む。	硬	10YR 8/2 底白色 10YR 7/2 にぶい黄褐色 10YR 7/2 にぶい黄褐色	反射実測
第 44 回 237 國版	C17OL 715	介 生 土 益 益	(21.4) (3.0) —	口縫部外側 凹形浮出紋 口縫部内側 背突紋	0.5~ 1.0mm 大の白 色粒を多く含む。	中	7.5Y 8/2 既黃褐色 2.5Y 8/3 既黃褐色 2.5Y 8/3 既黃褐色	反射実測
第 44 回 238 國版	C17Q K 769	介 生 土 益 益	(16.3) (3.8) —	口縫部 ヨコナデ 腹部外側 ハケ 腹部内側 ハケ	0.5mm 大の白色・灰 色粒を多く含む。	中	7.5YR 8/3 既黃褐色 10YR 8/1 底白色 10YR 8/1 底白色	反射実測
第 44 回 239 國版	C17M M 714	介 生 土 益 益	(15.6) (9.8) —	—	0.5~ 3.0mm 大の白 色・灰色・褐色粒を 含む。	軟	10YR 8/2 底白色 10YR 8/2 底白色 5YR 8/3 褐褐色	反射実測
第 44 回 240 國版	C17Q K 758	介 生 土 益 益	(19.6) (4.8) —	口縫部 ヨコナデ 腹部ナデ	0.5mm 大の白色・灰 色粒を含む。	中	2.5Y 7/3 既黃褐色 2.5Y 8/3 既黃褐色 2.5Y 8/3 既黃褐色	反射実測
第 44 回 241 國版 30	—	介 生 土 益 益	(16.8) (5.9) —	口縫部 ヨコナデ 腹部外側 ヘラミガキ	0.5mm 大の白色・灰 色粒を含む。	中	2.5Y 7/2 底黄色 2.5Y 7/2 底黄色 2.5Y 7/1 底白色	反射実測
第 44 回 242 國版 30	C17LK 719	介 生 土 益 益	(20.0) (7.0) —	口縫部 ヨコナデ 腹部外側 ハケ 腹部内側 ナデ	0.5mm 以下の白色粒 を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 8/2 底白色 2.5Y 5/1 底黄色	反射実測
第 44 回 243 國版	C17KK 716	介 生 土 益 益	(19.4) (7.2) —	—	0.5~ 4.0mm 大の白 色・灰色粒を含む。	軟	10YR 7/4 にぶい黄褐色 10YR 7/4 にぶい黄褐色 10YR 7/4 にぶい黄褐色	反射実測

神奈 縣 板	地 区 登 記 番 号	品 種 形 状	1. 計測値 mm	技 法	新 土	硬 度	色 調 (外 面) (内 面) (底 面)	備 考
第 44 国 349 試版	C17N J 665	粉生土 塵 草	(21.0) (7.0) —	口縁部 ナデ 体部外層 ハケ	0.5~1.0mm 大の白色・灰色粒を多く含む。	中	10YR 7.2 に近い黄褐色 2.5Y 7.3 该黄色 2.5Y 7.3 该黄色	反転実測
第 44 国 349 試版	C17K L 721	粉生土 塵 草	(16.0) (6.2) —	口縁部 ヨコナデ 体部外層 ハケ 体部内層 ヘラミガキ	0.5mm以下の白色粒を若干含む。	硬	10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色	反転実測 外面スス付着
第 44 国 296 試版	C17K L 727	粉生土 塵 草	(15.4) (6.2) —	口縁部 ナデ 体部外層 ハケ	0.5~1.0mm 大の白色粒を含む。	硬	2.5Y 7.3 该黄色 2.5Y 7.3 该黄色 2.5Y 7.3 该黄色	反転実測 外面スス付着
第 44 国 297 試版	C17K L 721	粉生土 塵 草	(16.0) (6.7) —	口縁部 ヨコナデ	0.5~1.0mm 大の白色粒を含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第 44 国 298 試版	— 761	粉生土 塵 草	(12.9) (4.0) —	口縁部 ヨコナデ 体部内層 ナデ	0.5mm以下の白色粒を多く含む。	中	2.5Y 8.3 淡黄色 7.5Y 7.6 橙色 2.5Y 8.3 淡黄色	反転実測
第 44 国 299 試版	C17Q K 758	粉生土 塵 草	(15.6) (5.9) —	口縁部 ヨコナデ 体部外層 側突粒 体部内層 ナデ	0.5~3.0mm 大の白色粒を含む。	中	10YR 6.2 底褐色 7.5YR 4.2 底褐色 10YR 5.1 底灰色	反転実測
第 44 国 300 試版	C17J L 718	粉生土 塵 苔	(6.2) (12.2) —	—	0.5mm 大の白色粒を多く含む。	中	2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第 44 国 301 試版	C17L K 719	粉生土 塾 苔	(2.7) (1.7) —	底部内層 ナデ	0.5mm 大の白色粒を多く含む。	中	10YR 7.3 に近い黄褐色 2.5Y 8.2 灰白色 2.5Y 8.2 灰白色	反転実測
第 44 国 302 試版	C17Q K 758	粉生土 塾 苔	(2.6) (8.0) —	底部内層 ナデ	0.5mm 大の白色粒を含む。	硬	N 3.0 暗灰色 5.5Y 5.1 暗色 N 4.0 暗色	反転実測
第 44 国 303 試版	C17J K 721	粉生土 塾 苔	(7.4) (8.6) —	—	3.0~5.0mm 大の白色・灰色粒を含む。	軟	10YR 7.6 明黄色 2.5Y 8.2 底白色 2.5Y 7.3 淡黄色	反転実測
第 45 国 254 試版	C17J M 125	粉生土 塾 塵	(11.0) (4.7) —	口縁部 ナデ 体部外層 ハケ 体部内層 植ナデ	0.5mm以下の白色粒を若干含む。	中	7.5YR 5.3 に近い褐色 7.5YR 5.3 に近い褐色 7.5YR 5.3 に近い褐色	反転実測
第 45 国 255 試版	— 764	粉生土 塾 塵	(14.8) (3.9) —	口縁部 ヨコナデ 体部外層 ナデ	0.5mm以下の白色・灰色粒を含む。	硬	10YR 7.2 に近い黄褐色 2.5Y 8.2 底白色 2.5Y 8.2 底白色	反転実測
第 45 国 256 試版	— 764	粉生土 塾 塵	(16.0) (3.4) —	口縁部外層 ヨコナデ、内層 ハケ 内層 植ナデ	0.5mm 大の白色粒を含む。	中	7.5YR 5.3 底褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色	反転実測 外面スス付着
第 45 国 257 試版	C17J L 726	粉生土 塾 塵	(15.6) (9.8) —	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	0.5~1.0mm 大の白色粒を含む。	硬	10YR 7.2 に近い黄褐色 10YR 5.2 底褐色 2.5Y 8.2 底白色	反転実測
第 45 国 258 試版	C17J K 721	粉生土 塾 塵	(17.0) (7.0) —	口縁部 ヨコナデ 体部外層 ハケ 体部内層 ナデ	0.5mm以下の白色粒を多く含む。	中	10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色 10YR 7.3 に近い黄褐色	反転実測 外面スス付着
第 45 国 259 試版	C17Q K 772	粉生土 塾 塵	(15.0) (4.7) —	口縁部 ヨコナデ 体部外層 ハケ	0.5mm以下の白色粒を若干含む。	中	10YR 8.2 底白色 10YR 8.2 底白色 7.5Y 8.3 淡褐色	反転実測
第 45 国 260 試版	— 764	粉生土 塾 塵	(22.0) (7.1) —	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	0.5mm 大の灰色粒を含む。	中	N 4.0 灰色 10YR 6.2 に近い黄褐色 10YR 7.4 に近い黄褐色	反転実測
第 45 国 261 試版	C17O K 757	粉生土 塾 塵	(22.0) (12.1) —	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	1.0mm 大の白色粒を若干含む。	硬	10YR 5.2 底黃褐色 10YR 5.2 に近い褐色 7.5YR 7.3 に近い褐色	反転実測 外面スス付着
第 45 国 262 試版	— 764	粉生土 塾 塵	(26.0) (8.5) —	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	0.5mm 大の白色粒を若干含む。	中	10YR 8.3 淡黃褐色 10YR 8.3 淡黃褐色 10YR 8.3 淡黃褐色	反転実測 外面スス付着

辨 別 版 図	地 区	基 礦 類 型	1. 計測値 b. —	技 術	熟 土	硬度	色 調 (外 面) (内 面) (野 面)	備 考
第45回 263 図版	——	非生土 基 礦	(30.3) (4.8) —	口縁部 ヨコナダ 体部 ハケ	0.5mm以下の白色粒 を若干含む。	中	2.5Y 2.5Y 2.5Y 8/2 黄白色 8/2 黄白色 8/2 黄白色	反転実験 外面スズ付着
第45回 264 図版 30	C17Q L	非生土 基 礦	(28.6) (7.4) —	口縁部 ヨコナダ 体部 ハケ	0.5mm以下の白色粒 を含む。	硬	2.5Y 2.5Y 2.5Y 8/2 黄白色 8/2 黄白色 8/2 黄白色	反転実験 外面スズ付着
第45回 265 図版	C17L K	非生土 基 礦	(32.6) (8.2) —	口縁部 ヨコナダ	0.5~ 5.0mm大の白 色粒を含む。	中	10YR 2.5Y 2.5Y 8/2 黄白色 8/2 黄白色 8/2 黄白色	反転実験
第46回 266 図版	C17P L	非生土 基 礦	(34.8) (8.4) —	体部外側 ハケ	0.5mm大の白色・灰 色粒を多く含む。	中	2.5Y 2.5Y 2.5Y 8/2 黄白色 8/2 黄白色 8/2 黄白色	反転実験
第46回 267 図版	C17K K	非生土 基 礦	(36.0) (8.7) —	口縁部 ヨコナダ	0.5~ 2.0mm大の白 色・灰色粒を多く含 む。	硬	2.5Y 2.5Y 2.5Y 8/2 淡黄色 8/2 黄白色 8/2 黄白色	反転実験
第46回 268 図版 24	C17O K	非生土 基 礦 水溶形上部	(9.6) (14.8) —	口縁部 ヨコナダ 体部外側 波状紋・直線紋 体部内側 雪オサエ	0.5mm以下の白色・ 灰色粒を含む。	硬	2.5Y 2.5Y 2.5Y 8/2 黄白色 8/2 黄白色 8/2 黄白色	反転実験
第46回 269 図版	——	非生土 基 礦	(9.4) —	脚部外側 ヘラミガキ	0.5~ 1.0mm大の白 色粒を含む。	硬	7.5YR 7.5YR 7.5YR 5/2 黄褐色 5/2 黄褐色 5/1 黄褐色	反転実験
第46回 270 図版	C17P L	非生土 基 礦	(4.7) (15.5) —	脚部外側 ヘラミガキ 脚部内側 ナダ	0.5mm大の白色・灰 色・黑色粒を多く含 む。	中	2.5Y 7.5YR 7.5YR 4/1 黄褐色	反転実験
第46回 271 図版	C17J K	非生土 基 礦 高年	(23.4) (3.6) —	口縁部 ヨコナダ	1.0mm以上の白色・ 灰色粒を含む。	軟	2.5Y 2.5Y 2.5Y 8/3 淡黄色 8/3 淡黄色 8/3 淡黄色	反転実験
第46回 272 図版	C17O J	非生土 基 礦 高年	(25.0) (5.5) —	——	0.5~ 2.0mm大の白 色粒を多く含む。	硬	10YR 2.5Y 2.5Y 8/2 淡白色 8/3 淡黄色 8/3 淡黄色	反転実験
第46回 273 図版	C17K L	非生土 基 礦 高年	(22.0) (4.0) —	——	1.0mm大の白色粒を 若干含む。	中	2.5Y R 10Y R 10Y R 7/4 淡赤褐色 8/2 淡白色 8/2 淡白色	反転実験
第46回 274 図版	——	非生土 基 礦 高年	(20.8) (5.9) —	口縁部 ヨコナダ 环部内側 ヘラミガキ	0.5mm以下の白色・ 灰色粒を多く含む。	中	2.5Y 10Y R 10Y R 8/2 淡白色 7.3 に近い黄褐色 7.3 に近い黄褐色	反転実験
第46回 275 図版	C17Q K	非生土 基 礦 鉱	(54.6) (8.1) —	口縁部 ヨコナダ	0.5~ 1.0mm大の白 色・灰色粒を多く含 む。	硬	10Y R 2.5Y 2.5Y 7/2 に近い黄褐色 7/2 淡黄色 7/2 淡黄色	反転実験

## 124-O-S

第47回 276 図版	C21FW	重 慈 基 年 身	(9.7) (2.2) —	口縁部 回転ナダ	1.0mm大の白色粒を 含む。	硬	N N N 7/0 黄色 7/0 黄色 7/0 黄色	反転実験
第47回 277 図版	C21FW	重 慈 基 年 身	(16.9) 4.9 (11.9) —	口縁部 回転ナダ 体部外側 ヘラケズリ	1.0mm大の白色粒を 含む。	硬	N 10Y N 7/0 黄白色 8/1 黄白色 7/0 黄白色	反転実験 外面に黒苔

## 083-O-S

第49回 258 図版	C16YW	土 質 質 泥 質	(21.0) (8.8) —	口縁部 ヨコナダ 体部外側 ヘラケズリ 体部内側 ナダ	0.5mm大の白色粒を 含む。	硬	7.5YR 7.5YR 7.5YR 6/6 細色 6/6 細色 6/6 細色	反転実験
第49回 259 図版	C17WC	瓦 質 泥 質	(26.4) (7.6) —	口縁部 ナダ	0.5mm大の白色粒を 含む。	硬	N N 2.5GY 5/0 細色 6/0 細色 8/1 黄白色	反転実験

種類 別 版	地 区	形 態	計測値 mm	方 法	物 土	度	色 調 (外 面) (内 面) (基 面)	備 考
第 49 国 290 国版	C17VB 728	瓦 質 錠	(27.5) (6.3) —	口縁部 ヨコナダ 体部内面 ハケ、スリ目	0.5mm以下の白色粒 を含む。	硬	N N 7.5Y	5.0 灰色 4.0 灰色 8.1 灰白色
第 49 国 281 国版	C16XY 727	瓦 器 錠	(12.4) (3.7) —	口縁部 ヨコナダ 体部外表面 オリエ 体部内面 ヘラミヨキ	0.5mm以下の白色粒 を含む。	硬	N N	6.0 灰色 6.0 灰色

### 078-O R

第 51 国 282 国版	C16YX 731	瓦 質 錠	(14.6) (4.4) —	口縁部 ヨコナダ 体部外表面 ヘラケズリ	0.5~1.0mmの大白 色粒を含む。	硬	N N 7.5Y	3.0 灰灰色 3.0 灰灰色 8.1 灰白色
第 51 国 283 国版	C16YX 745	瓦 質 錠	(31.0) (4.0) —	口縁部 ヨコナダ 体部内面 ハケ	0.5mm以下の白色粒 を含む。	硬	N N 7.5Y	6.0 灰色 6.0 灰色 8.1 灰白色
第 51 国 284 国版	C16YX 731	瓦 器 錠	(13.2) (2.4) —	口縁部 ヨコナダ	0.5mm以下の白色粒 を含む。	硬	N N 7.5Y	4.0 灰色 5.0 灰色 8.1 灰白色
第 51 国 285 国版	C16YX 745	瓦 器 錠	(2.2) (6.2) —	底部内面 ヘラミヨキ	0.5mmの大白色粒を 含む。	硬	N N N	4.0 灰色 5.0 灰色 8.0 灰白色

### 081-O R

第 52 国 286 国版	—	織紋土 質 錠	(14.6) (4.8) —	口縁部 ナデ 体部外表面 ケズリ	1.0mmの大白色粒を 含む。 黒母を含む。	中	2.5Y 7.5Y 7.5Y	3.2 黑褐色 3.2 黑褐色 3.2 黑褐色
第 52 国 287 国版	C17TH 980	土 或 質 土 質 錠	10.0 x 7.2	ナデ	0.5mm以下の白色粒 + 灰色粒を含む。	硬	2.5Y	7.2 灰黄色

### 068-O R

第 56 国 290 国版 25	C21KP 556	織紋土 質 深 林	(7.2) —	口縁部外表面 ナデ 体部内面 滅オサエ	1.0~2.0mmの大白 色粒を含む。 黒母を含む。	中	7.5YR 7.5YR 7.5YR	5.1 灰褐色 5.1 灰褐色 4.1 灰褐色
第 56 国 290 国版 25	C21OJ 561	織紋土 質 深 林	(10.0) —	体部外表面 ミガキ・条痕 底紋開 織紋 体部内面 構方向の巻貝条痕	1.0mmの大白色粒を 含む。	中	10YR 10YR 10YR	8.2 灰白色 7.2 C.45° 黄褐色 7.2 C.45° 黄褐色
第 56 国 290 国版 25	—	織紋土 質 深 林	(10.0) —	口縁部外表面 ナデ 体部内面 ナデ	1.0~2.0mmの大白 色粒を含む。 黒母を含む。	硬	5Y 7.5Y 5Y	2.1 黑色 4.1 灰色 6.1 灰色

### 065-O R

第 58 国 291 国版 26	—	織紋土 質 深 林	(18.8) (6.4) —	口縁部外表面 深緑 口縁部内面 ナデ	1.0~2.0mmの大白 色粒を含む。 黒母を含む。	硬	5Y 7.5Y 5Y	2.1 黑色 4.1 灰色 6.1 灰色
第 58 国 292 国版 26	—	織紋土 質 深 林	(35.0) (8.9) —	口縁部 ニセ共条痕	1.0mmの大白色粒を 含む。	中	7.5YR 10YR 10YR	6.3 C.45° 黄褐色 8.4 明黄褐色 7.2 C.45° 黄褐色
第 58 国 293 国版 26	C21TQ 453	織紋土 質 深 林	(36.0) (8.2) —	口縁部外表面 二枚共条痕 口縁部内面 共条	1.0mmの大白色粒を 含む。	中	10YR 10YR 10YR	3.2 黑褐色 6.6 明黄褐色 6.6 明黄褐色
第 58 国 294 国版 26	C21WII 960	織紋土 質 深 林	(12.3) —	体部外表面 上 二枚共条痕 体部外表面 下 滅紋 体部内面 二枚共条痕	1.0mmの大白色粒を 含む。 黒母を含む。	硬	10YR 2.5Y 10YR	2.2 黑褐色 2.1 黑色 2.2 黑褐色

## 064-O R

種 類 固 形	地 区	目 標 形	計測値 ( cm )	技 法	底 上	被成 分	(外 面) 色 調 (内 面) (新 聞)	備 考
第 62 図 297 固形 25	C21S F	織紋土器	(5.1)	外面 織紋・沈縫	1.0mm 大の白色粒を含む。	硬	10YR 6/2 黄褐色 10YR 4/1 黄灰色 10YR 6/2 黄褐色	
第 62 図 298 固形 25	C21Q F	織紋土器	(5.8)	外面 織紋・沈縫	1.0mm 大の白色粒を含む。	軟	2.5Y 3/2 黑褐色 2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色	
第 62 図 299 固形 25	C21Q F	織紋土器	(4.9)	外面 織紋	1.0mm 大の白色粒を含む。	軟	2.5Y 3/2 黑褐色 2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色	
第 62 図 300 固形 25	C21Q F	織紋土器	(4.8)	外面 織紋	1.0mm 大の白色粒を含む。	軟	2.5Y 3/2 黑褐色 2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色	
		深 筋						

## 069-O R

第 63 図 301 固形	C21M P	浮生土器 輪窓形土器	6.0 9.2	体部内面 斜オサエ	3.0~ 5.0mm 大の白色・灰白色・黑色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色	
	425							

## 062-O R

第 65 図 302 固形 24	C21K Q	浮生土器 要	10.4 17.5 4.4	口縁部 ココナデ 体部外側 ハケ・タキ、内面 ナデ +ハケ 体部外側 斜オリエ	0.5mm 以下の白色粒を若干含む。	中	10YR 8/2 黄白色 10YR 6/2 黄褐色 5YR 3/2 淡褐色	
第 65 図 303 固形 24	C21K Q	浮生土器 基	(15.8) 8.9 4.2	口縁部 ココナデ 体部外側 タキ	2.0mm 大の白色・灰白色粒を含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄褐色 10YR 7/2 にぶい黄褐色 10YR 7/2 にぶい黄褐色	一部反転実測
第 65 図 304 固形 24	C21K Q	浮生土器 高 壁	(21.1) (11.6) —	脚部外側 ヘラミガキ 脚部内側 ハケ	0.5mm 以下の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 8/3 淡黃褐色 7.5YR 4/1 淡褐色 7.5YR 4/1 淡褐色	一部反転実測 3 方向スカシ
第 66 図 305 固形 24	C21N P	浮生土器 要	13.8 (3.5) —	口縁部 ナデ 体部外側 ヘラミガキ 体部内側 ハケ	0.5mm 大の白色・灰色粒を含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄褐色 2.5Y 8/3 淡黃褐色 2.5Y 5/1 淡褐色	
第 66 図 306 固形 24	C21J Q	浮生土器 要	(19.2) (7.2) —		0.5~ 1.0mm 大の白色粒を含む。	硬	10YR 8/3 淡黃褐色 2.5Y 7/1 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色	反転実測
第 66 図 307 固形	C21M P	浮生土器 筋	(12.0) (7.7) —	口縁部 ナデ 体部外側 タキ 体部内側 ヘラケズリ	1.0mm 大の白色・灰色粒を含む。	中	5YR 7/4 にぶい黄褐色 5YR 7/6 淡褐色 5YR 7/6 淡褐色	反転実測
第 66 図 308 固形	C21N P	浮生土器 要	— (3.6) 4.9	体部外側 タキ	1.0~ 3.0mm 大の白色粒を含む。	中	2.5Y 6/1 黄灰色 2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色	
第 66 図 309 固形	C21K Q	浮生土器 要	(4.3) 4.4	体部外側 タキ 体部内側 ハケ 底部外側 ナデ	2.5mm 大の白色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 8/2 黄白色 2.5Y 6/1 黄灰色	
第 66 図 310 固形	C21MQ	浮生土器 高 壁	(22.0) (5.5) —		1.0~ 3.0mm 大の白色粒を含む。	中	7.5YR 8/6 淡黃褐色 7.5YR 8/6 淡黃褐色 7.5YR 8/6 淡黃褐色	反転実測
第 66 図 311 固形	C21K Q	浮生土器 高 壁	(22.6) (3.2) —		0.5mm 以下の白色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 黄褐色 2.5Y 8/2 黄褐色 7.5YR 7/3 にぶい黄褐色	反転実測
第 67 図 312 固形	C21K Q	浮生土器 器 台	(15.4) (2.8) —	脚部外側 ココナデ	0.5mm 以下の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 7/3 にぶい黄褐色 7.5YR 7/3 にぶい黄褐色 2.5Y 8/2 黄白色	反転実測

地 点 名 称 固 化 試 験 番 号	地 区 名 称 固 化 試 験 番 号	器 形 名 称 固 化 試 験 番 号	種 類 名 称 固 化 試 験 番 号	1. 計測值 b. —	性 状 法 —	粘 土 —	性 状 硬 —	色 調 (外 面) (内 面) (断 面)	考 察
第 67 固 化 313 試験 26	C21KQ 313 816	繩文土器 縄型浅鉢	(21.0) (3.5) —	口縁部 研磨	1.0mm 大の白色粒を 含む。 黒母を含む。	—	硬	7.5YR 5/2 底褐色 10YR 3/1 黑褐色 7.5YR 5/2 底褐色	反転実測
第 67 固 化 314 試験 26	C21MP 314 816	繩文土器 縄型浅鉢	(27.8) (4.2) —	口縁部 研磨	1.0mm 大の白色粒を 含む。 黒母を含む。	—	中	10YR 3/2 黑褐色 10YR 2/1 黑色 10YR 3/2 黑褐色	反転実測
第 67 固 化 315 試験 26	C21KQ 315 817	繩文土器 深鉢	(28.0) (6.4) —	口縁部 ナデ 体部外面上半 ケズリ	1.0mm 大の白色粒を 含む。	—	中	10YR 7/2 にぶい黄褐色 10YR 4/1 黄褐色 10YR 7/2 にぶい黄褐色	反転実測
第 67 固 化 316 試験 26	C21MQ 316 817	繩文土器 浅鉢	(34.0) (9.4) —	外表面 条痕	1.0~ 2.0mm 大の白 色粒を含む。黒母、 シモモットを含む。	—	軟	10YR 5/3 にぶい黄褐色 10YR 5/6 黄褐色 10YR 5/3 にぶい黄褐色	反転実測
第 67 固 化 317 試験 26	C21MQ 317 817	繩文土器 深鉢	(40.0) (11.0) —	口縁部外側 ナデ・ケズリ 口縁部内側 ナデ	1.0~ 3.0mm 大の白 色粒を含む。	—	中	7.5YR 4/2 底褐色 7.5YR 4/1 黄褐色 7.5YR 4/1 黄褐色	反転実測
第 67 固 化 318 試験 26	C21MQ 318 817	繩文土器 浅鉢	(—) (2.5) —	口縁部 ナデ	0.5~ 1.0mm 大の白 色・赤色粒を含む。	—	中	2.5Y 4/2 黄褐色 2.5Y 4/2 黄褐色 2.5Y 4/2 黄褐色	—
第 67 固 化 319 試験 26	C21KQ 319 817	繩文土器 深鉢	(—) (4.5) —	—	1.0~ 2.0mm 大の白 色粒を含む。	—	中	10YR 7/3 にぶい黄褐色 10YR 6/4 にぶい黄褐色 10YR 6/4 にぶい黄褐色	—
第 67 固 化 320 試験	C21NP 320 818	繩文土器 底 刃	(—) (2.2) (5.5)	—	1.0~ 3.0mm 大の白 色粒を含む。 黒母を含む。	—	軟	2.5Y 5/3 黄褐色 2.5Y 4/1 黄褐色 2.5Y 4/1 黄褐色	反転実測

名	地 図 面 積 登 録 番 号	地 区	種 類	規 格	最 長 度	最 大 厚 度	材 質	備 考
19	第 6 地 図版 27 652	C21P1	石 磚 丁	13.1 4.5	0.9 77.0	砂 混 片 砂		
20	第 6 地 図版	C21T1	石 磚 丁	7.7 5.4	0.5 36.9	砂 混 片 砂		
21	第 6 地 図版	C21TJ	石 磚 丁	6.4 2.8	0.6 12.0	砂 混 片 砂		
22	第 6 地 図版 27 362	C21TG	石 磚	2.2 1.5	0.3 0.63	サスカイト		
23	第 6 地 図版 27 417	C21MK	石 磚	2.1 1.6	0.3 0.7	サスカイト		
24	第 6 地 図版 27 137		石 磚	2.5 1.3	0.6 1.8	サスカイト		
25	第 6 地 図版 27 426	C21HJ	石 磚 未 製 品	3.6 2.3	0.8 4.3	サスカイト		
26	第 6 地 図版	C21MJ	石 磚 の 未 製 品	3.6 3.0	0.8 8.6	サスカイト		
27	第 6 地 図版		ス ク レ イ バ ー	2.0 1.5	0.4 1.3	サスカイト		
28	第 7 地 図版	C13UF	ス ク レ イ バ ー	6.4 4.3	0.8 27.5	サスカイト		
29	第 7 地 図版 27		二 次 加 工 の ある 刃 片	5.4 4.2	0.9 19.2	サスカイト		
30	第 7 地 図版 27 119	C13JO	二 次 加 工 の ある 刃 片	2.6 3.0	0.8 5.6	サスカイト		
31	第 7 地 図版 27 30	C13VE	二 次 加 工 の ある 刃 片	4.6 3.9	0.9 16.0	サスカイト		
32	第 7 地 図版	C13GL	ス ク レ イ バ ー	10.2 5.3	1.2 47.7	サスカイト		
33	第 7 地 図版		石 磚	4.9 1.8	2.7 23.7	サスカイト		
34	第 7 地 図版 27 560	C21HO	石 磚	6.0 5.2	1.6 41.7	サスカイト		
35	第 7 地 図版		石 磚	5.7 3.2	1.4 31.6	サスカイト		
36	第 7 地 図版 27 121	C13KN	石 磚	5.6 5.1	3.0 90.2	サスカイト		

## 003-OO出土石器

No.	番 号	地 区	種 類	規 格	最 大 厚	材 質	備 考
37	第 12 図 図版 28	C13VE 72	スクレイバー	4.9 2.4	1.1 11.6	サスカイト	

## 008-OO出土石器

38	第 12 図 図版 28	C13FQ 133	石 砕	2.6 2.2	0.3 1.0	サスカイト	
39	第 12 図 図版 28	C13GS 129	石 砕	5.8 4.76	0.9 17.8	サスカイト	

## 054-OR出土石器

42	第 15 図 図版 28	C08SW 195	スクレイバー	3.0 1.3	0.8 2.2	サスカイト	
43	第 15 図 図版 28	C08RC 820	石 刺	19.1 3.8	1.5 147.6	サスカイト	

## 055-OR出土石器

97	第 21 図 図版	C09XB 297	石 砕	34.0 17.3	6.9 約6800		
98	第 21 図 図版	C08YW 327	石 砕	9.6 10.0	4.0 597.4		054-OR・055-ORいずれの出土 か不明
99	第 21 図 図版	C08XB 330	石 砕	12.2 14.0	7.5 1331.8		054-OR・055-ORいずれの出土 か不明

## 007-OS出土石器

206	第 34 図 図版	C13AT 913	司 石	4.9 10.2	3.6 306.3		
207	第 34 図 図版	C13BT 911・916	砥 石	17.5 12.2	4.3 1066.1		
208	第 34 図 図版 28	C13AT 912	勾 玉	17.2 0.9	4.0 0.9	青 石	
209	第 34 図 図版	C13BT 912	砥 石	6.8 3.1	2.6 49.8		

## 075-OR出土石器

233	第 42 図 図版 28	771	石 砕	4.3 1.1	0.5 2.0	サスカイト	
-----	-----------------	-----	-----	------------	------------	-------	--

## 065-OR出土木製品・石器

No.	地 図 四 版 番 號	地 区 名 称 及 其 他 記 號	種 類	現 長 度	最 大 厚 度	材 質	備 考
295	第59回 四版	C21OY	棒 材	90.8 12.7	13.6 —	木	
296	第60回 四版 28	C12P1 456	スクレイバー	4.0 7.3	1.0 29.1	セヌカイト	

## 062-OS出土石器

321	第68回 四版	C21NQ 817		3.9 4.2	2.1 6.4		
-----	------------	--------------	--	------------	------------	--	--



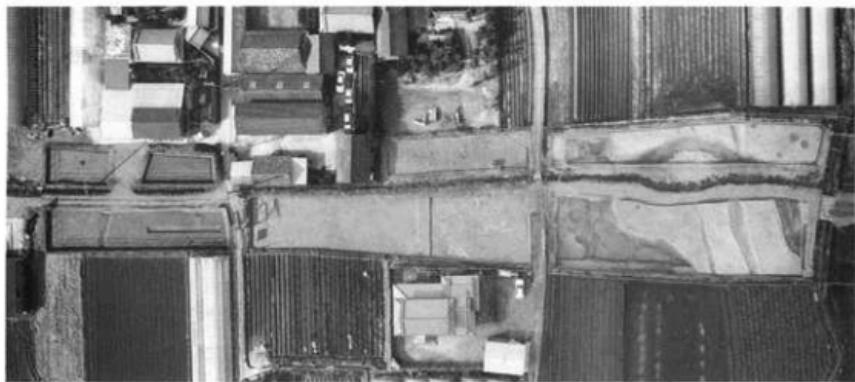
# 図 版



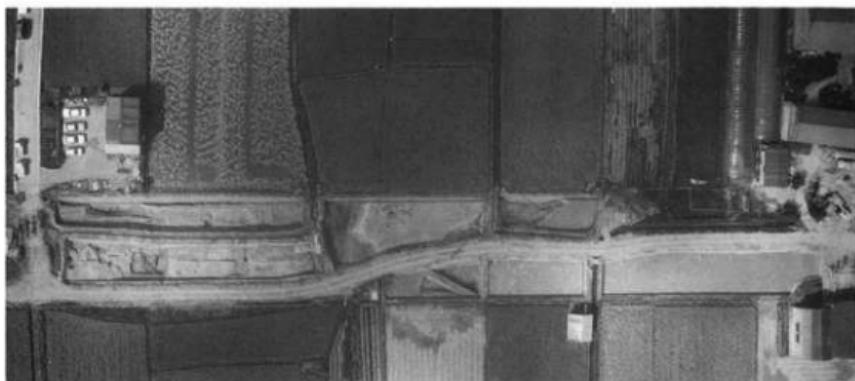
小田道路から軽部池・摩湯山古墳を望む



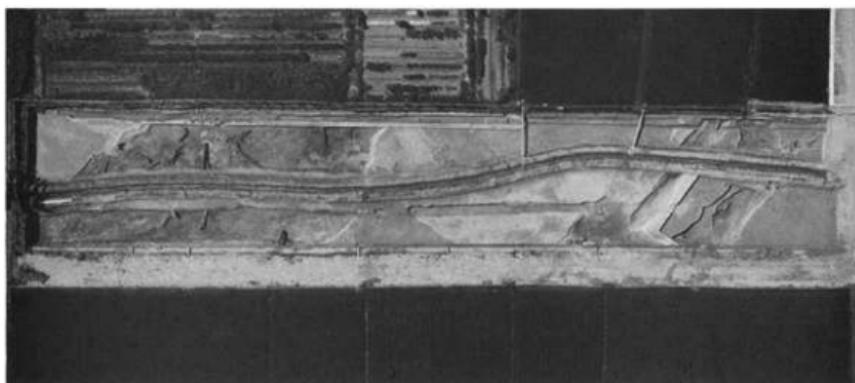
遺跡全景（航空写真）



a 第Ⅰ調査区全景（航空写真）



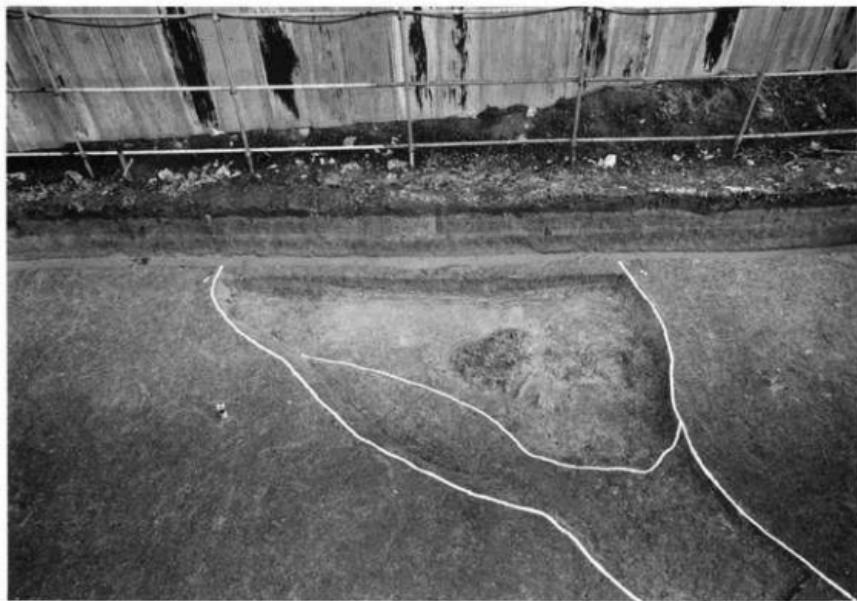
b 第Ⅱ調査区全景（航空写真）



c 第Ⅲ調査区全景（航空写真）



a 002-O S 近景（西から）



b 008-O O 近景（北から）



a 054-O R、055-O R 全景（西から）



b 054-O R、055-O R 全景（西から）